

EPSON

取扱説明書

Offirio
オフィリオ プロジェクター

EMP-835
EMP-830



ダイレクトにパワーオン

電源ケーブルを接続するだけで投写開始状態にすることができます。会議室など、電源を集中管理している場所では、管理元の主電源を入れるだけで、まとめて電源を入れられます。

☛ 環境設定メニューの「拡張設定」 p.75

ダイレクトにパワーオフ

[電源]ボタンを押さずに、電源を切ってもかまいません。例えば、会議室など電源を集中管理している場所ではブレーカーを落として、まとめて電源を切ることもできます。☛ p.40

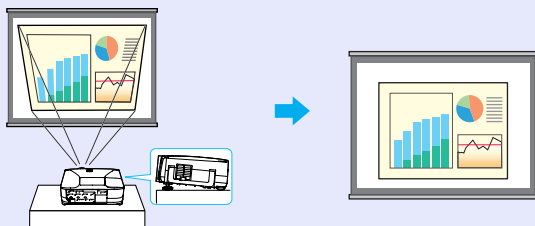
本機の電源を切った後は、すぐに電源ケーブルを抜いて本機を移動させることができます。

また、いったん電源を切った後もすぐに再起動操作ができます。

簡単操作でクイックスタート(1)

投写が始まると即座にオートフォーカスが働き、くっきりとした映像になります。

本機の上下方向の傾きを検知し、投写映像の台形ゆがみを自動的に補正します。☛ p.33



簡単操作でクイックスタート(2)

本体操作パネルの一番上に、次の簡単セットアップボタンを配置しました。これらのボタンを押すだけで、簡単に素早く最適な状態で投写できます。



● QuickSetup ーワンタッチで投写画面を最適にー ☛ p.38

以下の機能をまとめて実行し、最適な投写画面にします。どの機能を実行するか設定することもできます。

- オートフォーカス
ピントが合います。

● AutoQuickCorner



サイドからのゆがんだ投写映像も長方形(4:3の比率)に整えます。4:3のスクリーンがあるときは、スクリーンぴったりにできます。

● Wall Shot



スクリーンのない場所でも映像本来の色を損なわずに投写できます。黒板や壁などに投写しても、映像本来の色に自動調整できます。

● 入力検出(Search) ー投写映像を簡単選択ー ☛ p.34

接続している機器の映像信号を自動検出して投写します。押すたびに映像を切り替えることができます。

● ズーム ー投写サイズを簡単調整ー ☛ p.37

簡単なボタン操作で投写サイズを調整できます。

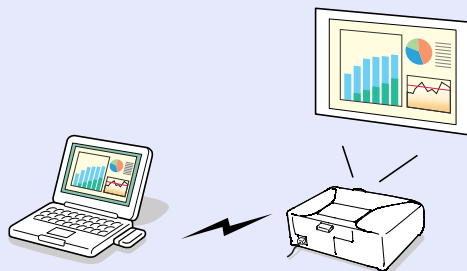


ネットワークに対応

投写中のランプ切れなどプロジェクターに異常が発生した場合に、プロジェクターから電子メールで状態を通知させることができます。

さらに EMP-835 をお使いの場合は、EasyMPを使って

- 無線LANを使って簡単にコンピュータと接続できます。
- ネットワークに接続しているコンピュータの映像を投写できます。



☛ EasyMP の使い方『EasyMP ネットワーク設定ガイド』『[EasyMP 活用ガイド](#)』

大容量USBストレージに対応

(EMP-835のみ)

USB 対応のデジタルカメラはもちろん、USB ハードディスク、USB メモリも使用できます。容量の大きなシナリオを使ったプレゼンテーションにも対応できます。☛ [p.29](#)、『EasyMP 活用ガイド』『[プレゼンテーションの実行 \(CardPlayerの使い方\)](#)』

操作ボタンをロック

本体操作パネルやリモコンのボタン操作をロックできます。イベントやショーなどで、投写のみ行い、操作はまったくできないようにしたり、学校などで、操作できるボタンを制限したいときに便利です。また、リモコンボタンをロックするとプレゼンテーション中の誤操作を防ぐことができます。☛ [p.59](#)





本機の特長	1
使い始めるまでの準備	
各部の名称と働き	6
前面/上面/側面	6
底面	7
背面	7
リモコン	8
本体操作パネル	9
入出力端子	10
リモコンをお使いになる前に	11
電池のセット	11
リモコンの使い方と操作範囲	12
本機の設置	13
設置方法	13
スクリーンサイズと投写距離	14
カードのセットと取り出し(EMP-835 のみ)	15
セット方法	15
取り出し方	16
アクセスランプの見方	17
コンピュータとの接続	18
接続できるコンピュータ	18
コンピュータとの接続	19
リモコンでマウスポインタを操作する (ワイヤレスマウス機能)	20
外部モニタとの接続	22
ネットワークケーブルの接続	23
ビデオ機器との接続	24
コンポジットビデオの映像を映す	24
S-ビデオの映像を映す	24
コンポーネントビデオの映像を映す	25
BSデジタルチューナの映像を映す	25

RGBビデオ映像を映す	26
接続機器の音声を出す	27
外部スピーカから音声を出す	28
USB 機器(デジタルカメラ、ハードディスク、メモリ)の 接続(EMP-835 のみ)	29
USB機器の接続	29
プロジェクターからUSB機器を取り外す	30

基本操作編

電源を入れ投写しよう	32
電源ケーブルを接続しよう	32
電源ON、投写開始	33
投写画面の位置と大きさを調整する	36
投写画面をワンタッチで調整する(Quick Setup)	38
電源を切り終了しよう	40
音量を調整しよう	42
利用者を管理する(パスワードプロテクト)	43
パスワードプロテクトを有効にしていると	43
リモコンでパスワードを入力するには	44
パスワードプロテクトの設定方法	45





応用編

便利な機能	48
映像を見ながら投写映像を選ぶ(プレビュー機能)	48
スクリーンがなくても見やすい映像を投写する (Wall Shot)	49
A/Vミュート機能	50
静止機能	51
Eズーム機能	51
PinP(ピクチャー イン ピクチャー)機能	52
ポインタ機能	53
プリセット機能	54
リサイズ/アスペクト比の切り替え	56
プロジェクターID/リモコンID	58
操作ボタンロック機能	59
投写映像を手動で調整する	61
ピントを合わせる(フォーカス調整)	61
投写画面のゆがみを手動で補正する(台形補正)	61
コンピュータ映像の調整	65
映り具合を選ぶ(カラーモード選択)	68
環境設定メニューについて	69
環境設定メニュー一覧	70
環境設定メニューの操作	77
ネットワークを使ったプロジェクターの監視・制御 (EMP-830 の場合)	79
EMP-830のネットワーク機能でできること	79
プロジェクターのネットワーク設定をする(EMP-830)	80

困ったときに

ヘルプの見方	83
故障かなと思ったら	84
インジケータの見方	84
インジケータを見てもわからないとき	87

付 録

お手入れの方法	104
各部の掃除	104
消耗品の交換	105
ユーザーロゴの登録	109
オプション・消耗品一覧	111
オプション品	111
消耗品	111
用語解説	112
ESC/VP21 コマンド一覧	115
コマンドリスト	115
通信プロトコル	115
ケーブル配線	115
USB通信の準備	116
PJLink について(EMP-835 のみ)	117
対応解像度一覧	118
仕様一覧	119
外形寸法図	122
お問い合わせ先	124



使い始めるまでの準備

この章では、開梱後、本機を設置し、使い始めるまでの作業について説明しています。

各部の名称と働き	6	• コンピュータとの接続	19
• 前面 / 上面 / 側面	6	• モニタ端子がミニ D-Sub 15pin 端子の場合 (例)	19
• 底面	7	• リモコンでマウスポインタを操作する	
• 背面	7	(ワイヤレスマウス機能)	20
• リモコン	8	外部モニタとの接続	22
• 本体操作パネル	9	ネットワークケーブルの接続	23
• 入出力端子	10	ビデオ機器との接続	24
リモコンをお使いになる前に	11	• コンポジットビデオの映像を映す	24
• 電池のセット	11	• S-ビデオの映像を映す	24
• リモコンの使い方と操作範囲	12	• コンポーネントビデオの映像を映す	25
本機の設定	13	• BS デジタルチューナの映像を映す	25
• 設置方法	13	• RGB ビデオ映像を映す	26
• スクリーンサイズと投写距離	14	• RGB 出力端子がミニ D-Sub 15pin 端子の場合 (例)	26
カードのセットと取り出し (EMP-835のみ)	15	接続機器の音声を出す	27
• セット方法	15	• コンポーネントビデオ信号を入力している場合	27
• 取り出し方	16	外部スピーカから音声を出す	28
• アクセスランプの見方	17	USB機器 (デジタルカメラ、ハードディスク、メモリ) の	
• カードスロットアクセスランプの見方	17	接続 (EMP-835のみ)	29
• 無線 LAN カードのアクセスランプの見方	17	• USB 機器の接続	29
コンピュータとの接続	18	• プロジェクターから USB 機器を取り外す	30
• 接続できるコンピュータ	18		

前面/上面/側面

●ランプカバー p.105

ランプの交換時にこのカバーを開けて、中のランプを交換します。

●排気口



注意
投写中は、排気口の付近に、熱で変形したり、悪影響を受けるものを置いたり、手や顔を近づけたりしないでください。

●フットレバー p.36

フットレバーを引いて、フロントフットを伸縮させます。

●フロントフット p.36

机上などに置いて使う場合に、投写角度を調整するときに伸ばします。

●レンズカバー

プロジェクターを使用しないときに装着し、レンズが傷ついたり汚れたりするのを防ぎます。

●スピーカ

●本体操作パネル p.9

●ハンドル

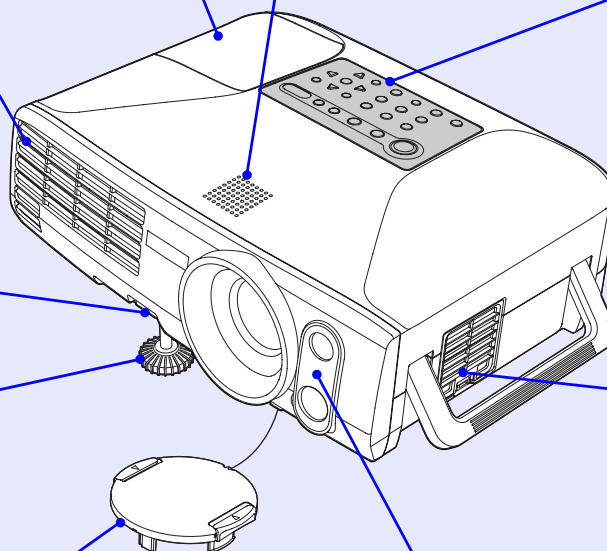
本機を持ち運ぶ場合は、このハンドルを持って移動します。

●エアーフィルタ(吸気口) p.104, 108

吸気時に、本機内部にホコリやゴミが入るのを防ぎます。定期的に掃除してください。

●リモコン受光部・センサ p.12

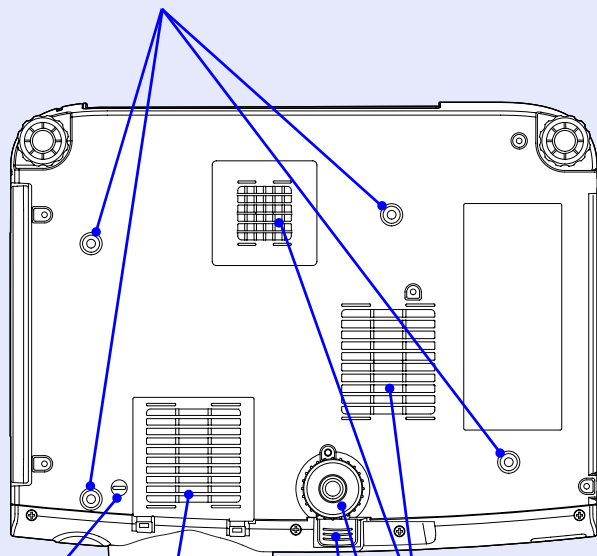
リモコン信号を受信したり、Auto Quick Corner や Wall Shot 時に投写先の状態を検出します。



底面

●天吊固定部(4箇所) p.13, 111

天井から吊り下げて使うとき、オプションの天吊り金具を取り付けます。



●レンズカバーひも ストッパー

天吊りの場合は外してください。ストッパーをつまんで引っぱりとレンズカバーを取り外せます。

●吸気口 p.104

定期的な掃除してください。

●フロントフット

●フットレバー

●エアフィルター p.104, 108

吸気時に、本機内部にホコリやゴミが入るのを防ぎます。定期的な掃除してください。

背面

●カードスロット(EMP-835のみ) p.15

EasyMP実行時に、無線LANカードやメモリカードをセットして使います。

●ネットワーク端子 p.23

ネットワークケーブルを接続します。

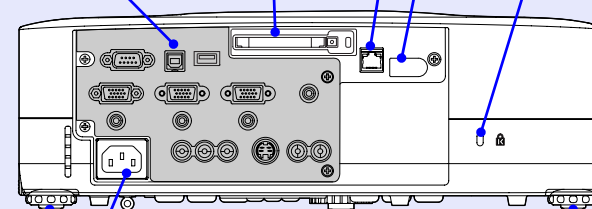
●入出力端子 p.10

コンピュータやビデオ機器などのさまざまな機器と接続します。

●リモコン受光部 p.12

リモコン信号を受信します。

●盗難防止用ロック(🔒) p.114



●リアフット p.36

●電源端子 p.32

電源ケーブルを接続します。

●リアフット p.36

机上などに置いて使う場合に、投写角度を調整するときに伸ばします。

リモコン

ボタン名またはボタンアイコンに  を重ねるとボタンの説明が表示されます。

- リモコン発光部  p.12
- インジケータ
- [ページ]ボタン  p.20
- [Eズーム]ボタン  p.51
- [PinP]ボタン  p.52
- [カラーモード]ボタン  p.68
- [☀](照光)ボタン
- [Enter(↵)]ボタン  p.21, 77, 83
- [メニュー]ボタン  p.77
- [プレビュー]ボタン  p.48
- [プリセット]ボタン  p.54
- [Wall Shot]ボタン  p.49
- [Quick Setup]ボタン  p.38
- [音量]ボタン  p.42
- [数字]ボタン  p.44



- [電源]ボタン  p.33, 40
- [リモコン]スイッチ  p.12
- [A/Vミュート]ボタン  p.50
- [リサイズ]ボタン  p.56
- [静止]ボタン  p.51
- [⦿]ボタン  p.21, 77, 83
- [Pointer]ボタン  p.53
- [Esc(↵)]ボタン  p.21, 78, 83
- [ヘルプ]ボタン  p.83
- 入力切替ボタン  p.35
- [自動調整]ボタン  p.65
- [フォーカス]ボタン  p.61
- [ズーム]ボタン  p.37
- テンキー  p.44, 59
- [ID]ボタン  p.59
- [リモート]端子  p.111

本体操作パネル

説明のないボタンは、リモコンに同じボタンがあります。そちらをご覧ください。

- [入力検出]ボタン p.34

リモコンの[Search]ボタンと同じ働きをします。

- [Quick Setup]ボタン p.38

- [電源]ボタン p.33, 40

- [Wall Shot]ボタン p.49

- 状態インジケータ p.84

- [リサイズ]ボタン p.56

- [ヘルプ]ボタン p.83

- [A/Vミュート]ボタン p.50

- [フォーカス]ボタン p.61

- [音量]ボタン p.42

- [シフト]ボタン p.57, 66, 67

このボタンは単独では機能しません。
同期、トラッキングの調整時やリサイズ機能時に使います。

- 入力切替ボタン p.35

[コンピュータ/コンポーネント]ボタン: 押すたびに[コンピュータ1/コンポーネント]端子→[コンピュータ2/コンポーネント]端子→EasyMP (EMP-835のみ)の順で入力ソースを切り替えます。
[ビデオ/S-ビデオ]ボタン: 押すたびに[S-ビデオ]端子→[ビデオ]端子→の順で入力ソースを切り替えます。

- [ズーム]ボタン p.37

- [メニュー]ボタン p.77

- [戻る]ボタン p.78, 83

リモコンの[Esc]ボタンと同じ働きをします。

- [決定]ボタン p.66, 78, 83

環境設定メニューやヘルプ表示中に、リモコンの[Enter]ボタンと同じ働きをします。

- [△][▽]ボタン p.62, 64, 67, 78, 83

タテ補正するときやQuick Cornerで補正するときに押します。
[シフト]ボタンを押したまま、このボタンを押すとコンピュータのアナログRGB映像の同期を調整できます。
環境設定メニューやヘルプ表示中は、項目を選択するときの[▲][▼](上下)ボタンとして使います。

- [◀][▶]ボタン p.62, 64, 66, 78

ヨコ補正するときやQuick Cornerで補正するときに押します。
[シフト]ボタンを押したまま、このボタンを押すとコンピュータのアナログRGB映像のトラッキングを調整できます。環境設定メニューやヘルプ表示中は、設定値を調整するときの[◀][▶](左右)ボタンとして使います。



入出力端子

●[USB TypeA]端子(EMP-835のみ) p.29

デジタルカメラやUSB対応のハードディスク・メモリを接続し、EasyMPで画像・動画ファイル、シナリオを投写します。

●[USB TypeB]端子 p.20, 116

コンピュータケーブルでコンピュータと接続中に、ワイヤレスマウス機能を使うときに、USB ケーブルでコンピュータと接続します。

●[RS-232C]端子 p.115

RS-232C ケーブルでコンピュータと接続します。制御用の端子で通常は使用しません。

●[モニタ出力]端子 p.22

コンピュータケーブルで接続しているコンピュータのアナログRGB映像とビデオ機器のRGBビデオ映像を外部モニタに出力します。ビデオ、EasyMP(EMP-835 のみ)の映像には対応していません。

●[音声出力]端子 p.28

現在選択している入力ソースの音声を外部スピーカに出力します。

●[コンピュータ1/コンポーネント]端子

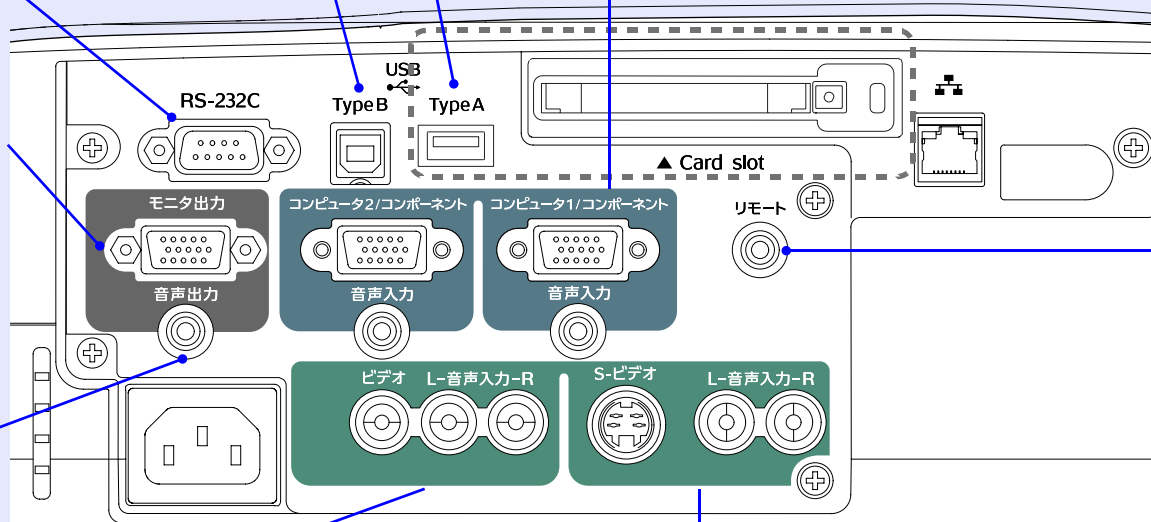
[コンピュータ2/コンポーネント]端子 p.19, 25, 26

コンピュータのアナログ RGB 映像信号やビデオ機器の RGB ビデオ信号、コンポーネントビデオ信号を入力します。

●[音声入力]端子([コンピュータ1(または2)/コンポーネント]端子用)

p.27

すぐ上の[コンピュータ1(または2)/コンポーネント]端子に接続した機器の音声信号を入力します。



●[リモート]端子 p.111

オプションのリモコンケーブルセットを接続し、リモコンからの信号を入力します。

●[ビデオ]端子 p.24

ビデオ機器のコンポジットビデオ信号を入力します。

●[音声入力]端子([ビデオ]端子用) p.27

[ビデオ]端子に接続した機器の音声信号を入力します。
[コンピュータ 2/ コンポーネント]端子に接続した機器(コンポーネントビデオ信号の場合)の音声を入力することもできます。

●[S-ビデオ]端子 p.24

ビデオ機器のS-ビデオ信号を入力します。

●[音声入力]端子([S-ビデオ]端子用) p.27

[S-ビデオ]端子に接続した機器の音声信号を入力します。
[コンピュータ 1/ コンポーネント]端子に接続した機器(コンポーネントビデオ信号の場合)の音声を入力することもできます。

電池のセット

購入直後は、リモコンに電池はセットされていません。まず、同梱の乾電池をセットします。

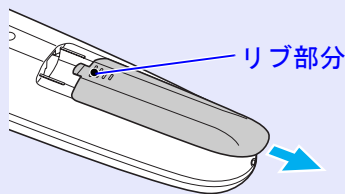


注意 電池を取り扱う前に、別冊の『安全にお使いいただくために / サポートとサービスのご案内』を必ずお読みください。

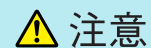
操作

1 電池カバーを外します。

電池カバーのリブ部分を押さえながら、矢印の方向にスライドさせます。

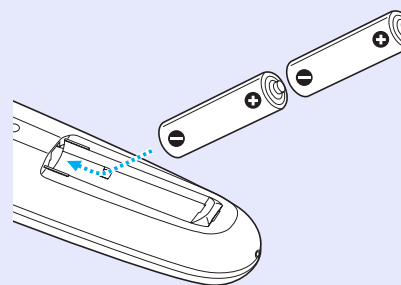


2 電池をセットします。



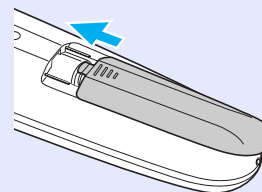
注意

電池ホルダ内の表示を確認し、(+)(-)を正しく入れてください。



3 電池カバーを取り付けます。

電池カバーをスライドさせて、ツメの部分のカチッと音がするまで差し込みます。



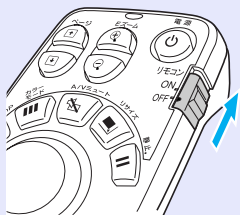
ポイント

使い続けているうちに、リモコンの反応が遅くなったり、操作できなくなった場合は電池の寿命が考えられます。新しい電池と交換してください。交換用の電池は単3形アルカリ乾電池2本を用意してください。

リモコンの使い方と操作範囲

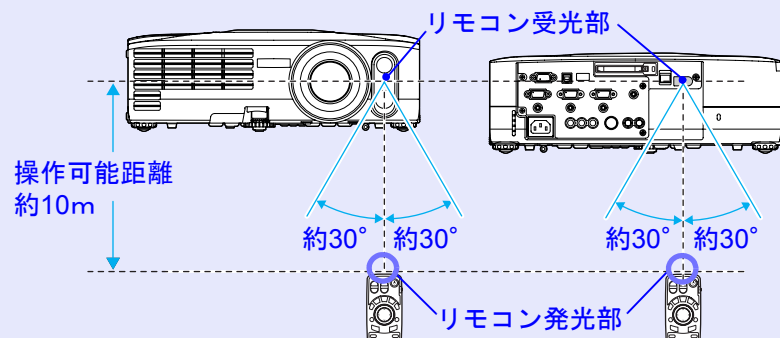
操作

1 [リモコン]スイッチをONにします。

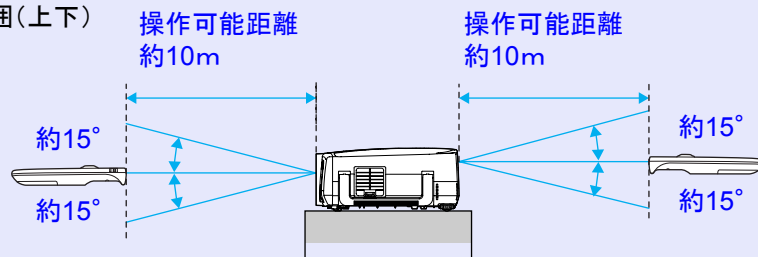


2 リモコンの発光部をプロジェクターのリモコン受光部に向けて操作します。

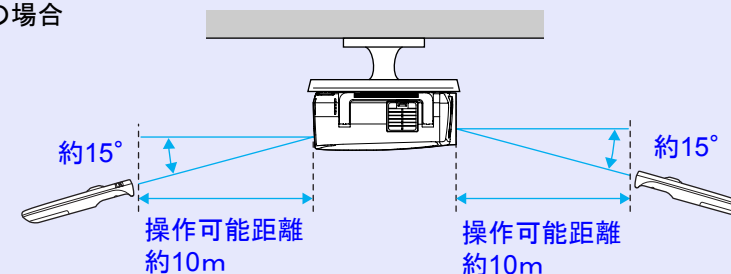
操作範囲(左右)



操作範囲(上下)



天吊りの場合



ポイント

- プロジェクターのリモコン受光部に直射日光や蛍光灯の光などが直接当たらないようにしてください。リモコンからの信号を受信できないことがあります。
- 使い終わったら、リモコンの[リモコン]スイッチをOFFにします。ONのままだと電池が消耗します。
- [リモコン]スイッチON時にリモコンのボタンが1分間以上押されたままの状態になっていると、ボタン操作の信号を送信しなくなります(リモコンのスリープモード)。これにより、リモコンが何かの下敷きになっている場合も電池の消耗を減らすことができます。いったんボタンを離して再度操作してください。
- リモコンをスクリーンに向けて操作した場合、リモコンからスクリーンまでの距離とスクリーンから本機までの距離の合計が約10m以内であれば、リモコン信号がスクリーンに反射して本機に届くのを利用し、リモコン操作できることもあります。ただし、スクリーンの状態により、この距離は変わります。
- 離れた位置から確実にリモコンで操作したい場合は、オプションのリモコンケーブルセットをお使いください。

☛「付録 オプション・消耗品一覧」p.111

設置方法

本機の投写方法は、次の4種類があります。設置場所の条件に合わせて設置してください。

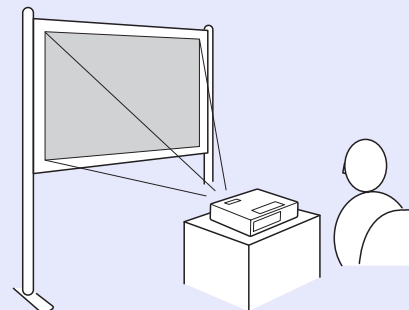
⚠ 警告

- 天井への取り付け(天吊り設置)工事は、特別な技術が必要となります。正しく工事が行われないと、落下によりけがや事故の原因となります。
- プロジェクターの天吊り固定部に、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などが付着するとケースが割れ、プロジェクターが落下し事故やけがの原因となります。天吊り設置や天吊り金具の調整に際しては、ネジゆるみ止め用接着剤・潤滑剤・油などを使用しないでください。

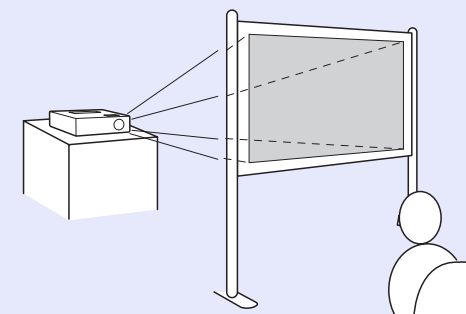


注意 本機を縦置き状態にして投写しないでください。故障の原因となります。

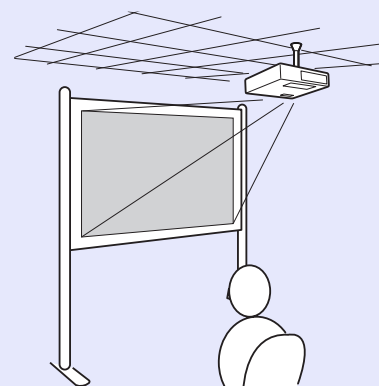
● 正面から投写する



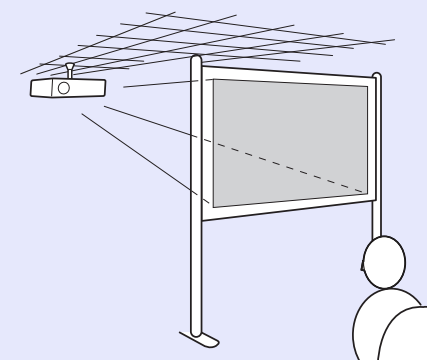
● リアスクリーンへ裏側から投写する



● 天吊りして正面から投写する



● 天吊りしてリアスクリーンへ裏側から投写する



ポイント

- 天吊りするには、オプションの天吊り金具が必要です。👉 [p.111](#)
- 天吊りやスクリーンの裏側から投写するときは、環境設定メニューの「拡張設定」→「設置モード」で設置の状態に合わせて変更します。
👉 [p.74](#)

スクリーンサイズと投写距離

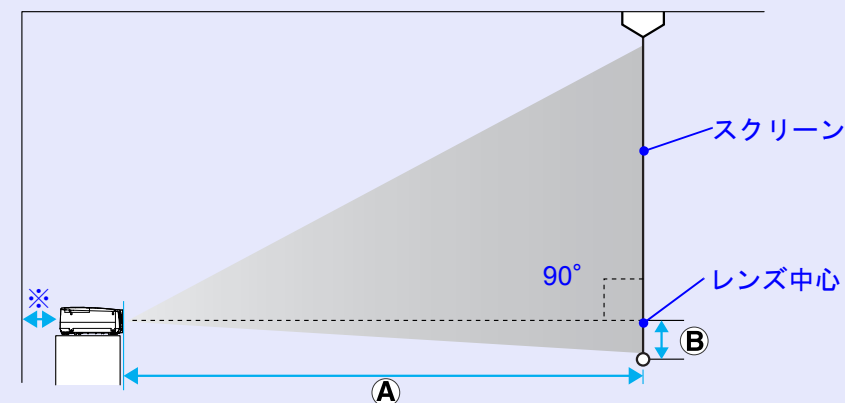
本機のレンズからスクリーンまでの距離により投写画面サイズが異なります。

推奨距離範囲	86cm～1473cm
--------	-------------

次表を参考にして、スクリーンに映像が最適な大きさに映るように設置してください。値は、設置の目安にしてください。投写条件やズームの設定により、変わります。

単位: (cm)

4:3スクリーンサイズ		投写距離A	レンズ中心からスクリーン下端までの高さB
		最短(ワイド)～最長(テレ)	
30型	61×46	86～142	4
40型	81×61	117～192	6
50型	100×76	147～241	7
60型	120×90	178～290	8
80型	160×120	239～389	11
100型	200×150	300～487	14
150型	300×230	452～734	21
200型	410×300	604～980	28
250型	510×380	756～1226	35
300型	610×460	909～1473	42



※壁際に設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をあけてください。



ポイント

- 本機のレンズは約1.6倍ズームです。最大拡大時は、最小時の約1.6倍のサイズで投写できます。
- 台形補正をすると画面が小さくなります。必要に応じてズーム調整をしてください。👉 p.37

EMP-835では、無線LANカードやメモリカードなどのPCカードを使うことができます。

ここでは、PCカードのセット方法、取り出し方を、同梱の無線LANカードを例に説明します。その他のカードを使う場合や、コンピュータのPCカードスロットへのセットや取り出し方については、使用するカードに添付の『取扱説明書』をご覧ください。



ポイント

本機のカードスロットには、次のPCカードをセットして使用できます。

- 無線LANカード(本製品同梱品のみ対応)
- メモリカード ●「仕様一覧」[p.119](#)

セット方法



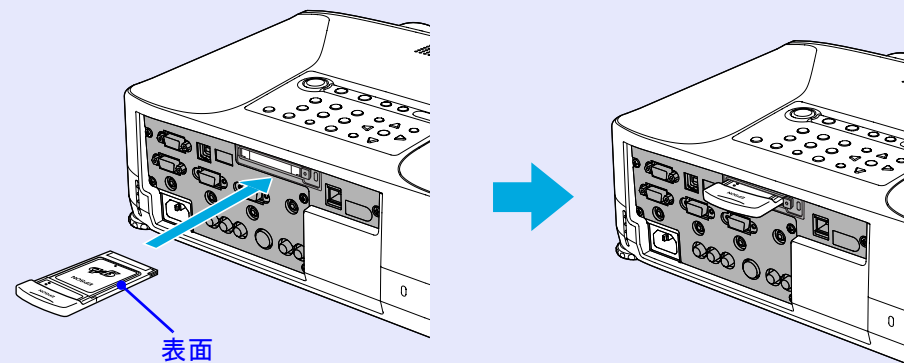
注意

- PCカードは、正しい向きでセットしてください。逆向きや裏返しにしてセットすると故障や機器の破損の原因となります。
- 本機を持ち運ぶときは、必ず事前にPCカードを抜いてください。

操作

PCカードの表面を上側に向けて、カードスロットに差し込みます。

止まる場所までしっかり差し込んでください。



取り出し方

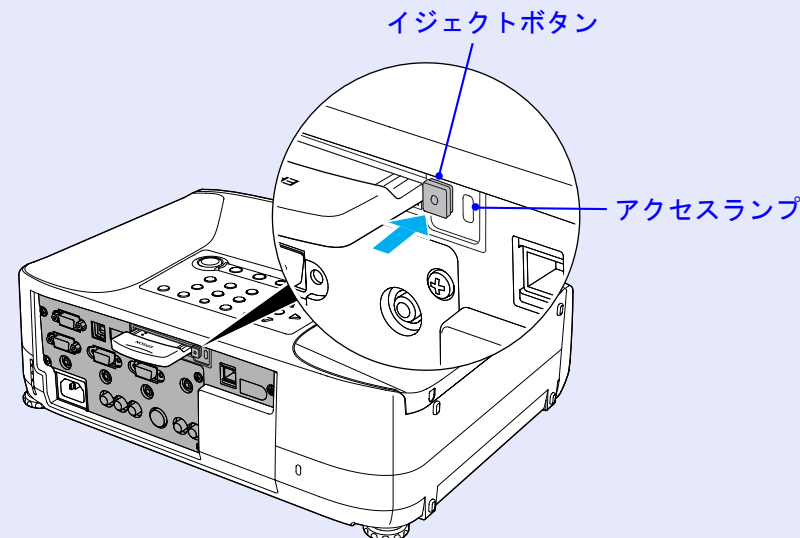
**注意**

- 無線LANカードのアクセスランプが緑色で点滅しているときは、無線LANカードを取り出さないでください。無線LANカードが壊れることがあります。
 - 本機のカードスロットアクセスランプが緑色に点灯しているときやシナリオ投写中は、メモリカードを取り出さないでください。メモリカード自体やメモリカードに保存されているデータが壊れることがあります。
 - 本機の使用または使用直後は、PCカードが高温になっています。取り出しの際に不用意に触らないでください。やけどの原因となることがあります。
 - CardPlayer 使用時にメモリカードを抜く場合は、必ず CardPlayer の終了操作を実行してから抜いてください。CardPlayer を終了しないでメモリカードを抜くと、CardPlayer が正しく動作しなくなる場合があります。
- ☞『EasyMP 活用ガイド』「[CardPlayerの終了方法](#)」

操作

1

カードスロット右側のイジェクトボタンを押します。
イジェクトボタンが飛び出します。

**2**

イジェクトボタンをもう一度、押し込みます。

PC カードが少し飛び出しますので、そのまま PC カードをまっすぐに引き抜きます。



注意 イジェクトボタンが出たままになっていると、折れるなど故障の原因となりますので、必ず押し込んでください。

アクセスランプの見方

■ カードスロットアクセスランプの見方

プロジェクターにメモリカードをセットしているときは、カードスロットアクセスランプの点灯状態と色で、次のようにメモリカードのアクセス状態を知らせます。

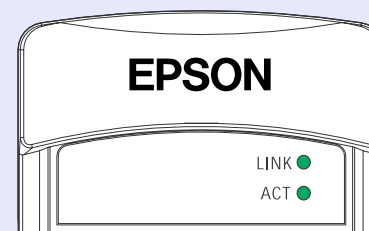
●:点灯 ○:消灯

状態	アクセス状態
緑色 ●	メモリカードからデータを読み出しています。
消灯 ○	メモリカードが待機状態です。
赤色 ●	メモリカードからデータを読み出し中に、異常が発生しました。

■ 無線 LAN カードのアクセスランプの見方

プロジェクターに無線 LAN カードをセットしているときは、カードスロットアクセスランプは点灯しません。

ネットワークの通信状態は、次のように無線 LAN カードのアクセスランプで確認できます。



●:点灯 ●:点滅

ランプ	状態	通信状態
LINK	緑色 ●	ネットワークに接続し、通信できる状態になっています。
	緑色 ●	使用できるネットワークを検索中です。
ACT	緑色 ●	データを送信中または受信中です。

**注意**

コンピュータと接続する際は、次の点を確認してください。

- 接続する前に本機とコンピュータの電源を切ってください。電源が入った状態で接続すると、故障の原因になります。
- ケーブルのコネクタ形状と端子の形状を確認して接続してください。向きや形状が異なっているものを無理に押し込むと故障や機器の破損の原因になります。
- 電源ケーブルと接続ケーブルは一緒に結束しないでください。映像にノイズが現れたり、誤動作の原因になります。

接続できるコンピュータ

ここでは、接続ケーブルを使って、本機とコンピュータを接続する方法を説明します。

ネットワークを介してコンピュータと接続する方法は、以下をご覧ください。

EMP-835をお使いの場合

☛『EasyMPネットワーク設定ガイド』

EMP-830をお使いの場合

☛「プロジェクターのネットワーク設定をする (EMP-830)」[p.80](#)

コンピュータによっては接続できないものや、接続できても投写できないものがあります。以下の、接続できるコンピュータの条件と照らし合わせて確認してください。

- 条件1: 接続するコンピュータに映像信号の出力端子があること
コンピュータに「RGB 端子」「モニタ端子」「CRT 端子」などの映像信号を出力させる端子があることを確認してください。
コンピュータとモニタが一体型のタイプやノートパソコンなどの場合は、接続できなかったり外部出力端子を別途購入する必要があります。詳しくは、コンピュータの取扱説明書の「外付けのモニタを接続する」などの項目をご覧ください。
- 条件2: 接続するコンピュータの解像度と周波数が「対応解像度一覧」(☛ [p.118](#)) の範囲内であること

コンピュータによっては出力解像度を変更できますので、コンピュータの取扱説明書をご覧になり対応解像度一覧の範囲内の設定に変更してください。



ポイント

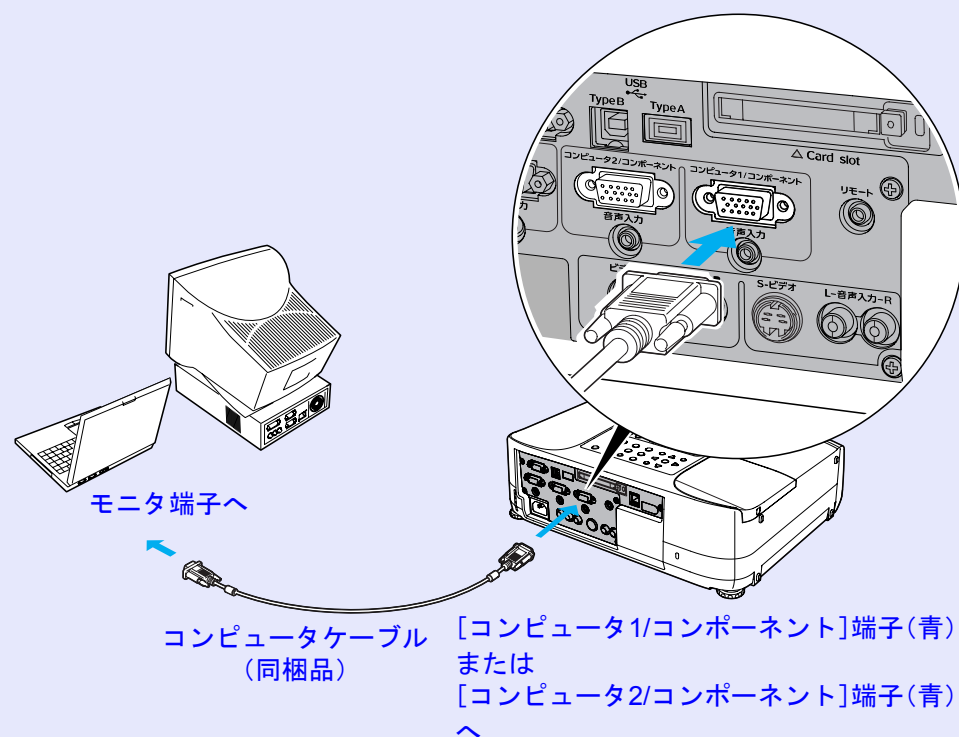
- コンピュータの端子形状によっては、接続の際に市販のアダプタ類などが必要になることがあります。詳しくはコンピュータの取扱説明書をご覧ください。
- コンピュータと本機が離れて設置されており、同梱のコンピュータケーブルでは届かないときは、オプションのコンピュータケーブルをお使いください。☛「付録 オプション・消耗品一覧」[p.111](#)

コンピュータとの接続

コンピュータのモニタ端子の形状や規格により、使用する接続ケーブルが異なります。お使いになるコンピュータに合わせて準備してください。

■ モニタ端子がミニ D-Sub 15pin 端子の場合(例)

同梱のコンピュータケーブルで接続します。



リモコンでマウスポインタを操作する (ワイヤレスマウス機能)

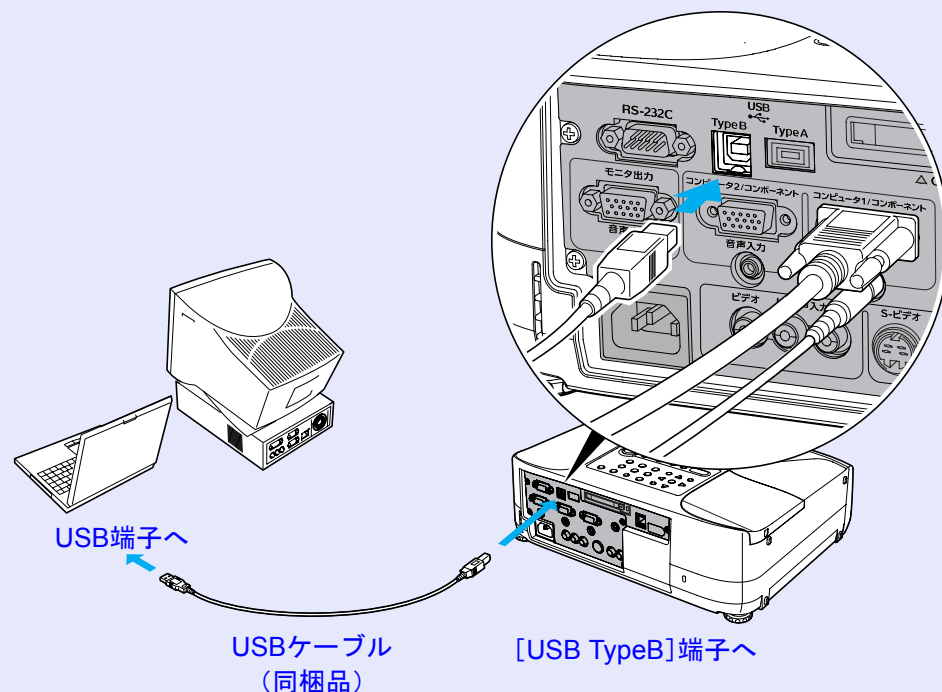
コンピュータの **USB** 端子と、本機背面の [USB TypeB] 端子を同梱の USB ケーブルで接続すると、ワイヤレスマウスのように、同梱のリモコンでコンピュータのマウスポインタを操作できます。

対応コンピュータ	マウスの種類	使用するケーブル
Windows 98/2000/Me/ XP Home Edition/XP Professional	USB マウス	USB ケーブル (同梱品)
Macintosh (OS 8.6～9.2/10.1～10.3)	USB マウス	USB ケーブル (同梱品)



ポイント

- EMP-835をお使いの場合、本機背面の [USB TypeA] 端子はUSBハブとしては使えません。
- USBケーブルでの接続は、USB標準搭載モデルにのみ対応しています。Windowsの場合は、Windows98/2000/Me/XP Home Edition/XP Professionalプリインストールモデルだけに対応しています。アップグレードしたWindows98/2000/Me/XP Home Edition/XP Professional環境下では動作を保証いたしません。
- Windows/MacintoshともにOSのバージョンによりワイヤレスマウス機能を使用できない場合があります。
- マウスを使用するために、コンピュータ側の設定が必要な場合があります。詳しくはコンピュータの取扱説明書をご覧ください。



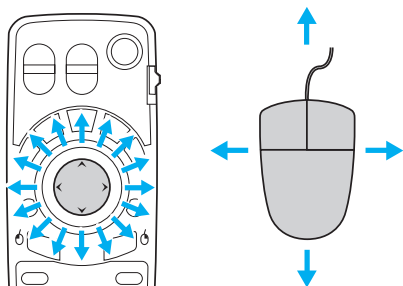
※ワイヤレスマウスとして使用しているときは、リモコンの[+] [-] ボタンで、PowerPointのスライド送り/戻しができます。



接続した後はマウスポインタを次のように操作できます。

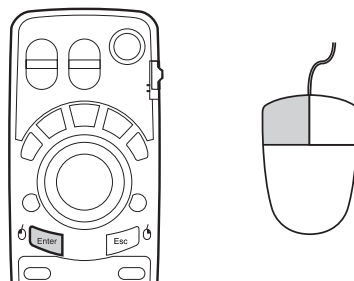
マウスポインタの移動

リモコンの[○]ボタンを傾けると、傾けた方向にマウスポインタが移動します。



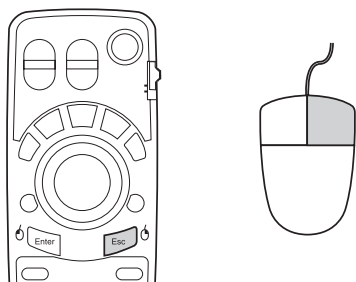
左クリック

[Enter(δ)]ボタンを押します。すばやく2回続けて押すと、ダブルクリックになります。



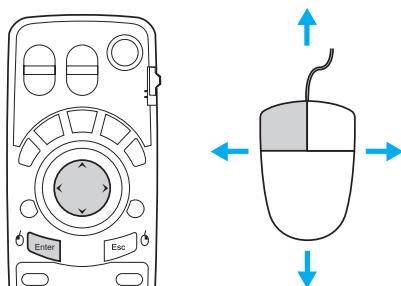
右クリック

[Esc(δ)]ボタンを押します。



ドラッグ&ドロップ

[Enter(δ)]ボタンを約1.5秒間押し続けると、押したボタンが点灯し、ドラッグモードになります。この状態で[○]ボタンを傾けると、ドラッグ動作になります。任意の場所で[Enter(δ)]ボタンを押すと、ドロップします。



[Esc(δ)]ボタンも同様に約1.5秒間押し続けるとドラッグモードになります。この操作で右クリックのドラッグ&ドロップができます。

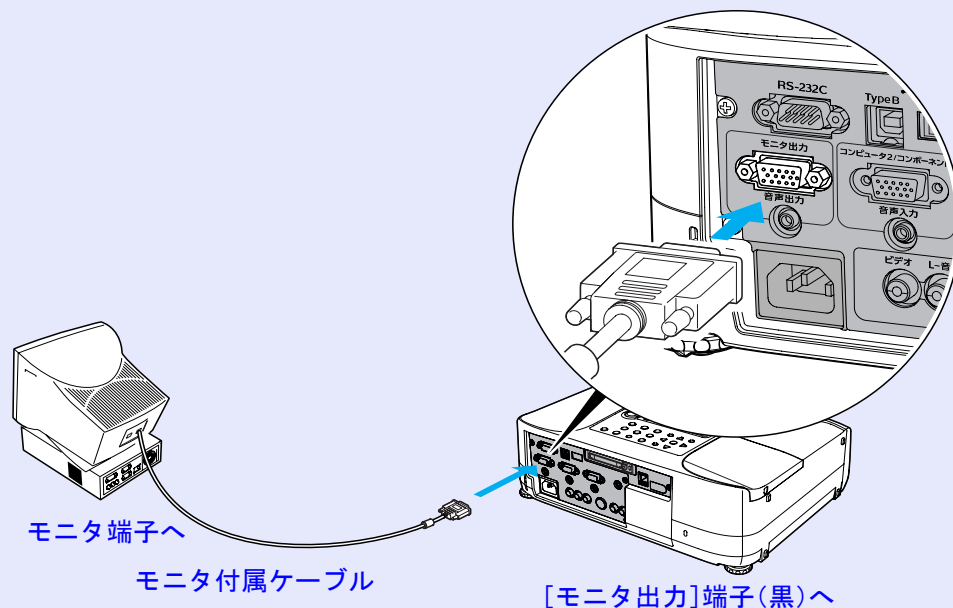


ポイント

- コンピュータでマウスボタンの左右を逆に設定している場合は、リモコンでの操作も逆になります。
- 以下の機能を使用しているときや、警告メッセージが表示されているときは、リモコンでワイヤレスマウス機能は行えません。
 - ・Quick Setup実行中
 - ・パスワードプロテクト設定中
 - ・環境設定メニュー表示中
 - ・ヘルプ表示中
 - ・ポインタ機能中
 - ・PinP機能の子画面設定中
 - ・Eズーム機能中
 - ・Quick Corner設定中
 - ・リサイズ機能のリアル表示中
 - ・プレビュー機能中
 - ・ユーザーロゴのキャプチャ中
 - ・Wall Shotの設定中

コンピュータケーブルで接続しているコンピュータのアナログRGB映像、ビデオ機器のRGBビデオ映像を投写中は、本機に外部モニタを接続して外部モニタで確認しながらプレゼンテーションなどを行うことができます。

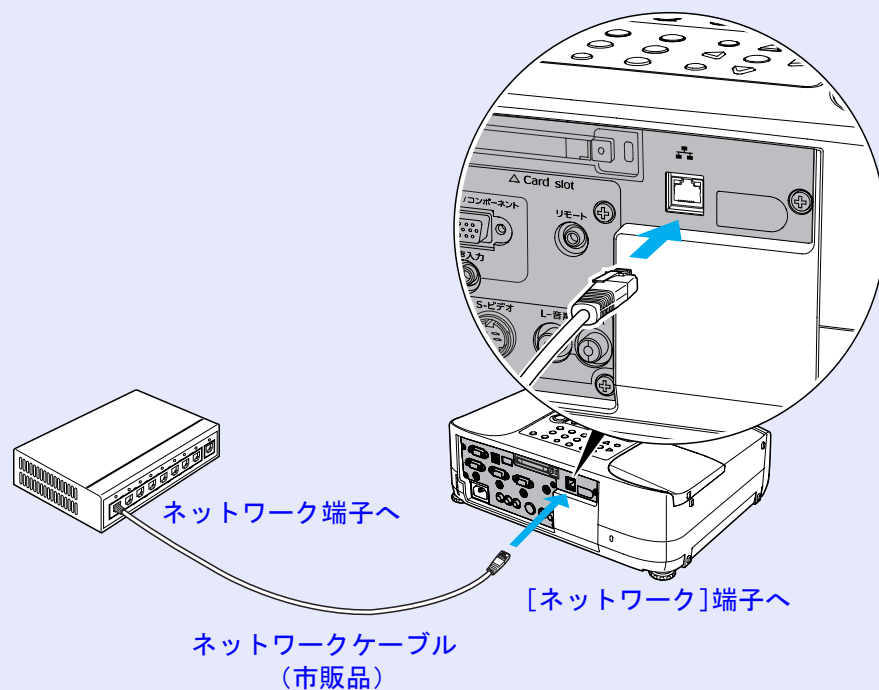
外部モニタは、モニタに付属のケーブルで接続します。



ポイント

- コンポジットビデオ、S-ビデオ、EasyMP (EMP-835のみ) の映像は外部モニタに出力できません。
- タテ補正などの設定ゲージや環境設定メニュー、ヘルプの表示は外部モニタに出力されません。
- コンポーネントビデオを投写中も外部モニタに出力できますが、色が正しく表示されません。故障ではありませんので、ご了承ください。

市販の 100baseTX、または 10baseT、ネットワークケーブルを接続できます。



注意 ネットワークケーブルは誤動作防止のために、カテゴリ 5 のシールド付を使用してください。

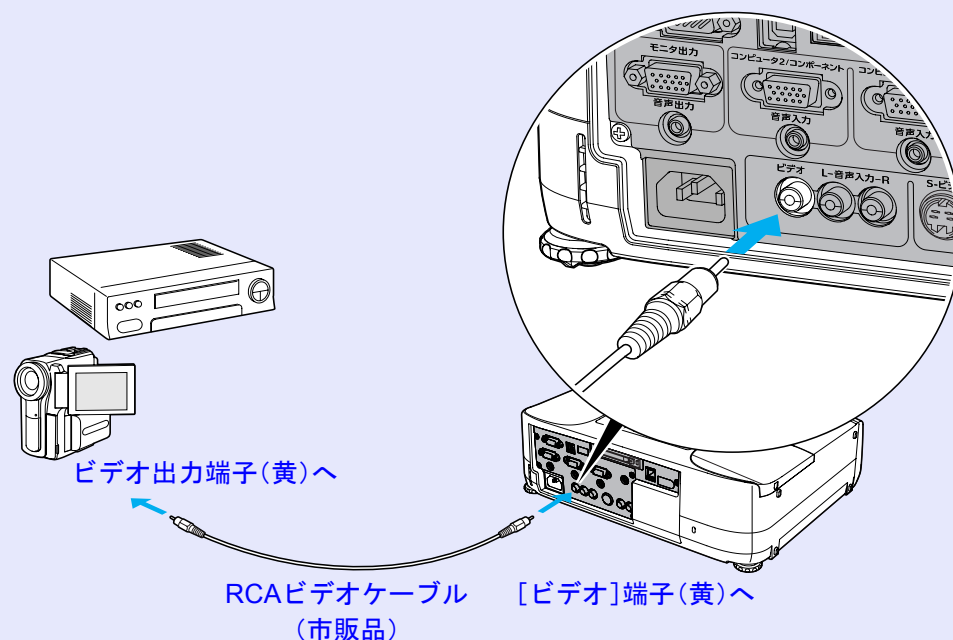
**注意**

ビデオ機器を接続する際は、次の点に注意してください。

- 接続する前に本機とビデオ機器の電源を切ってください。電源が入った状態で接続すると、故障の原因になります。
- ケーブルのコネクタ形状と端子の形状を確認して接続してください。向きや形状が異なっているものを無理に押し込むと故障や機器の破損の原因になります。
- 電源ケーブルと接続ケーブルは一緒に結束しないでください。映像にノイズが現れたり、誤動作の原因になります。

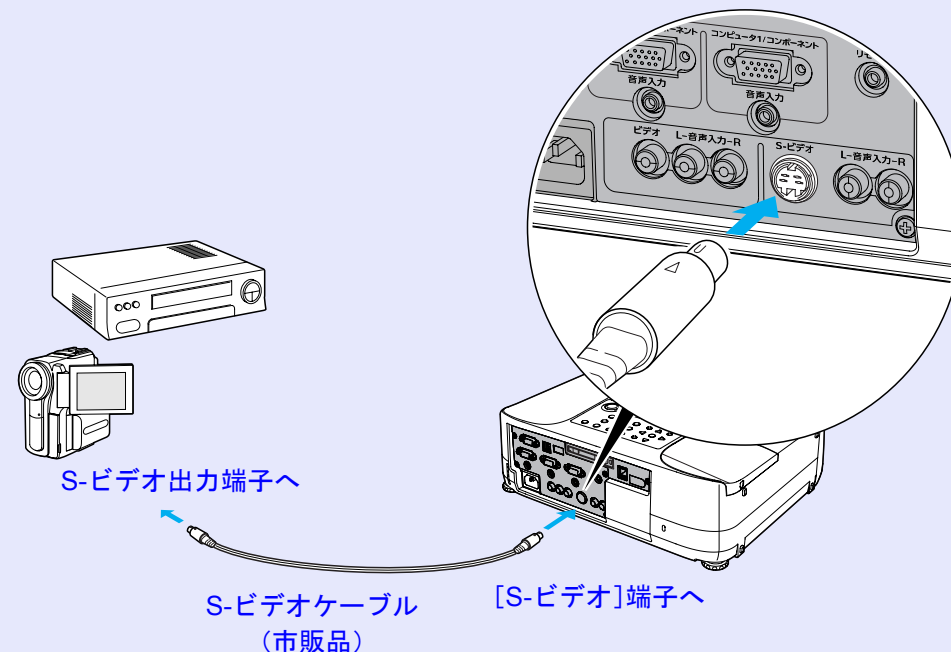
コンポジットビデオの映像を映す

市販のRCAビデオケーブルを使って接続します。



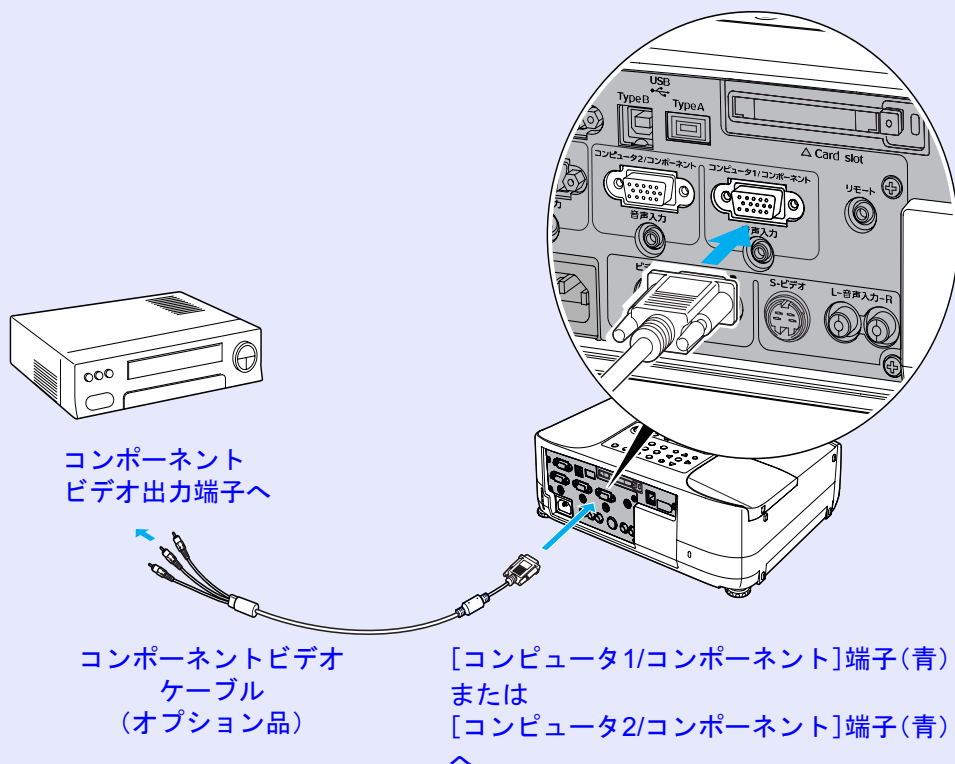
S-ビデオの映像を映す

市販のS-ビデオケーブルを使って接続します。



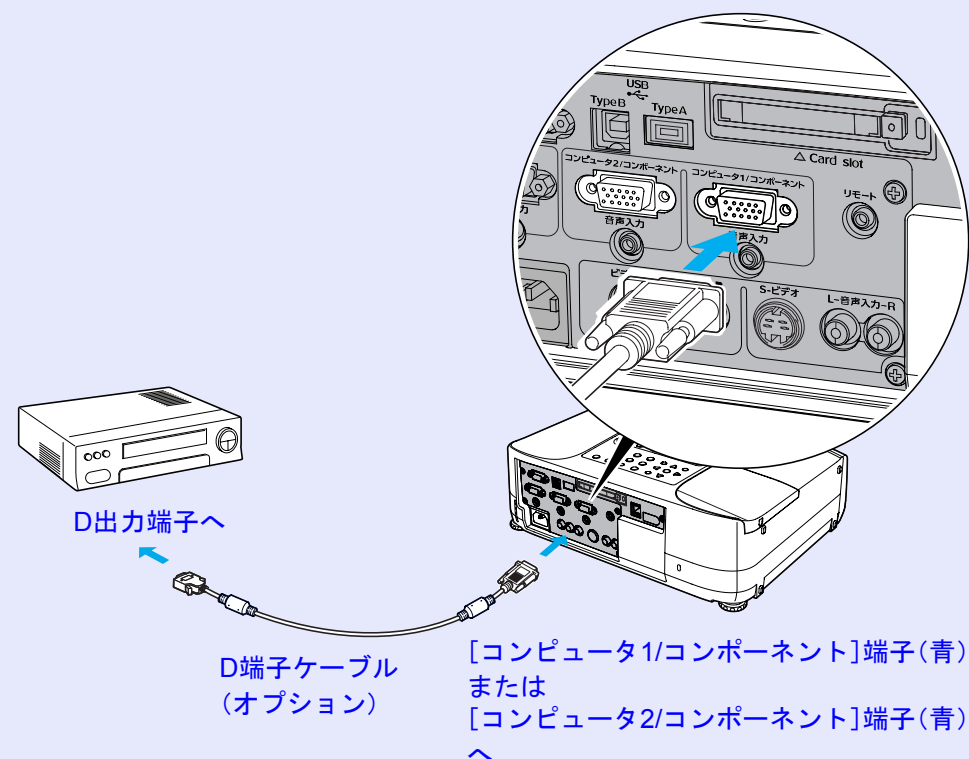
コンポーネントビデオの映像を映す

オプションのコンポーネントビデオケーブルを使って接続します。「付録 オプション・消耗品一覧」p.111



BSデジタルチューナの映像を映す

オプションのD端子ケーブルを使って接続します。「付録 オプション・消耗品一覧」p.111



ポイント

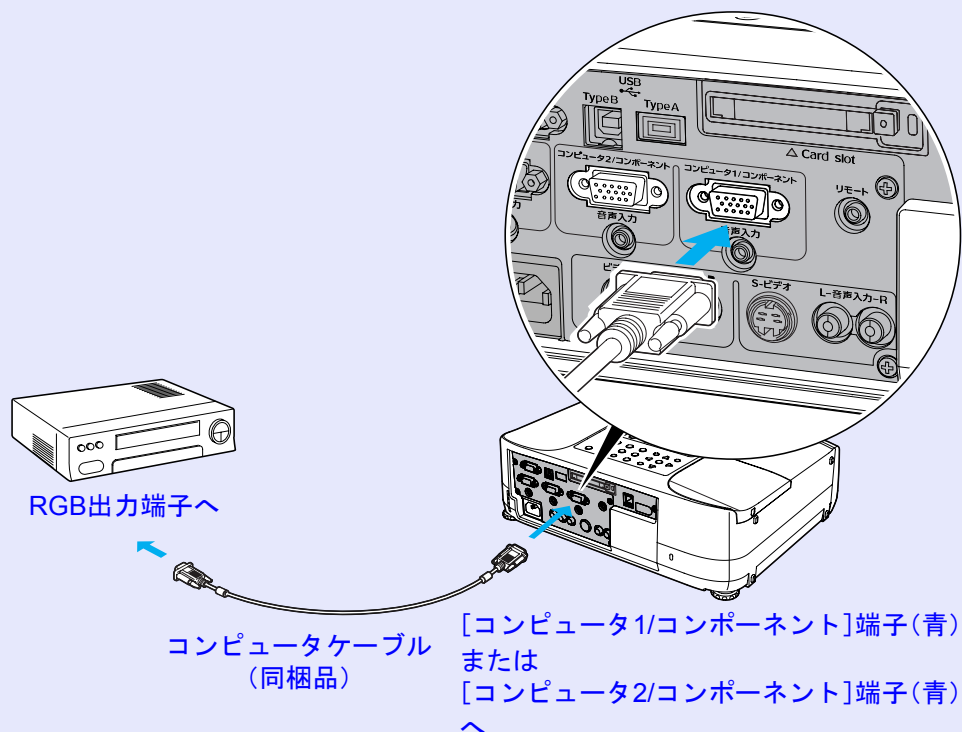
- BSデジタルチューナへの接続は、日本国内でのみ可能です。
- D4規格までのBSデジタルチューナに対応しています。

RGBビデオ映像を映す

RGBビデオは、コンピュータ以外のRGB信号を出力するビデオ機器のことです。

■ RGB 出力端子がミニ D-Sub 15pin 端子の場合(例)

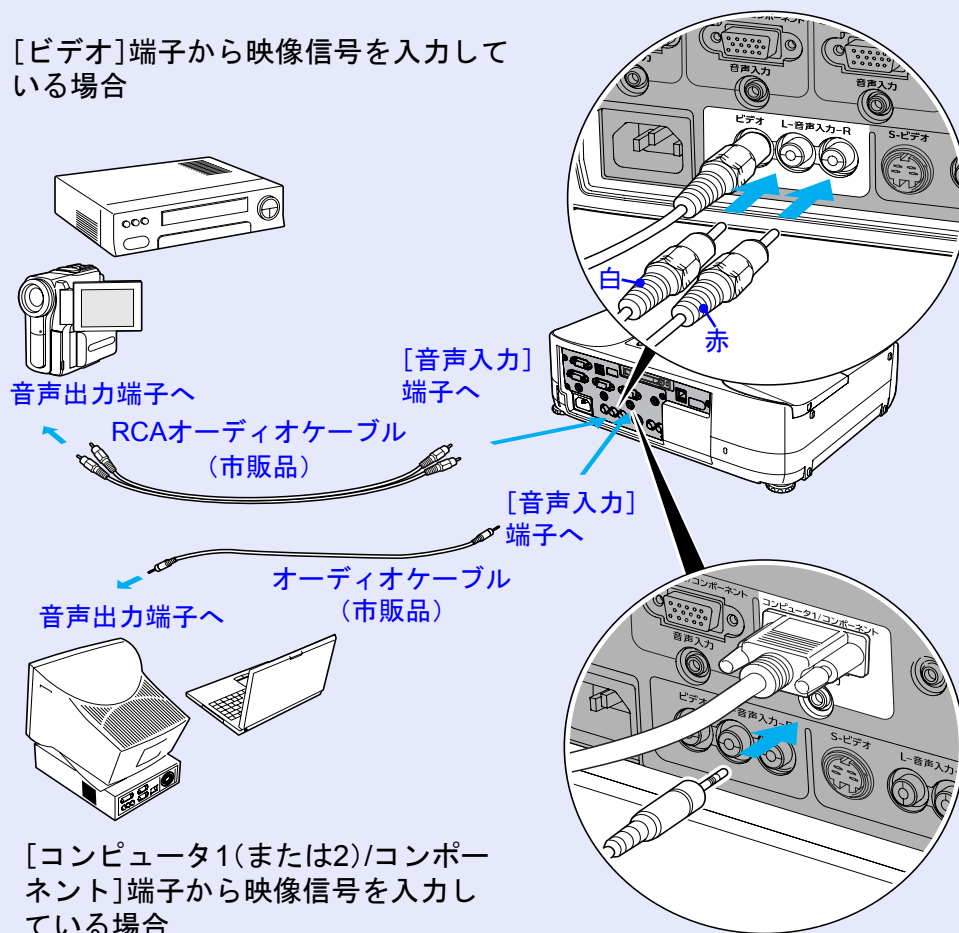
同梱のコンピュータケーブルを使って接続します。



本機には、最大5Wのスピーカが1個内蔵されています。音声出力端子を持つ接続機器(コンピュータやビデオ機器)の音声を本機の内蔵スピーカから出力することができます。

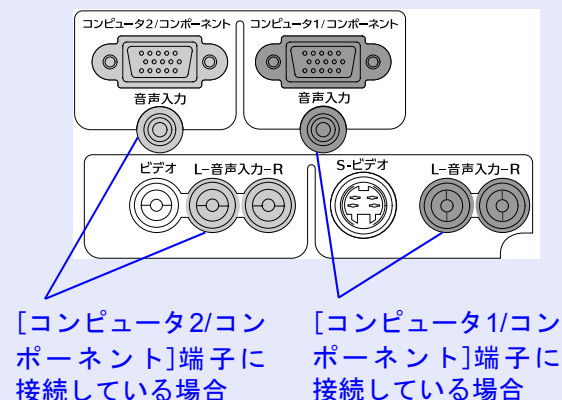
コンポーネントビデオ信号を入力している場合を除き、同じ枠内の映像入力端子と[音声入力]端子は、1対1で対応しています。

[ビデオ]端子から映像信号を入力している場合



■ コンポーネントビデオ信号を入力している場合

[コンピュータ1(または2)/コンポーネント]端子にDVDなどを接続し、コンポーネントビデオの映像を投写するときは、接続に使うオーディオケーブルに合わせて、次のどちらに接続してもかまいません。



コンポーネントビデオの映像を投写すると、どちらの[音声入力]端子に接続していても自動的に接続端子を認識して音声を内蔵スピーカから出力します。



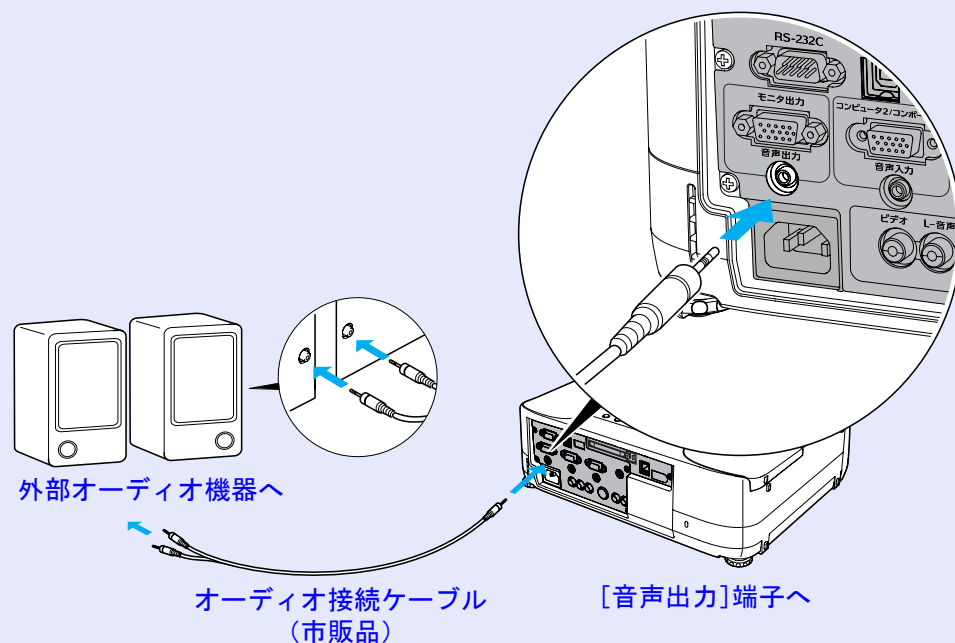
ポイント

- 投写開始後、音量を調整することができます。 [p.42](#)
- 市販の2RCA(L・R)/ステレオミニピンオーディオケーブルを使う場合は「抵抗なし」と表記されているものをお使いください。

現在投写している入力ソースの音声を外部スピーカに出力できます。
入力ソースを切り替えると自動的に音声も切り替わります。

本機の[音声出力]端子と、外付けのアンプ内蔵スピーカを接続すると、
迫力あるサウンドが楽しめます。

市販のオーディオ接続ケーブル(ピンプラグ)⇔3.5mm(ステレオミニ
ジャック)などを使用します。オーディオ接続ケーブルは、外部オー
ディオ機器の接続部の形状に合わせて購入してください。



ポイント

[音声出力]端子へステレオミニジャックを差し込むと、音声は外部出力に切り替わります。このとき、本機の内蔵スピーカから音声は出力されません。

USB1.1 に対応したデジタルカメラやハードディスク、USB メモリを接続できます。接続したデジタルカメラ内の画像ファイルやUSB ストレージ内のシナリオ・画像・動画ファイルは、EasyMPのCardPlayerで再生します。☞『EasyMP活用ガイド』「[プレゼンテーションの実行 \(CardPlayerの使い方\)](#)」

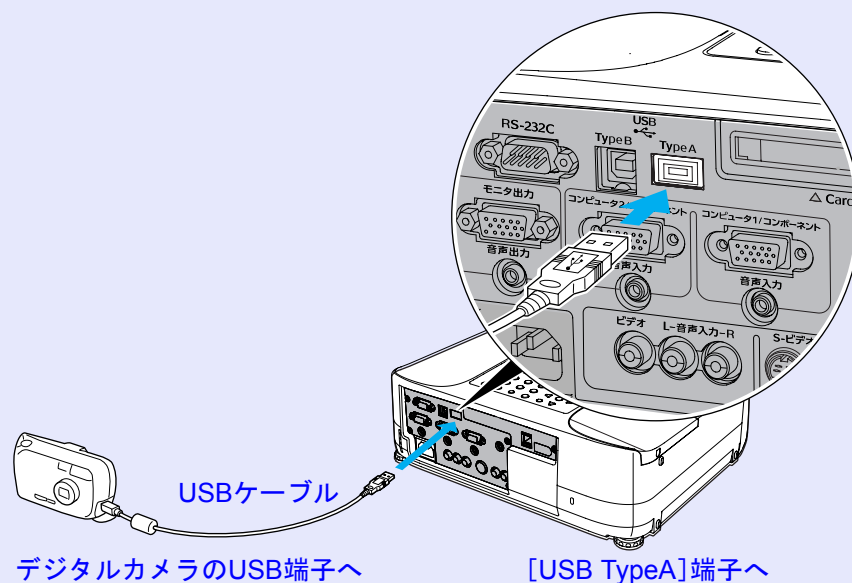
USB機器の接続

ここではデジタルカメラを例に、USB機器の接続方法を説明します。デジタルカメラに同梱、あるいは指定の USB ケーブルを使って、接続します。



ポイント

- 長さが3m以下のUSBケーブルをお使いください。3mを超えると、CardPlayerが正しく動作しなくなる場合があります。
- プロジェクターのカードスロットに、無線LANカードやメモリカードがセットされていないことを確認してから接続します。

**注意**

- USBハブを使用すると、正しく動作しないことがあります。デジタルカメラやUSBストレージを直接プロジェクターに接続してください。
- USB対応のハードディスクを使用する場合は、必ずハードディスクに付属のACアダプタを接続してください。
- セキュリティ対応のUSBメモリは使用できません。



プロジェクターからUSB機器を取り外す

投写終了後は、以下の手順でプロジェクターから USB 機器を取り外します。

操作

- 1 CardPlayer の画面上で「EJECT」ボタンにカーソルを合わせてリモコンの[Enter]ボタンを押し、CardPlayer を終了します。☞『EasyMP 活用ガイド』「[プレゼンテーションの実行（CardPlayerの使い方）](#)」

**注意**

必ずCardPlayerを終了させてから、USBケーブルやUSBメモリをプロジェクターから取り外してください。CardPlayerを終了しないでUSB機器を取り外すと、CardPlayerが正しく動作しなくなる場合があります。

- 2 プロジェクターの[USB TypeA]端子からUSBケーブルやUSBストレージを取り外します。

**注意**

USB対応のハードディスクを接続しているときは、ハードディスクを取り外すか、ハードディスクの電源を切ってからプロジェクターの電源を切ってください。
プロジェクターが故障する恐れがあります。

基本操作編

ここでは、投写開始と終了、投写映像の調整など基本的な機能について説明しています。

電源を入れ投写しよう	32
• 電源ケーブルを接続しよう	32
• 電源 ON、投写開始	33
• 投写画面の位置と大きさを調整する	36
• 投写する位置を上下に調整する (フット調整)	36
• 投写する位置を左右に調整する	37
• 投写画面のサイズ調整 (ズーム調整)	37
• 投写画面をワンタッチで調整する (Quick Setup)	38
電源を切り終了しよう	40
音量を調整しよう	42

利用者を管理する (パスワードプロテクト)	43
• パスワードプロテクトを有効にしていると	43
• 「電源投入時」を有効 (オン) にしている場合	43
• 「時間設定」で 1 時間以上に設定した場合	43
• 「ユーザーロゴ保護」を有効 (オン) にしている場合	44
• リモコンでパスワードを入力するには	44
• パスワードプロテクトの設定方法	45

電源を入れ、投写を行います。

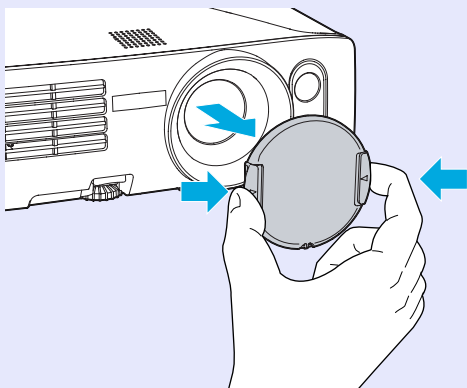


注意 投写する前に、別冊の『安全にお使いいただくために / サポートとサービスのご案内』を必ずお読みください。

電源ケーブルを接続しよう

操作

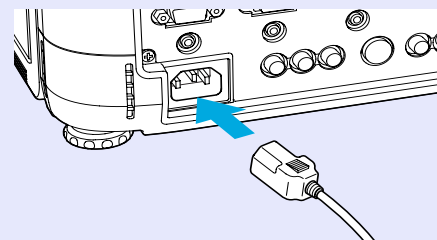
- 1 本機と本機に接続するすべての機器の電源が切っていることを確認します。
- 2 必要に応じて、本機とコンピュータあるいはビデオ機器を接続します。☞ p.18, 24
- 3 レンズカバーを外します。
レンズカバーの[▷]と[◁]に指をあてて、外側から抑え込んだまま手前に引いて外します。



4

本機に、同梱の電源ケーブルを取り付けます。

本機の電源端子と、電源コネクタの形状を確認し、しっかりと奥まで差し込みます。



5

電源プラグをコンセントに差し込みます。



ポイント

環境設定メニューで「ダイレクトパワーオン」を「オン」に設定している場合は、電源ケーブルを接続するだけで電源が入ります。

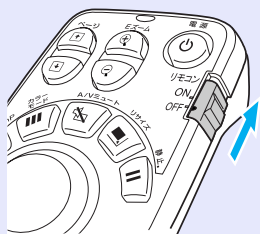
初期設定値:「オフ」☞「拡張設定」→「動作設定」p.75

電源ON、投写開始

操作

- 1 電源インジケータがオレンジ色で点灯しているのを確認します。

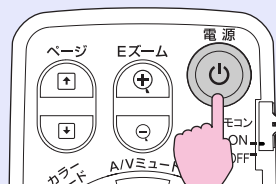
- 2 リモコンを使用する場合は、[リモコン]スイッチをONにします。



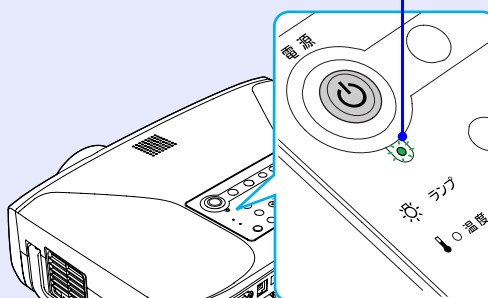
- 3 リモコン、または本体の[電源]ボタンを押して電源を入れます。

「ピッ」と鳴り、電源インジケータが緑色の点滅に変わります。

リモコン



緑色で点滅します。



注意

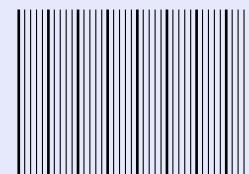
電源インジケータが緑色で点滅しているときは、電源ケーブルを抜いたり、ブレーカーを落としてダイレクトパワーオフを行わないでください。ランプの早期劣化の原因となります。また、この間は同様の理由でリモコンや本体の[電源]ボタンを押しても無効となります。

- 4 本機に接続されている機器の電源を入れます。

ビデオ機器の場合は、さらにビデオ機器の[再生]や[プレイ]ボタンを押します。

投写が始まると「オートフォーカス」機能が働き、ピントの調整が始まります。

調整中は、以下のような調整用の画面が表示されますが、故障ではありません。

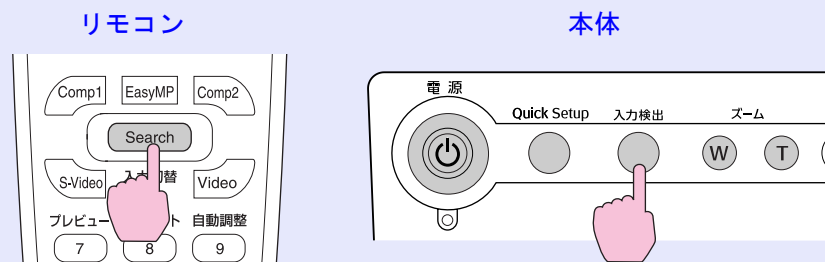


ポイント

- パスワードプロテクトを有効にしている場合は、電源を入れたときにパスワード入力画面が表示されます。
パスワードを入力してください。  p.44
- 「オートフォーカス」を中断したいときは、リモコンの[Esc]ボタンを押します。
- 環境設定メニューの「起動時設定」で起動時に実行する機能を設定できます。Quick Setupを実行するように切り替えることもできます。初期設定: オートフォーカスのみ実行  「設定」→「Quick Setup」→「起動時設定」 p.72

5 映像が投写されない場合は、[Search]ボタン、または[入力検出]ボタンを押します。

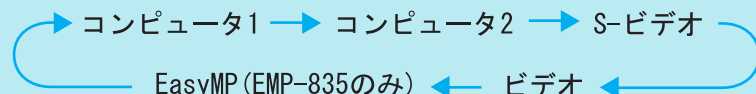
入力されている映像信号を自動的に検出し、映像を投写します。



画面右上に、入力ソースの種類が表示されます。複数の機器を接続しているために目的の映像が投写されなかったときは、目的の映像が投写されるまで繰り返し[Search]ボタン、または[入力検出]ボタンを押します。

ポイント

- [Search]ボタン、または[入力検出]ボタンを押すと、現在選択されている入力ソースから以下の順で映像信号が入力されているか検出し、映像信号が入力されていればその映像を投写します。



映像信号が検出されなかった入力ソースは飛び越して次を検出します。ビデオ機器を接続している場合は、再生状態にしてから[Search]ボタン、または[入力検出]ボタンを押してください。

- EMP-835をお使いの場合、[Search]ボタン、または[入力検出]ボタンを押したときにEasyMPが検出されるのは、メモ리카ードがセットされているかUSB機器が接続されていてCardPlayerが動作中のとき、またはNetwork Screen実行中のときです。EasyMPの待機画面や設定画面になっている場合は、[Search]ボタン、または[入力検出]ボタンを押してもEasyMPの画面は表示されません。この場合は、リモコンの[EasyMP]ボタンか、本体の[コンピュータ/コンポーネント]ボタンを押して、EasyMPに切り替えてください。

- 万一、入力検出が正しく行なわれないときは、違う場面の映像で、もう一度実行してみてください。
- 「映像信号が入力されていません。」と表示されたままの場合は、接続をもう一度確認してください。
- サポートしていない映像信号を検出した場合は、メッセージが表示され、入力検出は終了します。
- ノートタイプや液晶一体型のコンピュータをコンピュータケーブルで接続したときに、映像が投写されない場合は、投写開始後にコンピュータの映像信号を外部に出力させる設定をコンピュータ側で行ってください。

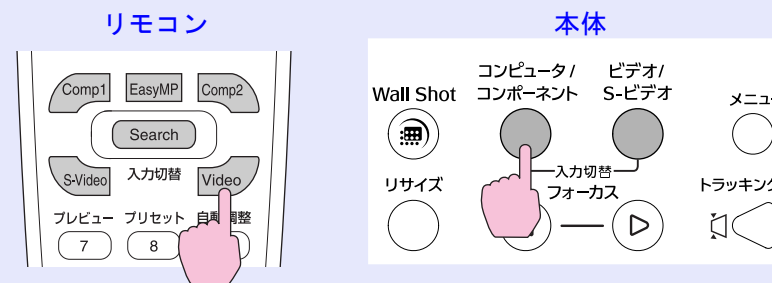
次表は、出力切り替えの一例です。詳しくはコンピュータの取扱説明書の「外部出力のしかた」や「外部モニタへの出力」などの項をご覧ください。

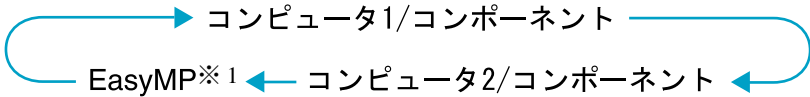
エプソン	NEC製	Panasonic製	東芝製
[Fn]+[F8]	[Fn]+[F3]	[Fn]+[F3]	[Fn]+[F5]
IBM製	SONY製	富士通	Macintosh
[Fn]+[F7]	[Fn]+[F7]	[Fn]+[F10]	ミラーリングの設定、またはディスプレイの検出を行う。

- 同一の静止映像を長時間投写していると、投写映像に残像が残ることがあります。静止映像は長時間投写しないでください。

次の表のボタンを使って、目的の入力ソースに直接切り替えることもできます。

プレビュー機能を使って、入力されている映像を確認しながら選択することもできます。👉 p.48



入力ソース	選択するボタン		画面上の表示
	リモコン	本体	
EasyMP※1	[EasyMP]	[コンピュータ/コンポーネント]を押すたびに、次の順で切り替わります。※2 	EasyMP
コンピュータ1/コンポーネント	[Comp1]		コンピュータ1 (オート) コンピュータ1 (RGB) ※3 コンピュータ1 (コンポーネント)
コンピュータ2/コンポーネント	[Comp2]		コンピュータ2 (オート) コンピュータ2 (RGB) ※3 コンピュータ2 (コンポーネント)
S-ビデオ	[S-Video]	[ビデオ/S-ビデオ]を押すたびに、交互に切り替わります。※2 S-ビデオ ↔ ビデオ	S-ビデオ
ビデオ	[Video]		ビデオ

※1 EMP-835をお使いの場合のみ切り替わります。

EasyMPについて  『EasyMP ネットワーク設定ガイド』および『[EasyMP活用ガイド](#)』

※2 画面上に入力ソース名が表示されている間にボタンを押さないと、次の入力ソースに切り替わりません。

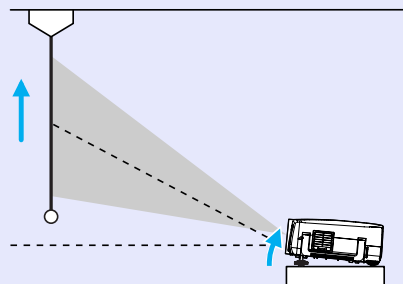
※3 環境設定メニューの「映像」→「コンピュータ 1 (または2) 入力」で設定された状態が()内に表示されます。



投写画面の位置と大きさを調整する

■ 投写する位置を上下に調整する(フット調整)

高い位置にあるスクリーンに投写するときは、フロントフットを伸ばして本機を傾けます。



フロントフットやリアフットを伸縮させて、上方向に最大 12°、下方向に最大 4° までの範囲で本機を傾けることができます。

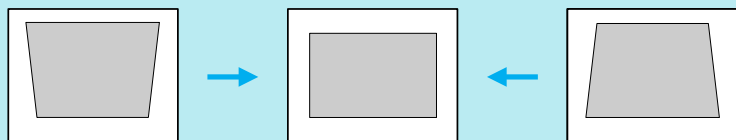


注意 本機を上方向 12°、下方向 4° よりも傾けて設置しないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。



ポイント

本機を上下方向に傾けると、自動タテ補正が働き、自動的にゆがみを補正して映像を投写します。



自動タテ補正は、本機を設置して投写を開始してから約 1 秒後に行われます。自動調整中はタテ補正ゲージが表示されます。

ただし、以下の場合は自動タテ補正は働きません。

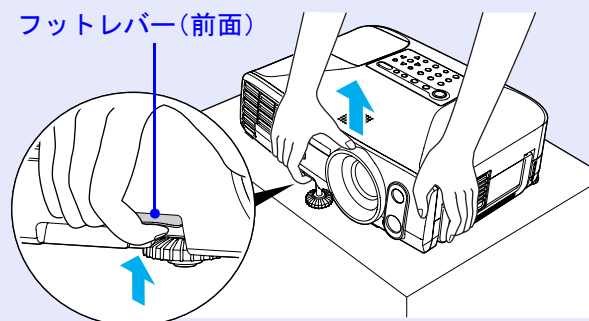
- 環境設定メニューの「設置モード」を「フロント」以外に設定している。
- Auto Quick Corner、Quick Cornerで枠に合わせて、ゆがみ補正をした場合。

操作

前面のフットレバーを引いたまま、本機前面を持ち上げると、フロントフットが伸びます。

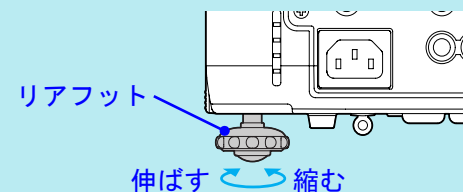
投写したい角度になるまでフロントフットを伸ばし、フットレバーを離します。

フロントフットを収納するには、フットレバーを引いたまま、本機をゆっくり降ろします。



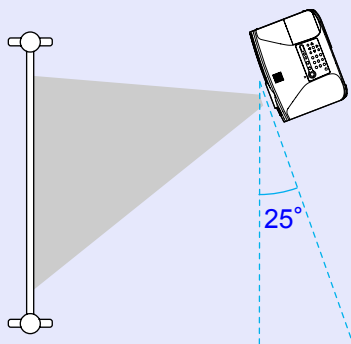
ポイント

本機を下方向に傾ける場合や、水平方向に傾いているときは、左右のリアフットの接地部を回して、高さを微調整してください。本機が水平方向に傾いていると、正しく自動タテ補正が行われない場合があります。



■ 投写する位置を左右に調整する

スクリーンの正面から投写できないときは、サイドから投写できます。



投写面に対する左右の傾きが最大 25° の範囲であれば、ヨコ補正や Quick Corner で映像のゆがみを補正することができます。



ポイント

スクリーンのサイドからの投写で、投写画面が台形にゆがんだ場合でも [Quick Setup] ボタンを押すと「Auto Quick Corner」が働き、自動的にゆがみのない映像に補正されます。

☞ 「投写画面をワンタッチで調整する (Quick Setup)」 p.38

☞ p.62, 64 タテヨコ補正や Quick Corner で手動で補正する

■ 投写画面のサイズ調整 (ズーム調整)

基本的に投写サイズは、スクリーンから本機の設置位置までの距離で合わせます。☞ p.14

ここでは、その後に行う調整の方法を説明します。



ポイント

一部分を拡大する Eズーム機能もあります。☞ p.51

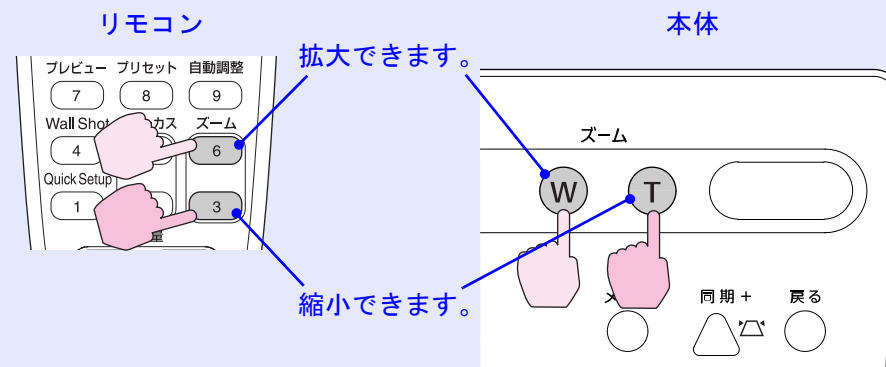
操作

[ズーム] ボタンを押して、大きさを調整します。

ボタンを押している間、ズームの倍率が変わります。

1.6倍まで拡大できます。

さらに拡大したいときは、投写距離で調整します。



投写画面をワンタッチで調整する(Quick Setup)

プロジェクターを持ち運んで使う場合には、投写のたびにフォーカス・ズーム・台形補正などの調整が必要でした。本機では[Quick Setup]ボタンを押すだけで、自動的に次の調整が行なわれ、最適な状態になります。

- 投写映像のピント調整(オートフォーカス)
- 投写映像のゆがみ補正(Auto Quick Corner)

投写する面に対して本機を傾けて設置したときに起こる投写画面の横方向のゆがみを自動的に補正し、4:3 の比率で投写します。スクリーン(縦横が 4:3 の比率になっている場合)があるときは投写映像がスクリーン内ぴったりに収まるように補正されます。

- 投写映像の色補正(Wall Shot)

映像を映す面が白くなくても(黒板や壁)、映像本来の色に見えるように補正します。また、部屋の明るさに応じて階調補正します。



ポイント

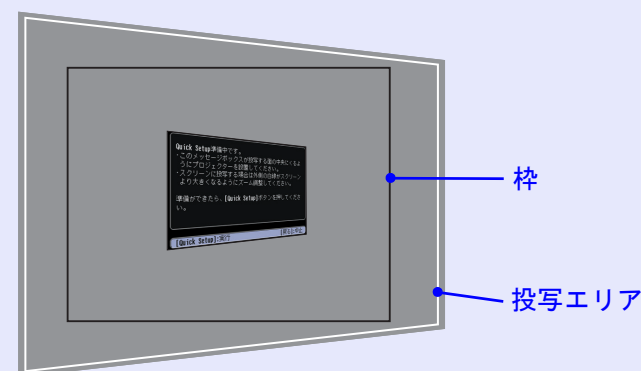
- 環境設定メニューの「Quick Setup設定」で[Quick Setup]ボタンを押したときに実行される機能を設定できます。
初期設定: オートフォーカスとAuto Quick Cornerを実行します。
Wall Shotは実行されません。
☛ 「設定」→「Quick Setup」→「Quick Setup設定」 [p.72](#)
- Wall Shot は、リモコンまたは本体の[Wall Shot]ボタンを押して単独で行うこともできます。☛ [p.49](#)
- Quick Setupで調整した状態は、本機の電源を切っても記憶されます。本機を固定の位置に設置してお使いの場合は、最初に1回Quick Setupを行えば、以降は画面の調整をする必要はありません。
- 環境設定メニューの「設置モード」を「リア」、または「リア・天吊り」に設定している場合はQuick Setupを実行できません。

操作

1

リモコン、または本体の[Quick Setup]ボタンを押します。

「Quick Setup 準備中です。」というメッセージが表示され、自動的にズームがワイドに調整されます。
スクリーンやホワイトボード、黒板に投写する場合は、枠(縁取りの部分)が投写エリアに入るように調整します。

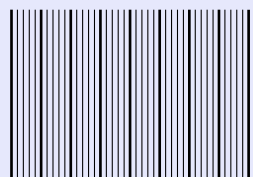


スクリーンやホワイトボード、黒板を使わず壁面に投写する場合は、投写エリアを投写したい位置、大きさにします。

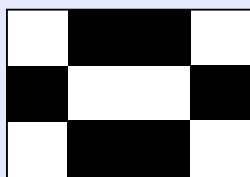
2 再度[Quick Setup]ボタンを押します。

画面の調整が始まります。

調整中は、以下のような調整用の画面が表示されますが、故障ではありません。



(オートフォーカス実行中)

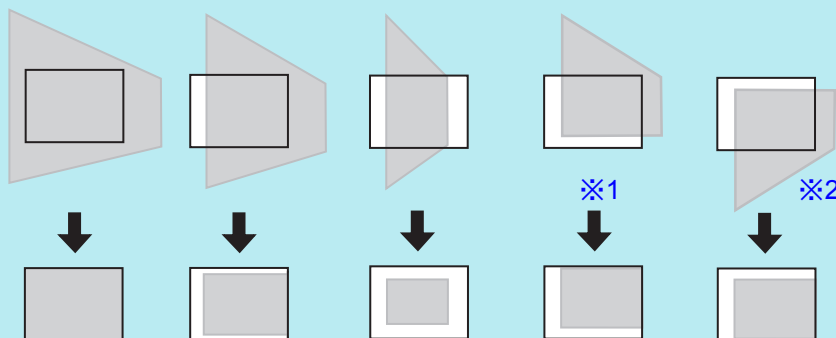


(AutoQuickCorner 実行中)



ポイント

- Quick Setupを途中で止めるには[Esc]ボタン、または[戻る]ボタンを押します。
- Auto Quick Cornerは投写エリア内に枠(3辺以上か、上下または隣り合う2辺)を検知すると、4:3の比率でその枠内に納まるように自動的に補正します。枠とは、スクリーンやホワイトボード、黒板などの縁取りです。枠が横長の場合は、枠の上下に収まるように4:3の比率で投写します。

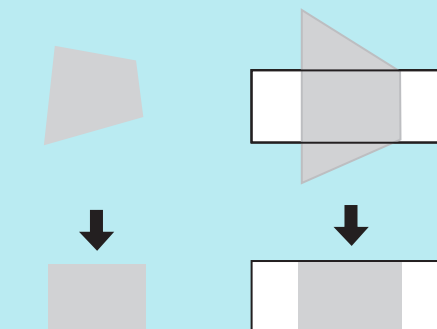


枠が3辺以上あるとき

上下または隣り合う2辺の枠があるとき

※1 設置モードが「フロント」のときは、投写エリア内にスクリーンなどの枠の上辺が入るようにすると正しく補正されます。

※2 設置モードが「フロント・天吊り」のときは、投写エリア内にスクリーンなどの枠の下辺が入るようにすると正しく補正されます。



枠がないとき

枠が横長のとき

- Auto Quick Cornerは、黒縁のスクリーンのように投写面と枠のコントラストがはっきりしているものを使うと適切に補正できます。コントラストがはっきりしていないと正しく補正されないことがあります。黒板などに投写する場合は、チョークで白線の枠を描くか、模造紙を貼るとよいでしょう。
- Auto Quick Cornerでゆがみを補正できるのは以下の範囲内です。以下の範囲を越えると正しく補正されません。なお、上下方向と左右方向の両方とも補正したときや、ズームを「W」に調整したときは以下の補正角度は狭まります。
 - 枠に合わせて補正する場合
上下: 約40° 左右: 約20°
 - 枠のない壁に投写する場合
上下: 約45° 左右: 約15°
- スクリーンまでの距離が7.5m以上の場合、オートフォーカス、Auto Quick Cornerが正しく動作しないことがあります。この場合は手動で調整を行ってください。☞「投写映像を手動で調整する」p.61
- オートフォーカス、Auto Quick Cornerは、センサを使用して行っています。投写面の状態や、外光の影響によっては、正しく機能しない場合があります。この場合は手動で調整を行ってください。☞「投写映像を手動で調整する」p.61

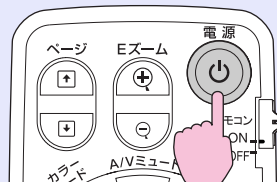
投写を終了するには、次の手順で行います。

操作

- 1 本機に接続している機器の電源をOFFにします。
すべての接続機器の電源が切れていることを確認します。

- 2 リモコン、または本体の[電源]ボタンを押します。
次の確認のメッセージが表示されます。

リモコン



電源を切りますか？

はい: [電源]を押す
いいえ: 他のボタンを押す

電源を切りたくないときは、下記以外のボタンを押します。

- リモコンの場合: [電源]、[戻る]、[進む]、[停止]、[数字]、[ID]ボタン
- 本体の場合: [電源]ボタン

何も操作しないと、約7秒後に自動的にメッセージが消えます(電源は切れません)。



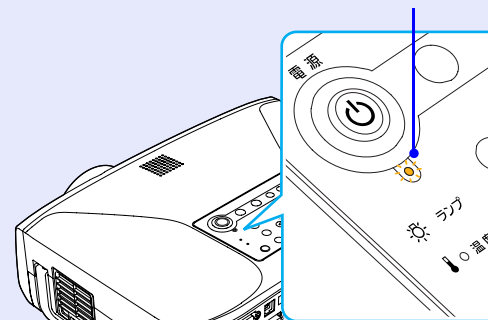
注意

「内部温度が上昇しています。エアーフィルタの掃除や交換を行い、室温を下げてください。」とメッセージが表示されたときは、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押して、電源をOFFにしたあと、エアーフィルタの掃除を行ってください。▶ p.104

- 3 もう一度、リモコンまたは本体の[電源]ボタンを押します。

ランプが消灯します。電源インジケータがオレンジ色の点灯に変わります。

オレンジ色の点灯に変わります。



ポイント

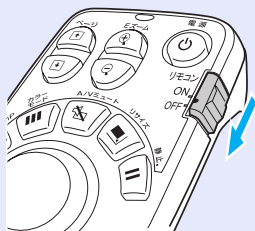
- 本機はダイレクトパワーオフ機能を搭載しています。会議室など電源を集中管理しているところでは、[電源]ボタンを押さずにブレーカーを落として電源を切ってもかまいません。
- 使用後は、すぐに電源ケーブルを抜いて本機を移動させることができます。
- 環境設定メニューで「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定している場合は、ファンが回り続けます。故障ではありませんのでご了承ください。



注意

電源ケーブルを抜いてから次に差し込むまでには、約10秒以上の時間を空けてください。約10秒経たないうちに差し込むと、正常に起動しないことがあります。

4 [リモコン]スイッチをOFFにします。



ポイント

[リモコン]スイッチがONのままになっていると電池が消耗します。
使用しないときは[リモコン]スイッチをOFFにしてください



注意

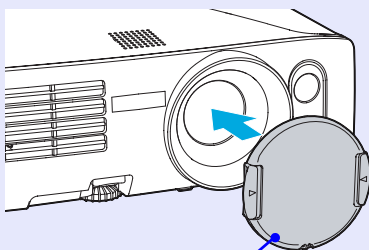
ダイレクトパワーオフを行う場合は、次の点にご注意ください。

- 環境設定メニュー操作中に電源ケーブルを抜いたりブレーカーを落とすと、設定内容が記憶されない場合があります。環境設定メニューを閉じてからダイレクトパワーオフを行ってください。
- ユーザーロゴの登録中に電源ケーブルを抜いたりブレーカーを落とすと、正常に登録されない場合があります。正常に登録されなかった場合はユーザーロゴの登録をやり直してください。

5 レンズカバーを取り付けます。

レンズにホコリや汚れが付着するのを防ぐために、使用しないときはレンズカバーを取り付けます。

レンズカバーは、「カシッ」と音がするまで押し込みます。



レンズカバー

本機の内蔵スピーカ、または本機に接続している外部スピーカの音量を調整します。

操作

音量は、リモコンと本体操作パネル、環境設定メニューから調整できます。

ここではリモコンと本体操作パネルからの調整方法を記載します。

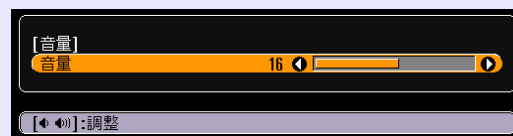
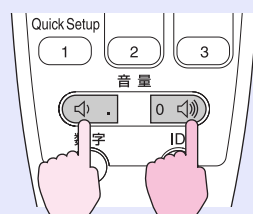
環境設定メニューからの調整  「設定」→「音声」→「音量」 [p.74](#)

リモコン、または本体の[音量]ボタンを押して調整します。

[>]ボタンを押すと音量が上がり、[<]ボタンを押すと下がります。

調整中は音量ゲージが表示されます。

リモコン



ポイント

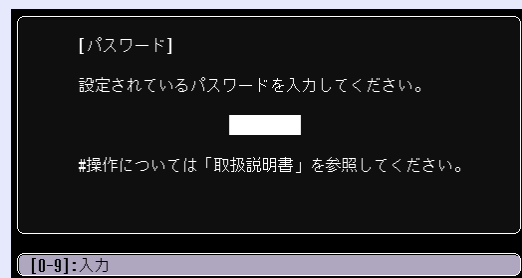
- 音量調整を行っているときに、画面に表示されているゲージの値が変化しなくなったら、音量調整の限界に達したことを示しています。
- 音量の調整結果は各入力ソースごとに保存されます。

パスワードプロテクト機能を有効にすると、電源を入れてもパスワードを知らない人は投写できません。さらに、電源を入れたときに表示される社名ロゴ等を変更できなくなります。この結果、本機を持ち出しても使えないため、盗難等の防止につながります。

パスワードプロテクトを有効にしていると

■「電源投入時」を有効(オン)にしている場合

本機に接続した電源ケーブルをコンセントに接続後、初めて本機の電源を入れた場合や、ダイレクトパワーオンを行ったとき、次のパスワードを入力する画面が表示されます。



設定されているパスワードを、リモコンのテンキーから入力します。👉 [p.44](#)
パスワードを正しく入力すると、投写を開始します。

電源プラグをつないだままにしている、本機のスタンバイ状態から電源を入れた場合は、パスワード入力画面を表示せずに投写が開始されます。電源プラグをコンセントに接続後、初めて本機の電源を入れた場合に限りパスワードを入力する画面が表示されます。ダイレクトパワーオンを「オン」にして、ブレーカーなどで電源の一括管理をしている場合は、通電後はじめて本機の電源が入ったときにパスワードを入力する画面が表示されます。



ポイント

- パスワードプロテクトに関してお問い合わせいただいた際は、お客様から返送いただいた『お客様情報＋正式保証書発行カード』に記載されているお客様のお名前や連絡先などをお聞きし、ご本人様であることを確認させていただきます。同梱の『お客様情報＋正式保証書発行カード』に必要事項を記入して、必ず返送してください。
- 間違ったパスワードを続けて3回入力した場合は、「プロジェクターの動作を停止します。」と、メッセージが約5分間表示され、本機がスタンバイ状態になります。この場合は、電源プラグを抜いて差し直し、本機の電源を入れます。パスワードの入力を求める画面が表示されますので、パスワードを正しく入力してください。万一、パスワードを忘れてしまったときは、画面に表示されている「問い合わせコード:xxxxx」の番号を控えて、インフォメーションセンターにご連絡いただき、その指示に従ってください。👉「お問い合わせ先」[p.124](#)
- 上記の操作を繰り返し、パスワードの誤入力回数が30回に達した場合は、次のメッセージが表示されパスワード入力もできなくなります。「プロジェクターの動作を停止します。エプソン修理センターにお問い合わせください。」👉「お問い合わせ先」[p.124](#)

■「時間設定」で1時間以上に設定した場合

設定した時間が経過するまでの間は、電源投入時にパスワード入力画面はまったく表示されません。設定した時間が経過すると、それ以降は本機の電源を入れるたびにパスワード入力画面が表示されます。ここでいう経過時間とは、本メニュー終了時からカウントとしたランプ点灯時間の合計です。

「時間設定」を0時間で設定すると、本機から電源プラグを抜き差しするたびにパスワード入力画面が表示されます。本機のスタンバイ状態から電源を入れた場合は、パスワード入力画面は表示されません。



■「ユーザーロゴ保護」を有効(オン)にしている場合

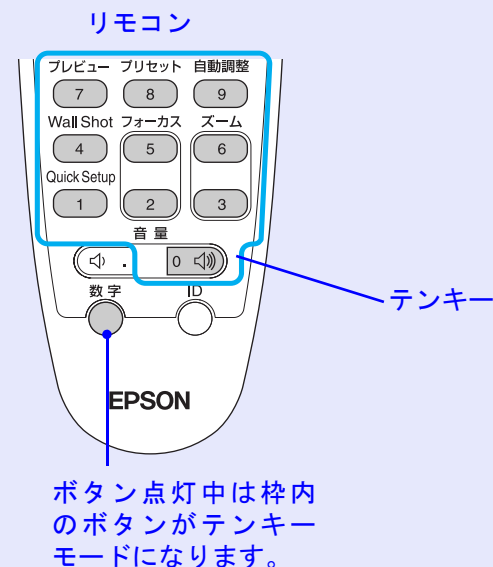
以下のユーザーロゴに関する操作を行おうとすると、メッセージが表示され、変更することができません。変更する場合は、オフにしてから操作してください。🖱️ p.45

- ユーザーロゴのキャプチャを実行する場合
- 環境設定メニューの「拡張設定」→「表示設定」→「背景表示」や「A/V ミュート」の設定を「ロゴ」から「黒」、「青」に変更する、または「黒」、「青」から「ロゴ」に変更する場合
- 環境設定メニューの「拡張設定」→「表示設定」→「スタートアップスクリーン」の設定(「オン」、「オフ」)を変更する場合

リモコンでパスワードを入力するには

パスワードを入力する際は、リモコンの[数字]ボタンを押します。[数字]ボタンが点灯してテンキーモードになり数字が入力できるようになります。

テンキーモードの状態です約 10 秒間何もボタンを押さなかった場合、または、再度[数字]ボタンを押すと、[数字]ボタンが消灯してテンキーモードが解除されます。



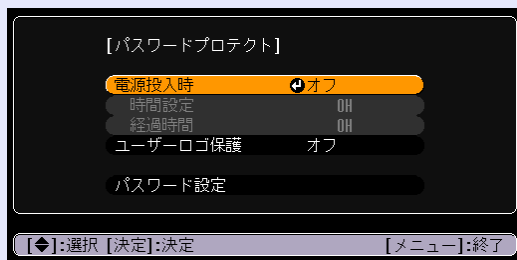
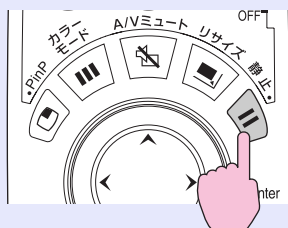
パスワードプロテクトの設定方法

パスワードプロテクトの設定は、以下の手順で行います。

操作

- 1 リモコンの[静止]ボタンを約5秒間押し続けます。
本体操作パネルから操作する場合は、[D]ボタンを押したまま[メニュー]ボタンを約5秒間押し続けます。
パスワードプロテクト設定メニューが表示されます。

リモコン



ポイント

- すでにパスワードプロテクトが有効になっていると、パスワードを入力する画面が表示されます。
パスワードを正しく入力すると、パスワードプロテクト設定メニューが表示されます。☞「パスワードプロテクトを有効にしていると」p.43
- パスワードプロテクトを「オン」にした場合は、盗難防止の効果を高めるために製品同梱のパスワードプロテクトシールを本機のお好きな位置に貼ってください。

2 「電源投入時」を有効にします。

- ①「電源投入時」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。
- ②「オン」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。
- ③リモコンの[Esc]ボタン、または本体の[戻る]ボタンを押します。

3 「時間設定」で、パスワードを入力しなくてもプロジェクターを使える時間を設定します。

時間設定しない場合→手順4に進んでください。

- ①「時間設定」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。
- ②リモコンをテンキーモードにして設定時間を0～9999の範囲で入力し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。
リモコンの[Esc]ボタン、または本体の[戻る]ボタンを押して再度入力できます。
パスワードプロテクト設定メニューを終了し、経過時間のカウントが開始されます。

4 「ユーザーロゴ保護」を有効にします。

- ①「ユーザーロゴ保護」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。
- ②「オン」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。
- ③リモコンの[Esc]ボタン、または本体の[戻る]ボタンを押します。



5 パスワードを設定します。

- ①「パスワード設定」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。
- ②「パスワードを変更しますか?」と表示されるので、「はい」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。
初期設定でパスワードは「0000」に設定されていますが、必ず任意のパスワードに変更してください。
「いいえ」を選択すると、手順1の画面に戻ります。
- ③リモコンをテンキーモードにして、数字4桁でパスワードを入力します。
入力したパスワードは「****」と表示されます。
4桁目を入力すると、確認画面に切り替わります。
- ④入力したパスワードを再度入力します。
「パスワード設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。
間違えてパスワードを入力した場合は、メッセージが表示されますのでパスワード設定をやり直してください。

6 設定が終了したら、[メニュー]ボタンを押します。



ポイント

- 設定時間が過ぎてパスワードを入力した場合、投写開始とともに「経過時間」がクリアされ、カウントが開始されます。
- 設定したパスワードは、忘れないように記録して管理してください。
- リモコンをなくすとパスワードの入力ができなくなります。リモコンは大切に保管してください。



応用編

この章では、投写を効果的にするための機能と環境設定メニューについて説明しています。



便利な機能.....	48
• 映像を見ながら投写映像を選ぶ（プレビュー機能）.....	48
• スクリーンがなくても見やすい映像を投写する (Wall Shot)	49
• A/V ミュート機能	50
• 静止機能	51
• E ズーム機能	51
• PinP（ピクチャー イン ピクチャー）機能	52
• ポインタ機能	53
• プリセット機能	54
• 設定値を記憶する	54
• 記憶した設定値を反映させる	55
• リサイズ / アスペクト比の切り替え	56
• コンピュータの表示種類を切り替える	56
• ビデオ機器の映像投写時に、ワイドサイズの 映像を写す	57
• プロジェクター ID / リモコン ID	58
• プロジェクター本体に ID 番号を登録する	58
• リモコンの ID 番号を登録する	59
• 操作ボタンロック機能	59
• 操作パネルのボタンをロックする	59
• リモコンのボタンをロックする	60

投写映像を手動で調整する	61
• ピントを合わせる（フォーカス調整）	61
• 投写画面のゆがみを手動で補正する（台形補正）	61
• タテヨコ補正	62
• 高さ補正	63
• スクリーンピッタリに台形補正する (Quick Corner)	64
• コンピュータ映像の調整	65
• 自動調整機能	65
• トラッキングの調整	66
• 同期の調整	67
• 映り具合を選ぶ（カラーモード選択）	68
環境設定メニューについて	69
環境設定メニュー一覧	70
• 環境設定メニューの操作	77
ネットワークを使ったプロジェクターの監視・制御 (EMP-830の場合)	79
• EMP-830 のネットワーク機能でできること	79
• SNMP と SNMP マネージャプログラムを使った 監視機能	79
• 同梱のソフトウェアを使った監視・制御機能	79
• ネットワークを使って監視・制御を行うための手順	80
• プロジェクターのネットワーク設定をする (EMP-830)	80

ここでは、プレゼンテーションなどに有効で便利な各機能について説明しています。

映像を見ながら投写映像を選ぶ(プレビュー機能)

現在、入力されている映像信号を一度に投写し、プレビュー画面を見て、映像を切り替えることができます。

プレビュー機能の操作はリモコンを使って行います。

操作

1 リモコンの[プレビュー]ボタンを押します。

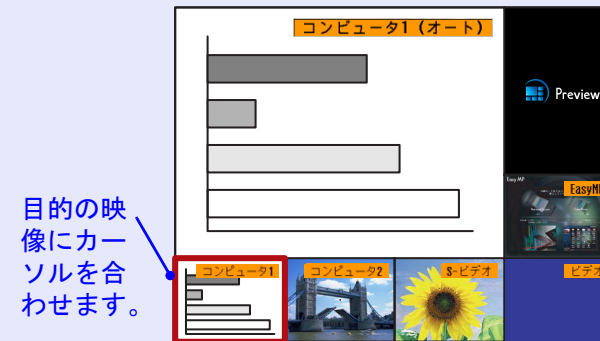
しばらくすると、下図のようなプレビュー画面が投写されます。

プレビューを実行したときに、映像信号が未入力状態や未サポートの信号が入力されている端子は、青色で投写されます。リモコンの入力切替ボタンで投写したい入力ソースを選択すると、プレビューを終了し、選んだ映像が投写されます。



2 映像を詳細に見たいときは、[○]ボタンを傾け、切り替えたい映像を選択します。

赤枠のカーソルを移動させ、目的の映像を選択します。



3 [Enter]ボタンを押します。

選択した映像がアクティブ画面に投写されます。

再度、[Enter]ボタンを押すと、プレビューを終了し、アクティブ画面の映像が投写されます。

プレビュー機能実行前の映像に戻る場合は、[Esc]または[プレビュー]ボタンを押します。





ポイント

- プレビュー画面表示中は、アクティブ画面に投写中の映像の音声がかかります。
- アクティブ画面に投写中の映像以外は、静止画像で投写されます。
- Eズーム機能実行中やリアル表示になっているときに[プレビュー]ボタンを押すと、各機能が解除されてからプレビュー画面が表示されます。映像を切り替えずにプレビュー機能を終了した場合は、プレビュー機能実行前の映像状態に戻ります。

スクリーンがなくても見やすい映像を投写する (Wall Shot)

Wall Shot を使うと、スクリーンの代用として黒板や色のついた壁に投写するような場合でも、映像本来の色を損なわずに投写できます。

例えば、緑色の黒板に投写した場合、投写映像は緑がかった色になり大変見にくくなります。Wall Shot を使うとセンサで投写先の状態を検出し、自動的に色補正を行った状態で投写されます。

さらに、Wall Shot は階調補正も行います。窓際などに設置されているスクリーンに投写していて、ぼやけたように感じるときも Wall Shotを行うとはっきりした映像になります。



ポイント

- Wall Shotが行えるのは、投写距離が約86cm～750cmの範囲です。ただし、ホワイトボードのように光の反射率が高い場合や、暗い色の壁など光を反射しないときなど、投写先の状態によりこの距離は変わることがあります。
- 投写先の壁が柄付きや縞模様の場合、Wall Shotを使ってもセンサが状態を正確に検出できないため、正しく色補正できない場合があります。

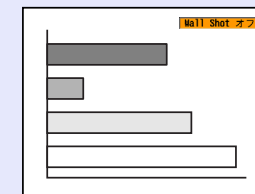
操作

Wall Shotはリモコン、または本体操作パネルから行います。

1 投写している状態で、リモコンまたは本体の[Wall Shot]ボタンを押します。

ボタンを押すと画面上に現在の状態が表示されます。

リモコン



2 状態を変更する場合は、画面に状態が表示されている間に[Wall Shot]ボタンを押します。

例えば、「Wall Shot オフ」と表示されている間に、[Wall Shot]ボタンを押すと「Wall Shot オン」の状態になり投写先の状態の検出を開始します。

検出開始から終了するまでに約5秒かかります。この間は投写画面が赤→緑→青→黒の順で切り替わります。

3 検出後、色の補正が終了すると補正した状態で映像が投写されます。

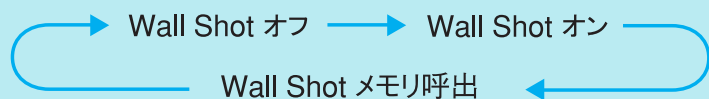
解除するには、画面に「Wall Shot オン」と表示されている間に[Wall Shot]ボタンを押し、「Wall Shot オフ」を選択します。





ポイント

- 本機の電源を切ると、次回は「Wall Shot オフ」の状態での投写を開始します。ただし、前回検出した結果の色補正值は、本機の電源を切っても記憶されています。
前回と同じ場所で投写するときは、前回の色補正值を呼び出すことができます（検出に必要な約5秒はかかりません）。
[Wall Shot] ボタンを押すたびに次の順で状態を選択できます。



「Wall Shot メモリ呼出」を選択すると、前回の調整値が呼び出されます。

- 「Wall Shot オン」のときに、検出をやり直したいときは[Wall Shot] ボタンを押すたびに次の順で状態が切り替わるので、「Wall Shot再調整」を選択します。



A/Vミュート機能

映像と音声を一時的に消します。

例えば、コンピュータの映像を投写中にファイルの切り替えを行うなど、操作内容を表示したくない場合に使用すると便利です。
ただし、動画を消している場合は消えている間も映像と音声は進んでいますので、消したときの場面からは再開できません。

操作

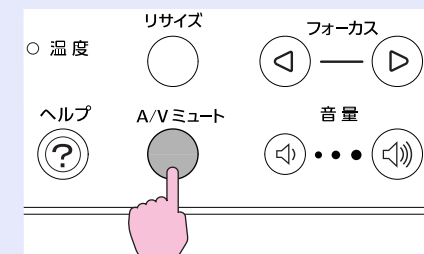
[A/Vミュート] ボタンを押します。

映像と音声が消えます。

リモコン



本体

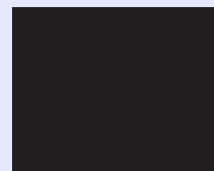


もう一度[A/Vミュート] ボタンを押すと投写を再開します。

リモコンの[Esc] ボタン、または本体の[戻る] ボタンを押しても再開します。

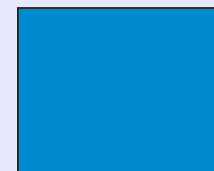
映像と音声を一時的に消したときの状態を、環境設定メニューの「拡張設定」→「表示設定」→「A/V ミュート」により、次の3種類の中から選択できます。☛ p.74

黒一色

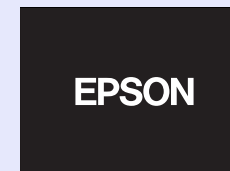


初期設定

青一色



ユーザーロゴ



ポイント

ユーザーロゴにはEPSON ロゴが登録してあります。ユーザーロゴを変更する場合は、ユーザーロゴの登録が必要です。☛ p.109

静止機能

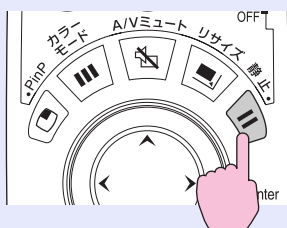
映像の動きを一時的に停止します。ただし、音声は停止しません。
動画を停止している場合は、停止している間も映像は進んでいますので、停止したときの場面からは再開できません。

操作

[静止]ボタンを押します。

映像が停止します。

リモコン



解除するには再び[静止]ボタンを押します。リモコンの[Esc]ボタン、または本体の[戻る]ボタンを押しても解除できます。



ポイント

- 環境設定メニュー、ヘルプメニュー表示中にリモコンの[静止]ボタンを押すと、各メニューは解除されます。
- Eズーム実行時も、静止機能で停止できます。

Eズーム機能

グラフや表など見たい部分を拡大できます。
Eズーム機能の操作はリモコンを使って行います。

操作

1

[Eズーム+]ボタンを押します。

投写中の画面に、ズームを行う中心点を表すカーソル(ターゲットスコープ)が表示されます。

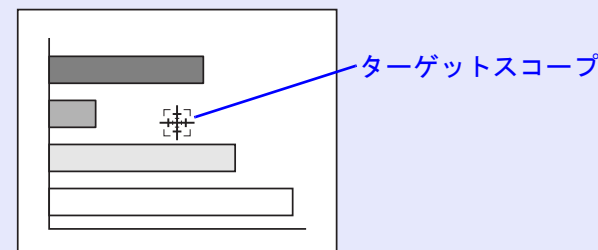
リモコン



2

拡大表示したい部分にターゲットスコープを移動させます。

ターゲットスコープの移動は、[⦿]ボタンを傾けて行います。

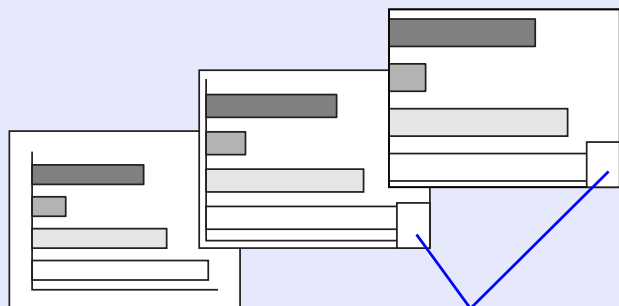


3 **【⊕】ボタンを押すと、ターゲットスコープを中心に映像が拡大されます。**

【⊖】ボタンを押すと拡大した結果を縮小します。

画面右下に倍率が表示されます。

【☺】ボタンを傾けることによって、画面のスクロールができます。



倍率が表示されます

解除するには[Esc]ボタンを押します。



ポイント

- 1～4倍まで、0.125倍刻みに25段階で拡大できます。
- 縮小して1.0倍まで戻ると、Eズーム機能が解除されます。
- 次のボタンは、Eズームで拡大表示したままで使えます。
[電源]、[AVミュート]、[静止]、[メニュー]、[ヘルプ]、[フォーカス]、[ズーム]、[ポインタ]、[ページ]

PinP(ピクチャー イン ピクチャー)機能

現在、投写している画面(親画面)の中に別の映像を小さな画面(子画面)で投写できます。

親画面にはコンピュータ、または EasyMP (EMP-835 の場合) の映像を、子画面にはビデオ映像([コンポジットビデオ](#)、[S-ビデオ](#))を表示できます。

子画面のビデオ映像は、環境設定メニューの「設定」→「PinP 設定」→「子画面映像」で選択します。 [p.73](#)

PinP機能の操作はリモコンを使って行います。



ポイント

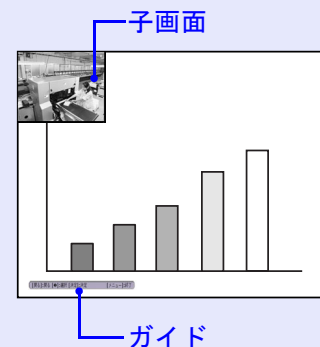
[リフレッシュレート](#)が[インタレース](#)に設定されているコンピュータ映像の場合、PinP機能は働きません。

操作

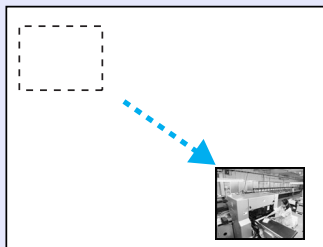
1

親画面、子画面に投写する機器を接続し、環境設定メニューの「設定」→「PinP 設定」→「子画面映像」で子画面の設定を行ったうえでリモコンの[PinP]ボタンを押します。

画面の左上に子画面が、左下に操作ガイドが表示されます。



- 2 リモコンの[>]ボタンを傾けると、子画面の位置を移動できます。



- 3 [Enter]ボタンを押すと、操作ガイド画面が消え、子画面の表示位置が決定されます。

PinPを解除するには、再び[PinP]ボタンを押します。



ポイント

- 子画面の位置は記憶され、次回PinP機能を実行したときの子画面の位置は前回確定した位置になります。
- 親画面と子画面の音声を切り替えるには、環境設定メニューの「設定」→「PinP設定」→「音声出力」で設定します。

ポインタ機能

投写中の映像にポインタを表示させてリモコンで操作できます。ポインタで投写映像を指し示し、どこを説明しているかを明確にしたり、注目させるときに使います。



ポイント

環境設定メニューの「設定」→「ポインタ」でポインタの種類や大きさ、移動速度を設定できます。➡ p.73

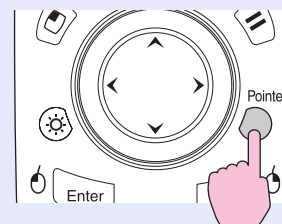
操作

1

[Pointer]ボタンを押します。

画面中央にポインタが表示されます。

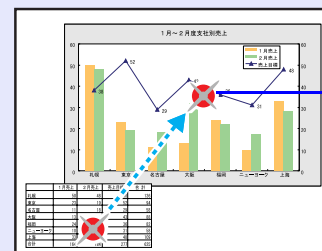
リモコン



2

[>]ボタンを傾けると、ポインタを移動できます。

解除するには、[Pointer]ボタンを押します。ポインタが消えます。



ポインタ

プリセット機能

コンピュータケーブルで接続しているコンピュータのアナログ RGB 映像を投写中に、環境設定メニューの次の設定を記憶させることができます。

- 「画質調整」メニューの全項目。
- 「映像」メニューのうち、「コンピュータ 1 入力」「コンピュータ 2 入力」を除く全項目。

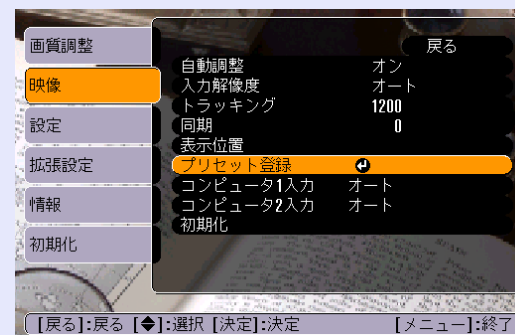
解像度や周波数に応じて設定値を記憶させておけば、リモコンの[プリセット]ボタンを押すだけで現在投写中のアナログ RGB の映像に、記憶させた設定値が反映されます。
最大5個までプリセット登録できます。

■ 設定値を記憶する

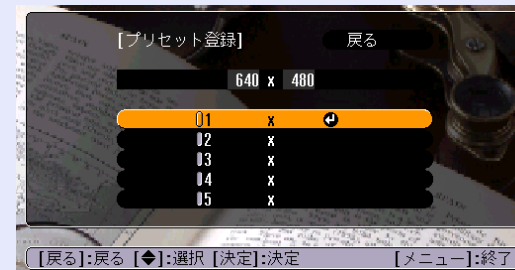
操作

- 1 リモコン、または本体の[メニュー]ボタンを押し、環境設定メニューから「画質調整」または「映像」を選びます。設定内容を記憶させる状態に設定します。☞ p.70, 71

- 2 設定が終わったら「映像」→「プリセット登録」を選択して、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。



- 3 記憶させたい番号(1~5)を選択します。



ポイント

入力解像度が表示されているプリセット番号は記憶済みです。記憶済みのプリセット番号を選択し、再度記憶させると上書きされます。

4 リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押して設定値を記憶させます。

記憶させると記憶した入力解像度が表示されます。



ポイント

- 記憶した内容を消去するには、環境設定メニューの「映像」→「初期化」を選択してください。ただし、プリセット登録した内容がすべて初期化されます。
- Wall Shot オン/オフにかかわらず、プリセット登録ができます。ただし、Wall Shotの設定は登録されません。

■ 記憶した設定値を反映させる

操作

コンピュータケーブルで接続しているコンピュータのアナログRGB映像を投写中に、リモコンの[プリセット]ボタンを押すと、記憶した「画質調整」および「映像」メニューの設定値が投写中の映像に反映されます。

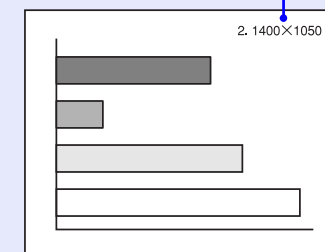
ボタンを押すたびに昇順で記憶したプリセット番号に切り替わります。

画面上に番号と入力解像度が表示されている間に[プリセット]ボタンを押さないと切り替わりません。

リモコン



プリセット番号と入力解像度が表示されます。



ポイント

- 未登録のプリセット番号はとばして切り替わります。
- 1つもプリセット登録していない場合は、リモコンの[プリセット]ボタンを押すと「登録されていません」と表示されます。

リサイズ/アスペクト比の切り替え

EasyMP実行中(EMP-835のみ)は、リアル表示への切り替えやアスペクト比の変更は行えません。

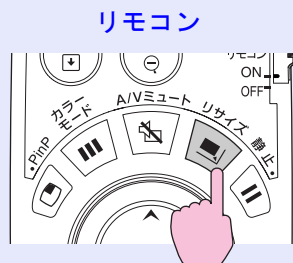
■コンピュータの表示種類を切り替える

コンピュータの映像投写時は、投写サイズいっぱいになるように投写する「リサイズ表示」と、入力信号の解像度のまま投写する「リアル表示」を切り替えることができます。

初期設定ではリサイズ表示されます。

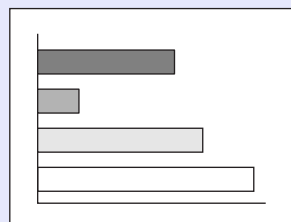
操作

[リサイズ]ボタンを押すたびに、リアル表示 / リサイズ表示が切り替わります。

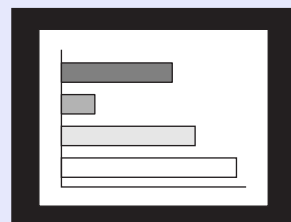


入力信号の解像度がパネル解像度(1024×768)より小さい場合

リサイズ表示



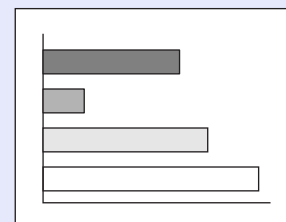
リアル表示



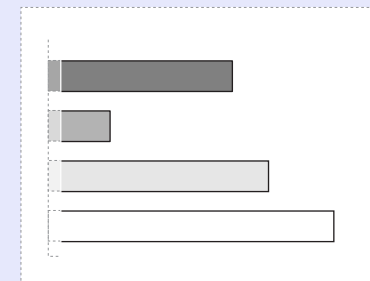
画面中央に入力信号の解像度のまま投写されます。

入力信号の解像度がパネル解像度(1024×768)より大きい場合

リサイズ表示



リアル表示



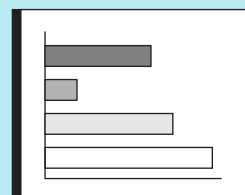
映像の中央部分が投写されます。
リモコンの[○]ボタンを傾けると映像をスクロールできます。



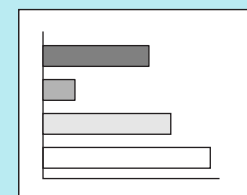
ポイント

- 投写映像の表示種類は各入力ソースごとに保存されます。
- 入力信号の解像度がパネル解像度(1024×768ドット)と同じサイズの場合は映像サイズは切り替わりません。
- SXGA(5:4)の入力信号の場合は、本体の[シフト]ボタンを押したまま[リサイズ]ボタンを押すたびに映像の位置が次のように切り替わります。

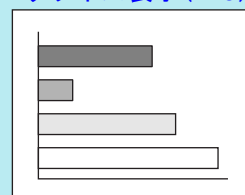
リサイズ表示(5:4)



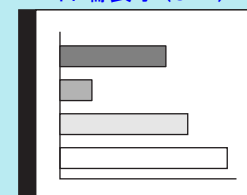
左端表示(5:4)



リサイズ表示(4:3)



右端表示(5:4)



■ ビデオ機器の映像投写時に、ワイドサイズの映像を写す

コンポーネントビデオ (YCbCr)、YPbPr、S-ビデオ、コンポジットビデオ 投写時は、アスペクト比 4:3と16:9を切り替えることができます。

デジタルビデオで録画した映像やDVD映像を16:9のワイド画面で投写できます。

操作

[リサイズ]ボタンを押すたびに表示が切り替わります。

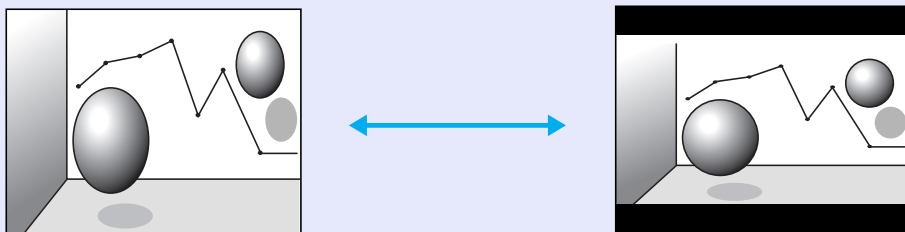


SDTV時

16:9出力(スクイーズモード)の映像を4:3のアスペクトで表示すると水平方向に圧縮され縦長の映像になります。

スクイーズモードの映像
を4:3で投写した場合

スクイーズモードの映像
を16:9で投写した場合

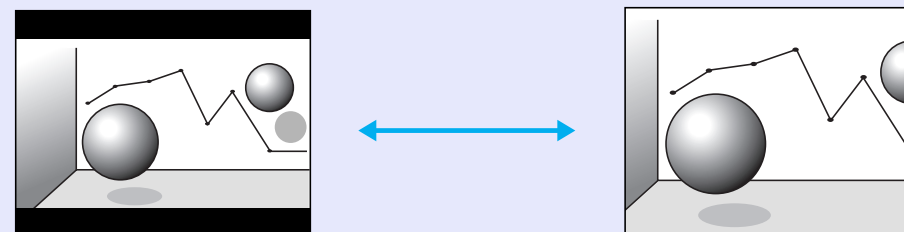


HDTV時

16:9出力(スクイーズモード)の映像を4:3のアスペクトで表示すると、縦方向にいっぱいになるようにリサイズし、表示しきれない左右をカットします。

スクイーズモードの映像
を16:9で投写した場合

スクイーズモードの映像
を4:3で投写した場合



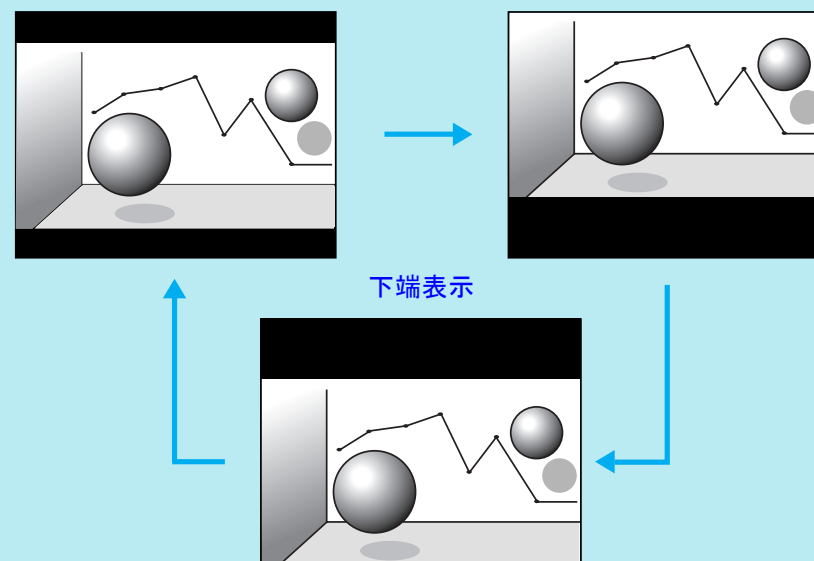
ポイント

アスペクト比が16:9の映像を投写中の場合は、本体の[シフト]ボタンを押したまま、[リサイズ]ボタンを押すたびに映像の位置が次のように切り替わります。

中央表示

上端表示

下端表示



プロジェクターID/リモコンID

ショーなどで本機を複数台使用する場合、プロジェクターとリモコンにID番号を登録すると、ID番号が一致するプロジェクターだけをリモコンで操作できるようになります。反対に、リモコンのID番号を「0」に設定すると、プロジェクター本体のID番号にかかわらず、すべてがリモコンの操作対象になります。



ポイント

ID番号の初期設定値は、プロジェクター本体が「1」、リモコンが「0」になっています。

■ プロジェクター本体にID番号を登録する

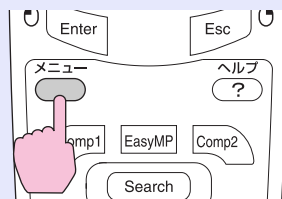
操作

- 1 [メニュー]ボタンを押し、環境設定メニューで「拡張設定」→「プロジェクターID」を選びます。

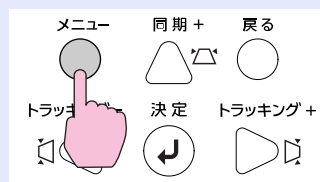
操作の詳細は、「環境設定メニューの操作」をご覧ください。

👉 p.77

リモコン

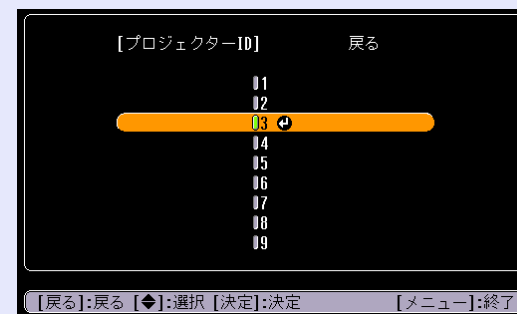


本体



- 2 リモコンの[○]ボタン、または本体の[△][▽]ボタンで登録したいID番号(1~9)を選択します。

リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押し、ID番号を決定します。



- 3 設定が終了したら[メニュー]ボタンを押し、環境設定メニューを終了します。

登録が終了すると、ID番号が一致する、またはID番号が「0」に設定されているリモコンからの操作だけを受け付けます。

■ リモコンの ID 番号を登録する

操作

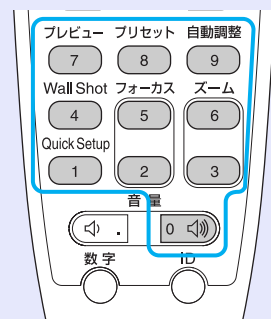
- 1 [ID]ボタンを押します。
[ID]ボタンが点灯します。

リモコン



- 2 [0]～[9]ボタンを押してIDを指定します。
[ID]ボタンが消灯し、登録が終了します。「0」以外に登録した場合は、ID 番号が一致するプロジェクター以外は操作できなくなります。

リモコン



ポイント

現在設定されているリモコン ID を確認したいときは、リモコンの [ID] ボタンを押し、[ID] ボタンが点灯したら、もう一度 [ID] ボタンを押します。しばらくすると、設定されている ID 番号の数だけ [ID] ボタンが点滅します。

操作ボタンロック機能

本体操作パネルやリモコンのボタンをロックします。

- 操作パネルボタンロック
イベントやショーなどで、投写のみ行い、操作はまったくできないようにしたり、学校などで、操作できるボタンを制限したいときに便利です。
- リモコンボタンロック
プレゼンテーション中の誤操作を防ぐために、調整関連のボタンをロックすることができます。

■ 操作パネルのボタンをロックする

操作パネルの全ボタン、または一部のボタンをロックできます。

操作

- 1 リモコン、または本体の [メニュー] ボタンを押し、環境設定メニューから「設定」→「操作ボタンロック」→「本体設定」を選びます。

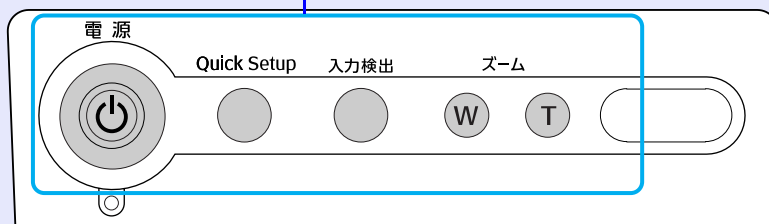


2 「完全ロック」または「部分ロック」に設定します。

「完全ロック」に設定すると、操作パネルの[電源]ボタンを除く全ボタンが操作できなくなります。

「部分ロック」に設定すると、簡単セットアップボタン以外のボタンが操作できなくなります。

簡単セットアップボタン



3 確認のメッセージが表示されるので、「はい」を選びます。

設定に従い、操作パネルのボタンがロックされます。



ポイント

操作パネルボタンロックを解除するには、次の2通りの方法があります。

- リモコンを使って、環境設定メニューの「設定」→「操作ボタンロック」→「本体設定」を[オフ]に設定します。
- 本体の[決定]ボタンを約7秒間押し続けると、メッセージが表示され、ロックが解除されます。

■ リモコンのボタンをロックする

プレゼンテーション中の誤操作を防ぐため、リモコンの一部のボタンをロックできます。

操作

1 リモコン、または本体の[メニュー]ボタンを押し、環境設定メニューから「設定」→「操作ボタンロック」→「リモコン設定」を選びます。

2 「部分ロック」に設定します。

3 確認のメッセージが表示されるので、「はい」を選びます。

次の枠囲いしたリモコンボタンの操作ができなくなります。

リモコン



ポイント

リモコンボタンロックを解除するには、環境設定メニューの「設定」→「操作ボタンロック」→「リモコン設定」を[オフ]に設定します。👉 p.73

ピントを合わせる(フォーカス調整)

操作

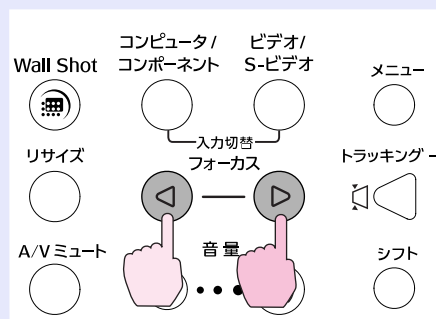
[フォーカス]ボタンを押してピントを合わせます。

台形補正やシャープネス設定を行っているとピントが合わないことがあります。

リモコン



本体



ポイント

- レンズが汚れているときや結露して曇っているときはピントが合いません。汚れや曇りを取り除いてください。☞ p.89, 104
- 設置距離が86~1473cmから外れると、ピントが合いません。設置距離を確認してください。

投写画面のゆがみを手動で補正する(台形補正)

本機は、投写時に上下の傾きを検知し、自動的にタテ補正を行う「自動タテ補正機能」を備えています。本機を左右に傾けて設置したときなど、ヨコ方向のゆがみ補正も行いたい場合は Auto Quick Corner を使います。Auto Quick Corner は、[Quick Setup] ボタンを押して実行します。☞ 「投写画面をワンタッチで調整する[Quick Setup]」p.38

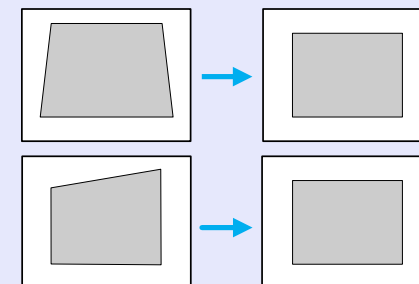
自動タテ補正や Auto Quick Corner の結果を微調整したい場合は、手動で補正を行います。

本機は、次の2種類の台形補正の機能を装備しています。

• タテヨコ補正

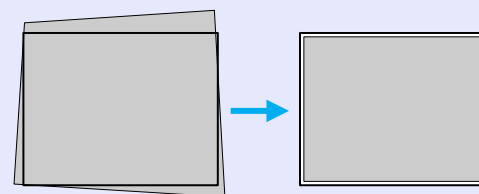
☞ 「タテヨコ補正」p.62

☞ 「高さ補正」p.63



• Quick Corner(クイックコーナー)

投写画面が縦・横両方向の台形にゆがんでいる場合に、4つの角を調整してスクリーンピッタリになるように補正します。☞ p.64



上記の補正方法は、自動タテ補正や Auto Quick Corner の実行状態により自動的に選択されます。選択の条件は次のとおりです。

- 自動タテ補正だけが行われた場合、あるいは投写面が壁など、枠がない状態で Auto Quick Corner を行った場合。
タテヨコ補正が選択されます。環境設定メニューの「台形補正」での設定も切り替わります。
- スクリーンなどの枠がある状態で Auto Quick Corner を行った場合。
Quick Corner が選択されます。環境設定メニューの「台形補正」での設定も切り替わります。
- Auto Quick Corner を行っていない場合。
環境設定メニューの「台形補正」の設定状態に従います。



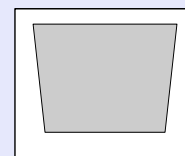


ポイント

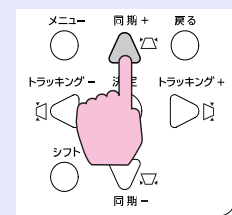
- タテ補正は約45°まで補正できます。
ヨコ補正は約25°まで補正できます。
本機を上方向12°、下方向4°よりも傾けて設置しないでください。
ただし、次の設定により対応できる角度は小さくなります。
- 上下方向と左右方向の両方とも傾けた場合
- ズームを「W」側に調整している場合
- 傾斜角度が大きくなるほど、投写映像の輪郭部分のピントが合いにくくなります。
- 台形補正の補正量が大きくなると、文字や罫線などの細かい部分がぼやけます。台形補正で文字のつぶれやにじみが目立つ場合は、シャープネスを下げてください。☞ p.70
- 台形補正の状態は本機の電源を切っても記憶されます。投写位置や角度を変えたときは、補正し直してください。
- 台形補正をすると画面が小さくなります。必要に応じてズーム調整をしてください。☞ p.37

操作

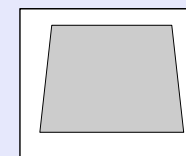
上辺が広いとき



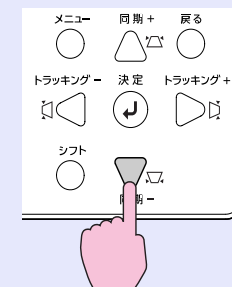
本体



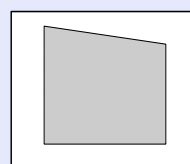
底辺が広いとき



本体



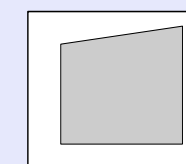
左辺が広いとき



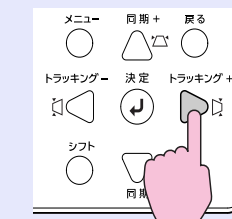
本体



右辺が広いとき



本体



■ タテヨコ補正

タテヨコ補正は本体操作パネルと環境設定メニューから行えます。
ここでは、本体操作パネルからの補正方法を記載します。

環境設定メニューからの補正 ☞ 「設定」→「台形補正」→「タテヨコ」p.72

「ヨコ補正」と「高さ補正」を一緒に使うことはできません。高さ補正を行っているときにヨコ補正を行うと高さ補正は解除されます。



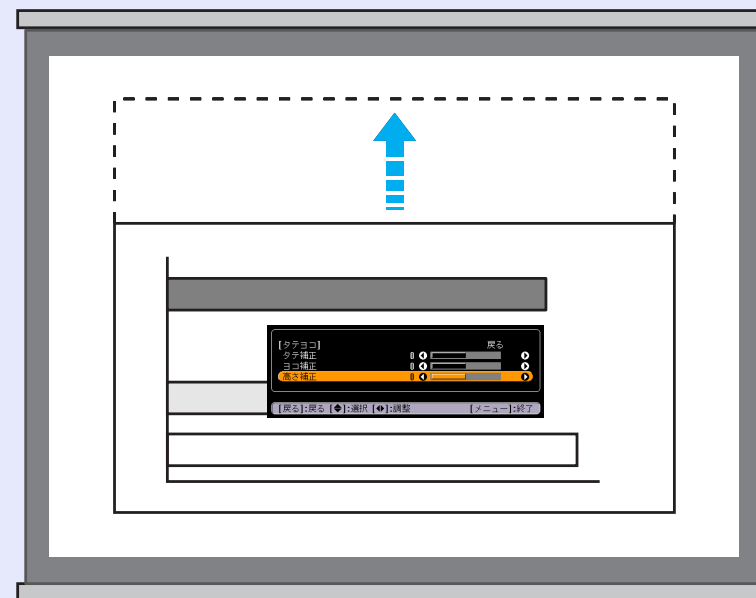


ポイント

- [△][▽][◀][▶]を押したとき「Quick Corner」の補正画面が表示される場合は「Quick Corner」が選択されています。☞ p.64
タテヨコ補正を行う場合は、環境設定メニューの「設定」→「台形補正」で「タテヨコ」を選択してから操作を行ってください。☞ p.72
- タテヨコ補正を行っているときに、画面に表示されるゲージの値が変化しなくなった場合は、補正量の限界に達したことを示しています。本機を制限以上に傾けて設置していないか確認してください。

2

リモコンの[○]ボタンを左右に傾けるか、または本体の[◀][▶]ボタンを押して、投写映像を見ながら高さを補正します。



3

設定が終了したら、リモコンまたは本体の[メニュー]ボタンを押して環境設定メニューを終了します。

高さ補正

自動タテ補正やタテ補正を行うと画面の高さが低くなります。画面の高さを補正するには高さ補正で行います。

高さ補正は環境設定メニューから行います。

ヨコ補正を行っているときは、設定できません。

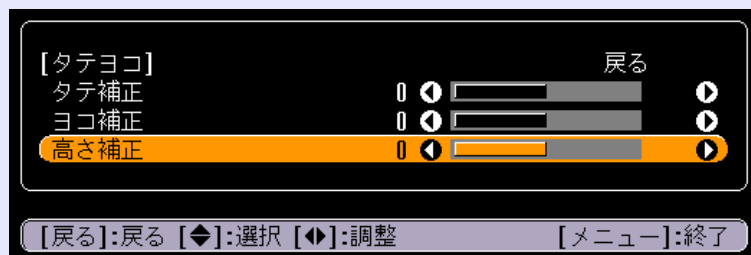
操作

1

リモコン、または本体の[メニュー]ボタンを押します。環境設定メニューで「設定」→「台形補正」→「タテヨコ」→「タテ/ヨコ/高さ」→「高さ補正」を選びます。

操作の詳細は、「環境設定メニューの操作」をご覧ください。

☞ p.77

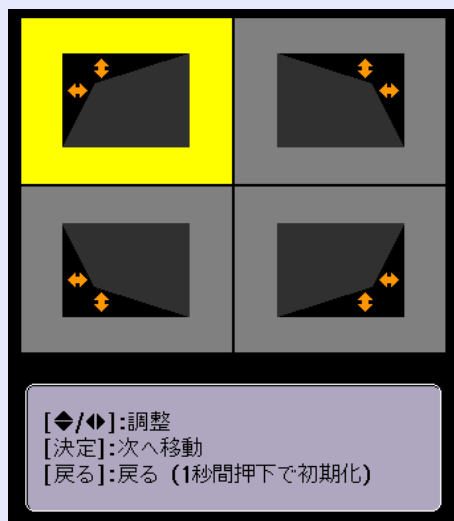


■ スクリーンピッタリに台形補正する(Quick Corner)

Quick Corner は本体操作パネルと環境設定メニューから行えます。
ここでは、本体操作パネルからの補正方法を記載します。
環境設定メニューからの補正 ④「設定」→「台形補正」→「Quick Corner」p.72

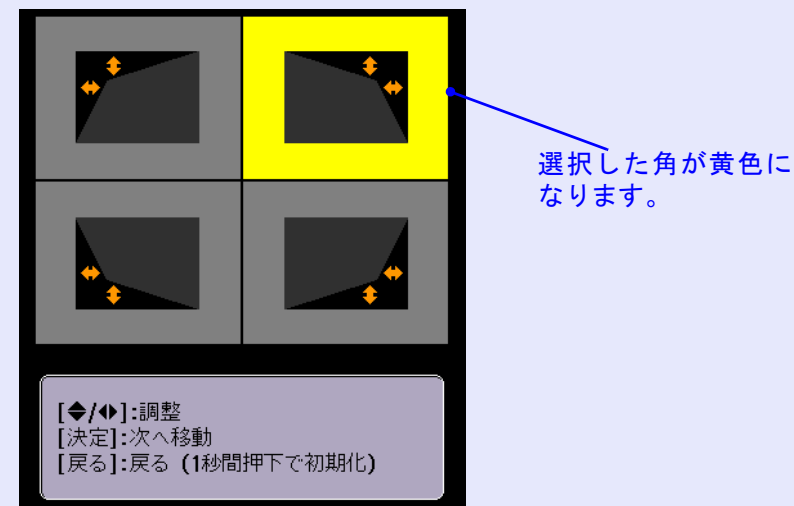
操作

- 1 本体の[△][▽][◀][▶]のどれか1つを押します。
Quick Cornerの補正画面が表示されます。



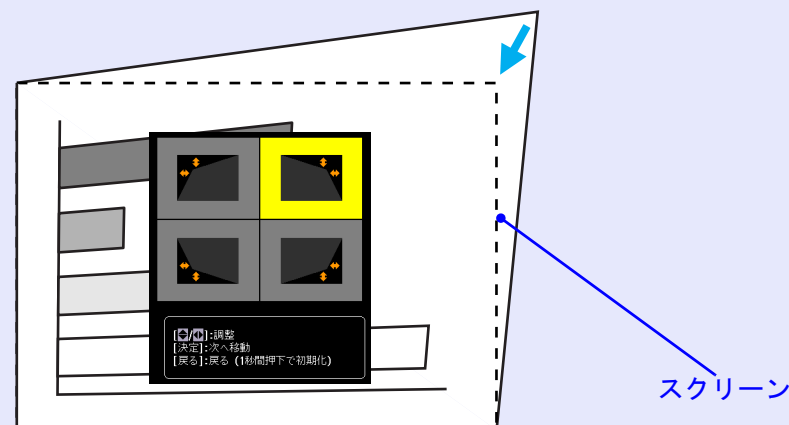
- 2 本体の[決定]ボタンを押して補正する角を画面で選択します。

リモコンの[Enter]ボタンを押して選択することもできます。



- 3 本体の[△][▽][◀][▶]ボタンを押して角の位置を補正します。

リモコンの[⊙]ボタンを傾けて角の位置を補正することもできます。





ポイント

- [△][▽][□][◇]を押したときタテ補正、またはヨコ補正のゲージが表示される場合は「タテヨコ補正」が選択されています。
☞ p.62
Quick Cornerを行う場合は、環境設定メニューの「設定」→「台形補正」で「Quick Corner」を選択してから操作を行ってください。
☞ p.72
- Quick Cornerの補正画面表示中に、リモコンの[Esc]ボタン、または本体の[戻る]ボタンを約1秒間押し続けると、補正した画面を初期化できます。
- Quick Cornerで補正中に、画面に「これ以上調整できません。」と表示された場合は、補正量の限界に達したことを示しています。以下の2点を確認してください。
 - 目的のスクリーンサイズに適した投写距離になっていますか
☞ p.14
 - 本機を制限以上に傾けていませんか ☞ p.61
- Quick Cornerで補正中に、映像信号が入力されなくなる、または未サポート信号に切り替わった場合は、補正值が記憶され Quick Cornerを終了します。
- Quick Cornerの補正画面を表示すると、次の機能は解除されます。
 - Eズーム機能
 - リアル表示
 - フリーズ

4

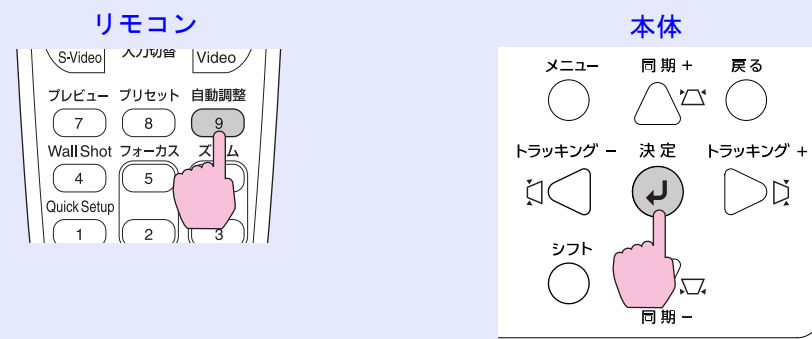
補正を終了するときは、リモコンまたは本体の[メニュー]ボタンを押します。

コンピュータ映像の調整

自動調整機能

コンピュータケーブルで接続しているコンピュータのアナログ RGB 信号を判断し、コンピュータの映像を最適な状態に自動的に調整します。

自動調整機能の初期設定はオンになっていますが、映像が正しく表示されない場合や、環境設定メニューの「映像」→「自動調整」を「オフ」に設定している場合は、コンピュータの映像(アナログ RGB)を投写中に、リモコンの[自動調整]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押してください。



自動調整機能で調整されるのは、[トラッキング](#)、表示位置、[同期](#)の3項目です。環境設定メニューで「コントラスト」を「マニュアル」で設定していた場合、「オート」に変わります。



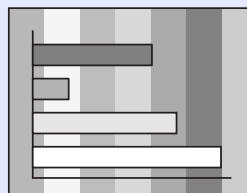


ポイント

- Eズーム機能や静止機能を実行しているときにリモコンの[自動調整]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押すと、実行している機能を解除してから調整します。
- コンピュータが出力している信号によっては、うまく調整できない場合があります。そのような場合は、トラッキングと表示位置、同期をそれぞれ調整してください。☞ p.36, 66, 67
- プレビュー機能を実行しているときは、自動調整機能は働きません。

■ トラッキングの調整

自動調整を行っても、コンピュータの映像に縦の縞模様が出て調整しきれない場合は、次のように個別にトラッキングの調整を行います。(RGB入力するとき有効です。)

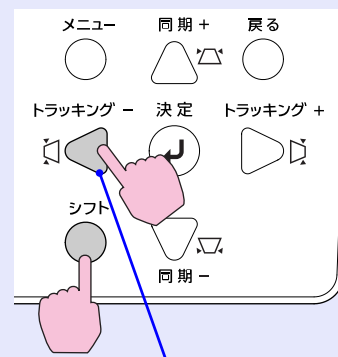


操作

トラッキングの調整は、本体操作パネルと環境設定メニューから調整できます。ここでは本体操作パネルからの調整方法を記載します。環境設定メニューからの調整 ☞ 「映像」→「トラッキング」 p.71

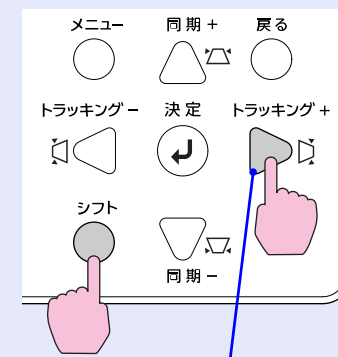
本体の[シフト]ボタンを押したまま[□]、または[▷]ボタンを押して映像の縞模様が消えるように設定します。

本体



[□]ボタンを押すたびに
トラッキングの値が下がります。

本体



[▷]ボタンを押すたびに
トラッキングの値が上がります。



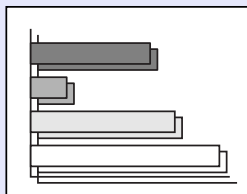
ポイント

連続してトラッキングを調整すると、投写映像が点滅しますが、故障ではありません。



同期の調整

自動調整を行っても、コンピュータの映像にちらつき、ぼやけ、横ノイズが出て調整しきれない場合は、次のように個別に[同期](#)調整を行います。(RGB入力するとき有効です。)

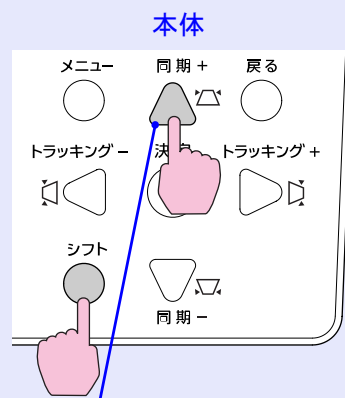


操作

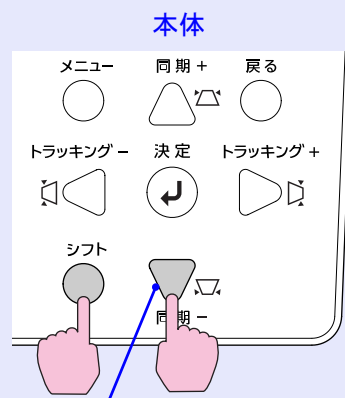
同期の調整は本体操作パネルと環境設定メニューから調整できます。ここでは本体操作パネルからの調整方法を記載します。

環境設定メニューからの調整 「映像」→「同期」 [p.71](#)

本体の[シフト]ボタンを押したまま[△]、または[▽]ボタンを押して映像のちらつき、ぼやけ、横ノイズが消えるように設定します。



[△]ボタンを押すたびに同期の値が上がります。



[▽]ボタンを押すたびに同期の値が下がります。



ポイント

- トラッキングを合わせてから同期を調整しないと、完全には調整できません。トラッキングのずれは、表示している画面によっては目立たない場合があります。縦線や網点の多い画面では目立ちやすくなりますので、トラッキングのずれを確認してください。
- ちらつき、ぼやけは、明るさや[コントラスト](#)、シャープネス、台形補正の調整で起こることもあります。

映り具合を選ぶ(カラーモード選択)

映像の特徴に合わせた次の5種類の設定があらかじめ記録されています。投写映像に応じて選択するだけで、簡単に最適な画質で投写できます。モードによって投写の明るさが異なります。

モード名	使い方
ダイナミック	明るさを重視した、鮮やかでメリハリを付けた映像にします。
プレゼンテーション	明るさを重視した、明るい部屋でのプレゼンテーション用です。
シアター	自然な色合いで映画に最適です。
リビング	明るさを重視した、明るい部屋でのゲーム用です。
sRGB ▶▶	色の標準規格であるsRGBに準拠します。接続している機器にsRGBモードがある場合、本機と接続機器の両方ともsRGBに設定して使用します。

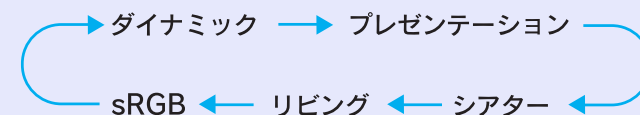
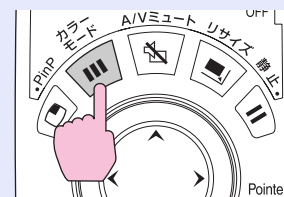
操作

カラーモードの選択はリモコンと環境設定メニューから選択できます。ここではリモコンからの選択方法を記載します。

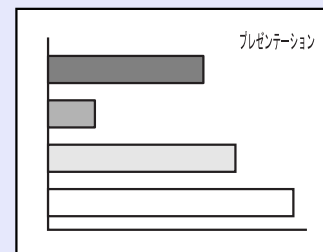
環境設定メニューからの選択 ▶▶ 「画質調整」→「カラーモード」 p.70

[カラーモード]ボタンを押すたびに次の順でカラーモードが切り替わります。

リモコン



モードを切り替えるたびに、画面上に現在の設定が表示されます。



カラーモードの初期設定値は、次のとおりです。
 コンピュータ映像入力時:「プレゼンテーション」
 その他の映像入力時:「ダイナミック」

環境設定メニューでは、各種調整や設定ができます。

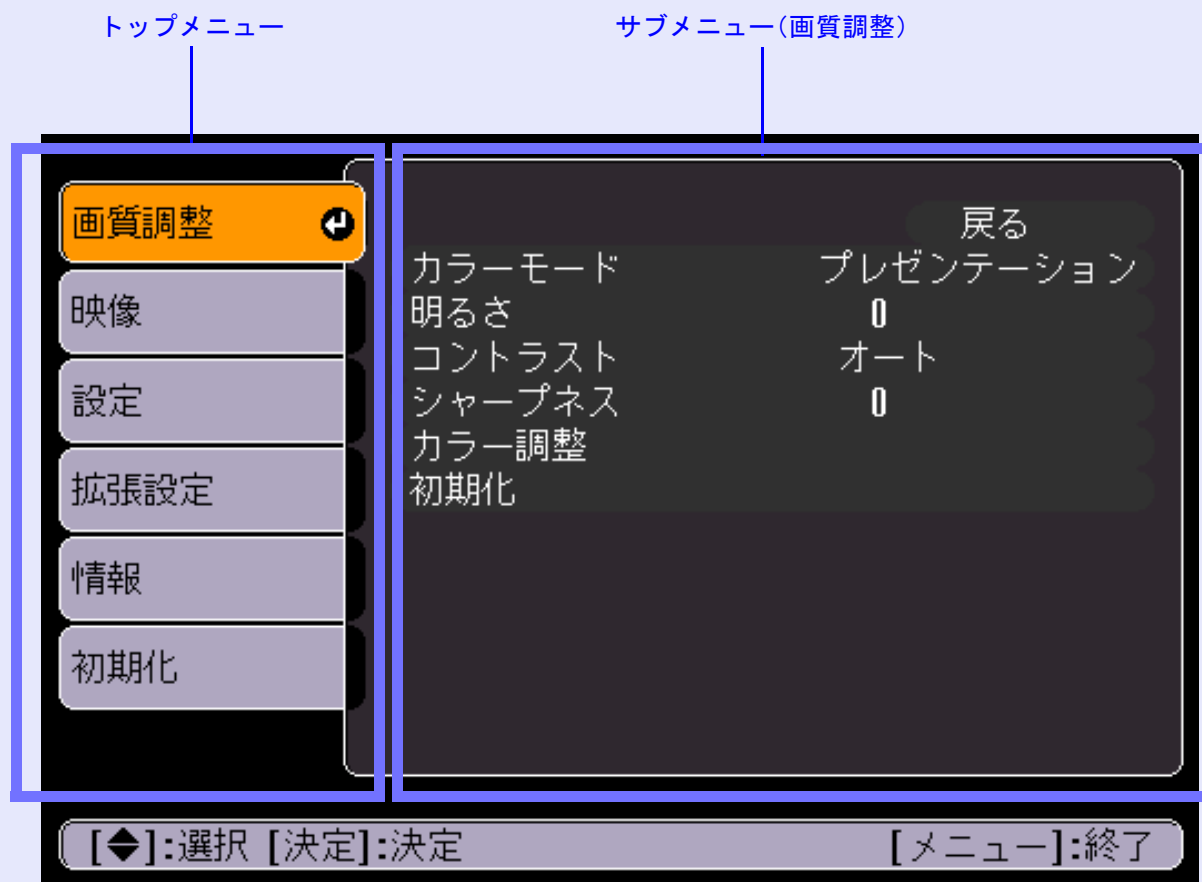
メニューは、トップメニューとサブメニュー、サブメニュー2があり、階層構造になっています。

操作方法の詳細は、「環境設定メニューの操作」 p.77をご覧ください。



注意

環境設定メニューを操作中にダイレクトパワーオフを行うと、設定した状態が記憶されないことがあります。
ダイレクトパワーオフは、環境設定メニューを終了させてから行ってください。



環境設定メニューで設定できる機能と初期設定値は、次のとおりです。

映像信号の種類によって表示されるメニューや初期値が変わります。*1～*7をクリックすると、そのメニューの表示条件(*3～*7)や初期値(*1～*2)を確認できます。表示条件によって、メニュー名を色分けしています。

■ 初期設定値

■ 画質調整

現在投写している入力ソースにより設定できる項目が異なります。内容は、入力ソースごとに保存されます。

カラーモード

ダイナミック*1, プレゼンテーション*2, シアター, リビング, sRGB▶

使用シーンに応じて、5種類から画質を選択できます。▶ p.68

明るさ

中心値(0)

映像の明るさを調整します。

コントラスト

中心値(0)*1

映像の明暗の差を調整します。入力ソースが*3の場合は、以下の選択ができます。

オート*3

コントラストを自動で最適値に調整します。

マニュアル*3

コントラストを手動で調整します。

色の濃さ*4

中心値(0)

映像の色の濃さを調整します。

色合い*4

中心値(0)

映像の色合いを調整します。

シャープネス

中心値(0)

映像のシャープ感を調整します。

カラー調整

中心値(0)

入力ソースごとに、絶対色温度▶と赤緑青の各色の強さを調整します。

「カラーモード」を「sRGB」に設定している場合は、「カラー調整」は選択できません。

初期化

はい, いいえ

「画質調整」メニューの調整値をすべて初期値に戻します。

全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは

▶ p.76

絶対色温度

10000K, 9300K, 8500K, 8000K, 7500K*2, 7000K, 6700K, 6500K*1, 6000K, 5500K, 5000K

(カラーモードによる)

白色を赤みがかった色から、青みがかった色に調整できます。色温度が低いほど赤みを帯びて落ち着いた色調になります。色温度が高いほど青みを帯びてすがすがしい色調になります。

赤

中心値(0)

調整は画面の状態を見ながら行ってください。

緑

中心値(0)

青

中心値(0)

■映像

現在投写している入力ソースにより設定できる項目が異なります。内容は、入力ソースごとに保存されます。

EMP-835をお使いの場合、EasyMPを起動中は「映像」メニューの設定は行えません。

自動調整*1 オン, オフ

映像信号が切り替わったときに、映像を自動で最適な状態に調整する自動調整機能のオン/オフを設定します。

入力解像度*1 オート, マニュアル

「オート」は、映像信号により解像度を自動設定します。「オート」に設定していても正しく投写されない場合は、「マニュアル」で解像度を設定します。

トラッキング*1 映像信号による

映像に縦の縞模様が出るときに調整します。  p.66

同期*1 映像信号による

映像にちらつき、ぼやけ、横ノイズが出るときに調整します。  p.67

表示位置

映像の表示位置を上下左右に調整します。

プリセット登録*1 1, 2, 3, 4, 5

「画質調整」メニューと「映像」メニューの設定値を登録します。  p.54

プログレッシブ変換*2 オフ

各フィールドの画面内でインターレース(I)信号をプログレッシブ(P)に変換します。動きの大きい映像をお楽しみいただくときに適しています。

ビデオ

IP変換は行います。[フィルム判定機能](#)はオフにします。一般のビデオ映像に適しています。

フィルム/オート

通常はこの設定で使用します。自動的に映画ソースかどうかを判断し、映画の場合は、オリジナルとそん色のないフィルム映像を再現します。

コンピュータ1入力*3
オート, RGB, コンポーネントビデオ

[コンピュータ 1/コンポーネント]、[コンピュータ 2/コンポーネント]端子に接続している機器の映像信号を選択します。「オート」では、映像信号を自動認識します。

コンピュータ2入力*3
オート, RGB, コンポーネントビデオ

「オート」に設定していて、色が正しく表示されない場合は、接続している機器の信号に応じて適切な信号を選択してください。

ビデオ信号方式*4 オート, NTSC, NTSC4.43, PAL, M-PAL, N-PAL, PAL60, SECAM

「オート」は、ビデオ信号を自動認識します。「オート」に設定していて、映像にノイズが入ったり、映像が映らないなどのトラブルが起きる場合は、適切な信号を選択してください。

初期化

「映像」メニューのうち、「コンピュータ 1 入力」、「コンピュータ 2 入力」以外の調整値を初期値に戻します。全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは  p.76

■ 設定

Quick Setup

Quick Setupに関する設定を行います。

「設置モード」を「リア」、または「リア・天吊り」に設定している場合は「Quick Setup」を実行できません。

起動時設定

起動時に行う自動セットアップの項目を設定します。☞ p.33

Quick Setup

「Quick Setup設定」で設定した項目を起動時に行います。

オートフォーカス

自動フォーカス調整を行います。

オフ

自動セットアップを行いません。

Quick Setup 設定

「Quick Setup」ボタンを押したときに実行される項目を選択します。☞ p.38

オートフォーカス

オン, オフ

Auto Quick Corner

オン, オフ

Wall Shot

オン, オフ

台形補正

投写画面の台形ゆがみを補正します。☞ p.61

「設置モード」を「フロント」以外に設定していると、「自動タテ補正」は設定できません。

タテヨコ

自動タテ補正

オン, オフ

本機の上下方向の傾きを検知して自動的にタテ補正を行う(オン)/行わない(オフ)を選択します。☞ p.36

タテ / ヨコ / 高さ

タテ補正: 中心値(0)

ヨコ補正: 中心値(0)

高さ補正: 中心値(0)

縦・横方向のゆがみ補正と、タテ補正の結果、画面の高さが小さくなったときの高さ補正を行います。☞ p.62

Quick Corner

投写画面の4つの角を補正してスクリーンピッタリに収まるように設定できます。☞ p.64

■ 初期設定値

操作ボタンロック

本体操作パネルやリモコンのボタンを操作できないようにする機能です。🖱️ p.59

本体設定

完全ロック

本体操作パネルの[電源]ボタンを除く全ボタンを無効にします。リモコンでは操作できます。

部分ロック

[電源]、[Quick Setup]、[入力検出]、[ズーム W]、[ズーム T]ボタン以外のボタンを無効にします。リモコンでは操作できます。

オフ**リモコン設定**部分ロック, **オフ**

リモコンの[Wall Shot]、[Quick Setup]、[フォーカス]([5][2])、[ズーム]([6][3])ボタンを無効にします。本体操作パネルでは操作できます。

ポインタ

ポインタの形状や移動速度を設定できます。🖱️ p.53

ポインタ形状ポインタ 1 , ポインタ 2 , ポインタ 3 

ポインタの形状を選択します。

ポインタ倍率**100%**, 200%

ポインタの表示倍率を選択します。

ポインタ移動速度高速, **中速**, 低速リモコンの[>]ボタンを押したときのポインタの移動速度を選択します。**輝度切替****高輝度**, 低輝度

ランプの明るさを2段階で切り替えられます。

暗い部屋や小さなスクリーンに投写したときに、映像が明るすぎる場合は「低輝度」に設定します。「低輝度」で使用すると、「高輝度」時と比較して投写中の消費電力が減り、ランプ寿命が延びます。(消費電力:約60W減、ランプ寿命:約1.5倍)

PinP 設定

PinP機能使用時の設定を行います。🖱️ p.52

音声出力**親画面**, 子画面

親画面と子画面のどちらの音声を出力するか選択します。

子画面映像**ビデオ**, S-ビデオ子画面として投写する映像信号を、コンポジットビデオ、[S-ビデオ](#)から選択します。

 初期設定値**音声****音量** 中心値(15)

投写中の入力ソースの音量を調整します。

トーン 中心値(0)

投写中の入力ソースの音声のトーンを調整します。

初期化

「設定」メニューの調整値をすべて初期値に戻します。
全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは  [p.76](#)

■拡張設定**表示設定****メッセージ表示** オン, オフ

入力ソースやカラーモードを切り替えたときの入力ソース名、またはカラーモード名や映像信号が入力されていないときなどのメッセージ表示を画面に表示する(オン)/しない(オフ)を設定します。

背景表示 黒,  青, ログ

映像信号が入力されていないときなどのメッセージ表示時の画面の設定を行います。

A/V ミュート 黒, 青, ログ[A/Vミュート]ボタンを押したときの画面の状態を設定します。  [p.50](#)**スタートアップスクリーン** オン, オフ

スタートアップスクリーンを起動時に表示する(オン)/しない(オフ)を設定します。電源を入れ直した以降、設定が有効になります。

ユーザーロゴ EPSON背景表示、A/Vミュート時などに表示するユーザーロゴを変更します。  [p.109](#)**プロジェクター ID** 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9プロジェクターのID番号を設定します。  [p.58](#)**設置モード** フロント, フロント・天吊り, リア, リア・天吊り本機の設置状態に合わせて設定します。  [p.13](#)

 初期設定値**動作設定****ダイレクトパワーオン**オン, **オフ**

ダイレクトパワーオンさせる(オン)/させない(オフ)を設定します。☞ p.32
「オン」に設定しているときは、停電復旧時などに、コンセントに電源プラグが差し込まれた状態になっていると本機の電源がオンになりますので、注意してください。

スリープモードオン, **オフ**

映像信号が未入力のまま、約 30 分間操作しないと自動的に投写を終了させる(オン)/させない(オフ)を設定します。

ネットワーク

ネットワークの設定を行います。(EMP-830のみ)

設定内容の詳細については ☞ p.80

EMP-835 をお使いの場合は、ネットワーク設定は EasyMP で行います。☞ 『EasyMP ネットワーク設定ガイド』

待機モードネットワーク有効, **ネットワーク無効**

「ネットワーク有効」に設定すると、本機がスタンバイ状態のときも、ネットワーク監視・制御機能が使えるようになります。設定を変更した場合は、電源を切った以降、設定が有効となります。

通信ポート**RS-232C**, USB

コンピュータと通信を行う場合のポートを RS-232C と USB のどちらを使用するかを設定します。設定を変更した場合は、電源を切った以降、設定が有効になります。

言語**日本語**, English, Français, Deutsch, Italiano, Español, Português, 中文, 한국어

メッセージやメニューに表示する言語を設定します。
EMP-835をお使いの場合、ここでの設定がEasyMPにも適用されます。

初期化

「拡張設定」メニューのうち、「プロジェクターID」、「設置モード」、「待機モード」、「通信ポート」、「言語」以外の調整値を初期値に戻します。全メニュー項目の設定を初期値に戻すときは ☞ p.76



■ 初期設定値

■ 情報

投写している映像信号や本機の状態を確認できます。(表示のみ)

ランプ点灯時間

(高輝度)
(低輝度)

ランプの累積使用時間が表示されます。
ランプ寿命警告時間に達すると、文字が赤色で表示されます。
累積使用時間が、0～10時間までは「0H」と表示されます。10時間以上は「10H」、「11H」と1時間単位で表示されます。

入力ソース

現在投写中の入力ソースが表示されます。

ビデオ信号方式*1

ビデオの信号方式が表示されます。

入力信号*2

入力ソースの映像信号設定が表示されます。

入力解像度*2

入力解像度が表示されます。

リフレッシュレート*2

リフレッシュレートが表示されます。

同期情報*2

極性同期の極性と、同期の属性が表示されます。

■ 初期化

環境設定メニューの全項目とランプ点灯時間を初期化します。

全初期化

環境設定メニューの全項目を初期設定に戻します。
「コンピュータ1入力」、「コンピュータ2入力」、「ユーザーロゴ」、「言語」、「プロジェクターID」、
「ランプ点灯時間」は初期値に戻りません。

ランプ点灯時間初期化

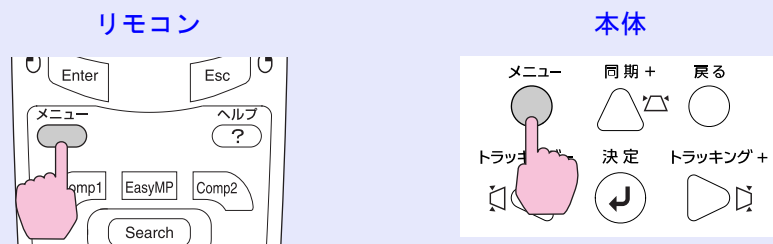
ランプ点灯時間の累積をクリアし、「0H」に戻します。

環境設定メニューの操作

環境設定メニューはリモコンと本体のどちらからでも操作できます。

操作

- 1 [メニュー]ボタンを押します。**
環境設定メニューが表示されます。



- 2 トップメニューで項目を選択します。**
リモコンの場合は、[]ボタンを上下に傾けて項目を選択します。
本体の場合は、[][]ボタンを押して項目を選択します。
サブメニューがトップメニューで選択した項目に合わせて変わります。



- 3 項目を決定します。**
リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押して項目を決定します。
サブメニューにカーソルが表示され設定できる状態になります。



- 4 設定を行う項目を選択します。**
リモコンの場合は、[]ボタンを上下に傾けて選択し、[Enter]ボタンを押して選択を決定します。
本体の場合は、[][]ボタンを押して選択し、[決定]ボタンを押して選択を決定します。



**ポイント**

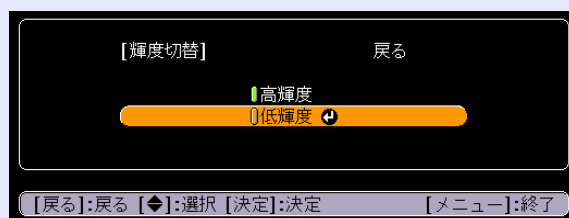
「映像」メニューや「情報」メニューは、投写している入力ソースによって表示される項目が異なります。

**ポイント**

- 設定を実行したり下の階層へ続くサブ項目は、項目名の後ろに  マークが表示されています。この項目の場合はリモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押した後、調整値を選択します。
- 一階層戻るときは、リモコンの[Esc]ボタン、または本体の[戻る]ボタンを押すか、「戻る」を選んで[Enter]ボタンを押します。
- 各設定項目の機能については「環境設定メニュー一覧」をご覧ください。  p.70

5 設定を変更します。

例1



- ① リモコンの[]ボタンを上下に傾ける、または本体の[][]ボタンを押して、項目を選択します。
現在設定されている項目は  (緑色) になっています。
選択した設定値は  (オレンジ色) で表示されます。
- ② リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押して設定値を確定します。

例2



- ① リモコンの[]ボタンを左右に傾ける、または本体の[][]ボタンを押して、調整値を変更します。
- ② リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押して調整値を確定します。

6**環境設定メニューを終了します。**

リモコン、または本体の[メニュー]ボタンを押します。



コンピュータからネットワーク経由でプロジェクターの状態をモニタ監視したり、電源オン/オフなどの制御をすることができます。



ポイント

プロジェクターのネットワーク機能は、EMP-835とEMP-830で異なります。ここでは、EMP-830の場合について説明しています。EMP-835をお使いの方は、『EasyMP ネットワーク設定ガイド』および『EasyMP活用ガイド』をご覧ください。

EMP-830のネットワーク機能でできること

EMP-830は、[SNMP](#)に対応しています。

また、同梱のソフトウェアを使って、プロジェクターの集中管理を行ったり、異常状態をメールで確認したりできます。

■ SNMP と SNMP マネージャプログラムを使った監視機能

SNMP を使ってプロジェクターの状態をコンピュータから監視・制御できます。

SNMP 機能を使ってプロジェクターを監視するには、コンピュータ側にSNMPマネージャプログラムがインストールされている必要があります。SNMPによる管理は、必ずネットワーク管理者などネットワークに詳しい人が行ってください。

■ 同梱のソフトウェアを使った監視・制御機能

同梱の『Projector Software』CD-ROMには、次の2つのソフトウェアが入っています。これらのソフトウェアを使うと、以下のネットワーク監視・制御機能が使えます。

● EMP Monitor

ネットワーク接続している複数のプロジェクターの状態をコンピュータ画面に一覧表示して監視したり、いっせいにプロジェクターの電源をオン/オフするなどの制御を行うソフトウェアです。ネットワーク上の複数のプロジェクターを一人のオペレータが一括して監視・制御できます。☛『[EMP Monitor操作ガイド](#)』

● EMP NetworkManager

プロジェクターのネットワーク設定は環境設定メニューでリモコンを使って行えます。しかし、EMP NetworkManager を使うとコンピュータからキーボードを使って直接アドレス入力ができるため、たやすくネットワーク設定ができます。

また、EMP NetworkManager を使ってメール通知機能の設定をしておくと、プロジェクターに何らかの異常が発生した場合、あらかじめ設定したメールアドレスに対して異常状態がメールで通知されます。

上記のソフトウェアの動作環境や使い方については、Document CD-ROMに収録されている以下の説明書をご覧ください。

EMP Monitor ☛『[EMP Monitor操作ガイド](#)』

EMP NetworkManager ☛『[EMP NetworkManager操作ガイド](#)』

上記のソフトウェアのインストール方法については ☛『EMP NetworkManager操作ガイド』「[インストールとアンインストール](#)」

■ ネットワークを使って監視・制御を行うための手順

ネットワークを使ってプロジェクターの監視・制御を行うには次の手順で作業を行います。

操作

- 1** お使いのコンピュータに、『Projector Software』CD-ROMから使用するソフトウェアをインストールします。
☞『EMP NetworkManager操作ガイド』「[インストールとアンインストール](#)」
- 2** ネットワークケーブルで本機をネットワークに接続します。☞ [p.23](#)
- 3** 本機の環境設定メニューでネットワークに関する設定をします。☞ [p.80](#)
詳細な設定はEMP NetworkManagerを使って行うと便利です。
- 4** コンピュータから監視・制御を行います。
 - メール通知機能で監視する ☞『EMP NetworkManager 操作ガイド』「[メール通知機能の設定](#)」「[異常通知のメールが送られてきたら](#)」
 - EMP Monitor で監視・制御をする ☞『EMP Monitor 操作ガイド』

プロジェクターのネットワーク設定をする(EMP-830)

プロジェクターをネットワークに接続して使用するために、プロジェクターの[IPアドレス](#)などを環境設定メニューから設定します。



ポイント

プロジェクターをネットワークに接続した以降は、EMP NetworkManagerを使って、詳細にプロジェクターのネットワーク設定を行えます。☞『EMP NetworkManager操作ガイド』

ここでの設定の操作は、同梱のリモコンで行います。

操作

- 1** リモコンの[メニュー]ボタンを押し、環境設定メニューから「[拡張設定](#)」→「[ネットワーク](#)」を選びます。
操作の詳細は、「環境設定メニューの操作」をご覧ください。☞ [p.77](#)
- 2** 設定したい項目にカーソルを移動して、リモコンの[Enter]ボタンを押して項目を設定します。
項目によっては数値の入力が必要です。数値の入力方法は「数値の入力方法」(☞ [p.81](#))をご覧ください。



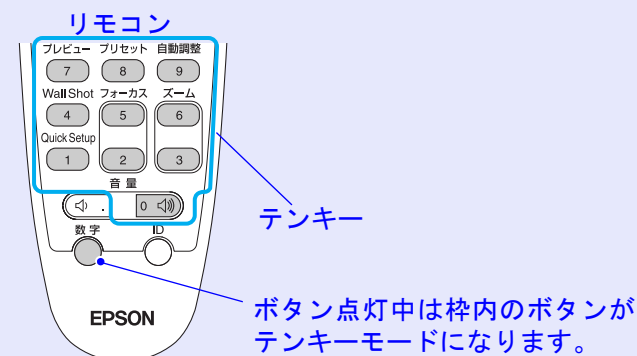
各項目の設定内容は次表のとおりです。

DHCP	DHCPを使用するかどうかを設定します。 ON :DHCPを使用する OFF :DHCPを使用しない
IPアドレス	「DHCP」で「OFF」を選択したときに入力できます。 本機に割り当てるIPアドレスを入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力 できます。ただし、以下のIPアドレスは使用でき ません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255 (xは0～255の数字)
サブネット マスク	「DHCP」で「OFF」を選択したときに入力できます。 本機のサブネットマスクを入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力 できます。ただし、以下のサブネットマスクは使用 できません。 0.x.x.x～254.255.255.255、255.255.255.255 (xは0～255の数字)
ゲートウェイ アドレス	「DHCP」で「OFF」を選択したときに入力できます。 本機のゲートウェイのIPアドレスを入力します。 アドレスの各フィールドには0～255の数字を入力 できます。ただし、以下のゲートウェイアドレスは 使用できません。 0.0.0.0、127.x.x.x、224.0.0.0～255.255.255.255 (xは0～255の数字)
SNMP	SNMPのトラップ通知先のIPアドレスを入力しま す。 通知先として「 トラップIPアドレス 1」と「トラッ プIPアドレス2」の2つのIPアドレスを設定できます。 「トラップIPアドレス 1」で設定したIPアドレスに通 知できなかった場合に、「トラップIPアドレス2」で 設定したIPアドレスに通知されます。
MACアドレス	本機のMACアドレスを表示します。
プロジェクター名	ネットワーク上で本機を識別するための個別の名 前を表示しています。 変更はEMP NetworkManagerで行います。 ●『 EMP NetworkManager操作ガイド 』

数値の入力方法

数値を入力するには、次の手順で行います。

- 1.入力する項目にカーソルを移動して、リモコンの[Enter]ボタンを押します。カーソルが緑色になり、入力モードになります。
- 2.リモコンの[数字]ボタンを押します。[数字]ボタンが点灯し下図のボタンがテンキーモードになり数字が入力できるようになります。テンキーモードの状態です約 10 秒間何もボタンを押さなかった場合、または再度[数字]ボタンを押すと、[数字]ボタンが消灯してテンキーモードが解除されます。



3. 2文字以上の数字を入力する場合は、リモコンの[○]ボタンを右に傾けます。1番目の数字が決定し、2番目の入力位置へカーソルが移動します。
4. 数字をすべて入力したら、リモコンの[Enter]ボタンを押して入力を確定します。カーソルが黄色に変わります。

- 3 設定が終了したら[メニュー]ボタンを押して、環境設定メニューを終了します。



困ったときに

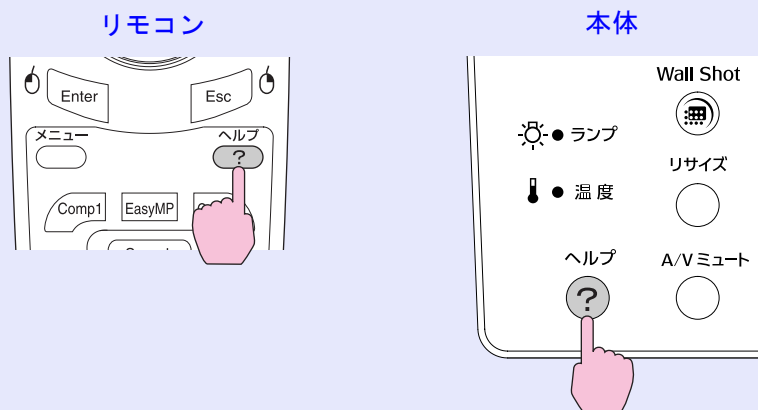
ここでは、想定されるトラブルと、その対処法などについて説明しています。

ヘルプの見方	83
故障かなと思ったら	84
• インジケータの見方	84
• 電源インジケータ 赤色点灯 / 点滅時	84
• ランプ / 温度インジケータ オレンジ色点滅時	86
• インジケータを見てもわからないとき	87
• 映像に関するトラブル	88
• その他のトラブル	92
• ネットワークを使ったプロジェクターの監視・制御に 関するトラブル	93

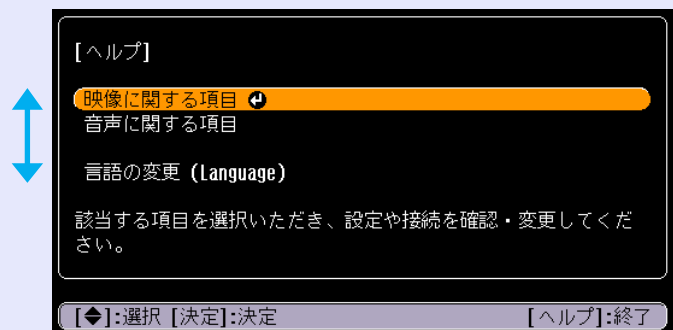
映像が投写されない、音声が出ないなどの場合は、リモコンの[ヘルプ]ボタンを押してください。対話形式のヘルプが表示されます。質問に答えていくと適切な状態に設定することもできます。

操作

- 1 [ヘルプ]ボタンを押します。**
ヘルプが表示されます。



- 2 項目を選択します。**
リモコンの場合は、[◀▶]ボタンを上下に傾けて項目を選択します。
本体の場合は、[△][▽]ボタンで項目を選択します。



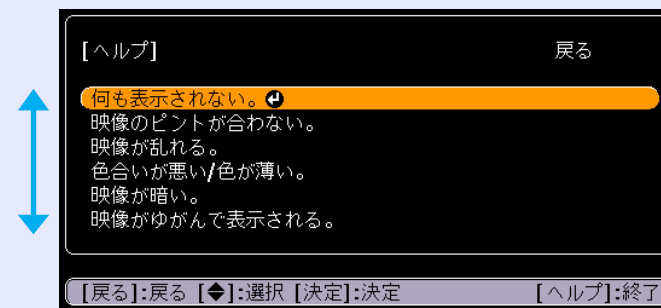
- 3 項目を決定します。**
リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押して項目を決定します。



ポイント

リモコンの[Esc]ボタン、または本体の[戻る]ボタンを押すと1つ前の選択画面に戻ります。

- 4 手順2、3の操作と同様にさらに詳細な項目を選択・決定します。**
[ヘルプ]ボタンを押すと、ヘルプは解除されます。



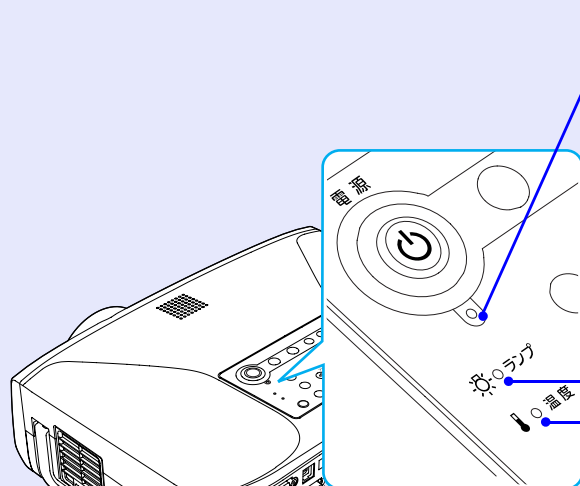
ポイント

ヘルプ機能を使ってもわからないときは、「故障かなと思ったら」(p.84)をご覧ください。

故障かな？と思ったら、まず本体のインジケータをご覧になり下記の「インジケータの見方」で本機の状態をご確認ください。
インジケータをご覧になってもわからないときは、「インジケータを見てもわからないとき」を参照してください。☞ [p.87](#)

インジケータの見方

本機には、次の3種類のインジケータがあり本機の状態を知らせています。



本体の動作状態をお知らせします。

☀ オレンジ: 起動準備中(この間はリモコン、または本体の[電源]ボタンは無効となります。)
環境設定メニューの「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定している場合は、電源プラグをコンセントに差し込むと、その後約12秒間、起動準備状態になります。

● オレンジ: スタンバイ状態
リモコン、または本体の[電源]ボタンを押すとしばらくして投写を開始します。

☀ 緑 : ウォームアップ中
ウォームアップの時間は約30秒です。ウォームアップ中は、電源ケーブルを抜いたり、ブレーカーを落としてダイレクトパワーオフを行わないでください。ランプの早期劣化の原因となります。同様の理由で、ウォームアップ中は、[電源]ボタンを押しても電源を切ることができません。

● 緑 : 投写中

☀ ランプ : ランプの状態をお知らせします。

☀ 温度 : 内部温度の状態をお知らせします。

インジケータの状態とその対処方法については、以下の表を参照してください。

インジケータがすべて消灯している場合は、電源ケーブルが正しく接続されていないか、または電気が供給されていません。

■ 電源インジケータ 赤色点灯 / 点滅時 異常

● : 点灯 ☀ : 点滅 ○ : 消灯

状態	原因	処置または状態
電源 ● 赤 ランプ ☀ 赤 温度 ☀ 赤	内部異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはエプソンサービスコールセンターに修理を依頼してください。 ☞ 「お問い合わせ先」 p.124
電源 ● 赤 ランプ ○ 温度 ☀ 赤	ファン異常 センサ異常	ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはエプソンサービスコールセンターに修理を依頼してください。 ☞ 「お問い合わせ先」 p.124



●:点灯 ●:点滅 ○:消灯

状態	原因	処置または状態
● ● 赤 ● ● 赤 ○	ランプ異常 ランプ点灯失敗 ランプ切れ ランプカバー開状態	次の2点を確認してください。 ●ランプを取り出してランプが割れていないか確認します。☞「ランプの交換方法」p.105 ●エアフィルタ・吸気口を掃除します。☞ p.104 割れていないとき → ランプを再セットして、電源を入れます。 それでもエラーになるとき → 新しいランプに交換してから電源を入れます。 それでもエラーになるとき → ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはエプソンサービスコールセンターに修理を依頼してください。 ☞「お問い合わせ先」p.124 割れているとき → お買い上げの販売店またはエプソンサービスコールセンターにご相談ください(ランプを交換しないと映像を投写することはできません)☞「お問い合わせ先」p.124 ランプやランプカバーが確実に取り付けられているか確認してください。ランプおよびランプカバーが確実に取り付けられていない場合は、ランプが点灯しません。
● ● 赤 ● ○ ● ● 赤	内部高温異常 (オーバーヒート)	ランプが自動的に消灯し、投写できなくなります。約5分間は、そのままの状態待ちます。約5分後、電源プラグを抜いて、次の2点を確認して改善します。 ●エアフィルタ・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認してください。☞ p.14 ●エアフィルタが目詰りしている場合は、掃除または交換してください。☞ p.104 電源プラグを差し直すと、状態が復帰します。リモコン、または本体の[電源]ボタンを押して電源を入れ直します。上記の改善を行っても、繰り返しオーバーヒート状態になったり、電源を入れ直したときにインジケータが異常を示したときは、ご使用をやめ、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げの販売店またはエプソンサービスコールセンターに修理を依頼してください。☞「お問い合わせ先」p.124



■ ランプ / 温度インジケータ オレンジ色点滅時 **警告**

● : 点灯  : 点滅 ○ : 消灯

状態	原因	処置または状態
点灯  赤 点滅  ○ 点灯  オレンジ	高速冷却中	(異常ではありません。ただし、さらに高温になると投写を自動的に停止します。) ● エアークフィルタ・排気口がふさがれていないか、壁際に設置されていないか確認してください。 (👉 p.14) ● エアークフィルタが目詰りしている場合は、掃除をしてください。 (👉 p.104)
点灯 ● 点滅  オレンジ 点灯  ○	ランプ交換勧告	新しいランプに交換してください。 (👉 p.105) 交換時期を超えて使い続けると、ランプが破裂する可能性が一段と高くなります。すみやかに新しいランプと交換してください。 ※電源インジケータは、そのときのプロジェクターの状態により異なります。



ポイント

- インジケータは異常を示してないのに、投写映像が異常のときは、「インジケータを見てもわからないとき」(👉 p.87)をご覧ください。
- 各インジケータがこの表にない状態のときは、販売店またはインフォメーションセンター(👉 p.124)にお問い合わせください。

インジケータを見てもわからないとき

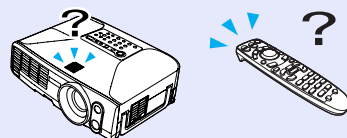
まず、下記をご覧になりどのトラブルに該当するかを確認し、参照先で詳細な内容をご覧ください。

映像に関するトラブル

- 映像が表示されない  [p.88](#)
投写を開始しない・真っ黒の映像になる・青い映像になるなど...
- 動画が表示されない  [p.88](#)
コンピュータで再生する動画が黒くなり映像が投写されない。
- 自動的に投写が消える  [p.88](#)
- 「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される  [p.89](#)
- 「映像信号が入力されていません。」と表示される  [p.89](#)
- ぼやける、ピントが合わない  [p.89](#)
- ノイズが入る、乱れる  [p.90](#)
ノイズが入る・乱れる・市松模様のようにモノクロのチェックになるなど...
- 映像が切れる(大きい)、小さい  [p.90](#)
映像の一部分しか投写されないなど...
- 色合いが違う  [p.91](#)
全体が赤紫がかっている・緑色がかっている・モノクロになる・色がくすむなど...
(コンピュータのモニタや液晶画面とは色の再現性が異なるため、プロジェクターでの投写映像とモニタでの表示の色合いは必ずしも一致しませんが、異常ではありません。)
- 暗い  [p.91](#)

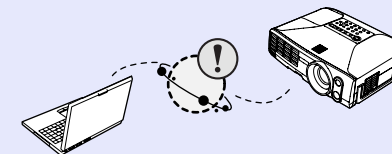
その他のトラブル

- 音が出ない・小さすぎる  [p.92](#)
- リモコンで操作できない  [p.92](#)
- 電源を切っても、ファンが止まらない  [p.92](#)



ネットワークとEasyMPに関するトラブル

- プロジェクターに異常が起きてもメールが送られてこない  [p.93](#)
- EMP Monitorでプロジェクターを制御・監視できない  [p.94](#)
- エラーメッセージが表示される(EMP Monitor実行時のエラーメッセージ)  [p.102](#)



EMP-835のみ

- ネットワーク接続時、映像が投写されたままになって他のコンピュータから接続できない  [p.95](#)
- EMP NS Connectionを起動してもプロジェクターが見つからない  [p.95](#)
- アクセスポイントモードまたは有線LAN接続モードで接続できない  [p.96](#)
- アドホックモードで接続できない  [p.97](#)
- Network Screenで映像が表示されない、表示が遅い  [p.97](#)
- Network Screen使用時にPowerPointのスライドショーが動作しない  [p.97](#)
- Network Screen使用時にKeynoteのスライドショーが再生できない  [p.97](#)
- Network Screenを使用できない  [p.98](#)
- Network ScreenでOfficeアプリケーション使用時に画面が更新されない  [p.98](#)
- EMP SlideMaker2でファイル指定ができない  [p.98](#)
- エラーメッセージが表示される  [p.98](#)~[p.102](#)



■ 映像に関するトラブル

■ 映像が表示されない

確認	対処法
[電源]ボタンを押しましたか？	リモコン、または本体の[電源]ボタンを押して電源を入れます。 リモコンは[リモコン]スイッチをONにしないと操作できません。🖱️ p.33
A/Vミュートの状態になっていませんか？	リモコン、または本体の[A/Vミュート]ボタンを押してA/Vミュートを解除します。🖱️ p.50
環境設定メニューの設定で間違っているものはありませんか？	全初期化してみてください。🖱️ p.76
入力映像そのものが真っ黒になっていませんか？ コンピュータ投写時のみ	スクリーンセーバーなどで入力映像が真っ黒になっていることがあります。
映像の信号形式の設定は合っていますか？ ビデオ機器投写時のみ	コンポジットビデオ 、 S-ビデオ を接続している場合は、環境設定メニューの「ビデオ信号方式」でビデオ信号方式を選択してください。🖱️ 「映像」→「ビデオ信号方式」 p.71

■ 動画が表示されない

確認	対処法
コンピュータの映像信号が外部と液晶画面の両方に出力されていませんか？ ノートや液晶一体型タイプの コンピュータ投写時のみ	映像信号を外部のみの出力に切り替えます。 🖱️ コンピュータに添付の『取扱説明書』、あるいはお使いのコンピュータのメーカーにお問い合わせください。

■ 自動的に投写が消える

確認	対処法
「スリープモード」を「オン」にしていますか？	環境設定メニューの「スリープモード」を「オン」に設定した場合、映像信号が入らない状態で約30分間操作しないと、ランプが自動的に消灯します。このとき電源インジケータはオレンジ色に点灯しています。リモコン、または本体の[電源]ボタンを押して電源を入れます。「スリープモード」を働かせないときは設定を「オフ」にしてください。🖱️ 「拡張設定」→「動作設定」→「スリープモード」 p.75

■「この信号は本プロジェクターでは受けられません。」と表示される

確認	対処法
映像の信号形式の設定は合っていますか？	コンポジットビデオ 、 S-ビデオ を接続している場合は、環境設定メニューの「ビデオ信号方式」でビデオ信号方式を選択してください。☛「映像」→「ビデオ信号方式」 p.71
映像信号の解像度が対応するモードですか？ コンピュータ投写時のみ	コンピュータの解像度を確認してください。☛「対応解像度一覧」 p.118 、コンピュータの『取扱説明書』など

■「映像信号が入力されていません。」と表示される

確認	対処法
ケーブル類が正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。☛ p.18～p.29
接続した映像入力端子を正しく選択していますか？	リモコンの[Search]ボタン、または本体の[入力検出]ボタンを押して映像を切り替えます。☛ p.35
接続されたコンピュータやビデオ機器の電源は入っていますか？	それぞれの機器の電源を入れます。☛ p.18～p.26
プロジェクターに映像信号が出力されていますか？ ノートや液晶一体型タイプの コンピュータ投写時のみ	映像信号がコンピュータの液晶モニタや付属モニタにだけ出力されている場合は、外部にも出力するように切り替えてください。外部に映像信号を出力すると、液晶モニタや付属モニタに映像が出せないモデルもあります。☛ コンピュータの『取扱説明書』「外部出力のしかた」や「外付けモニタへ出力のしかた」など 本機やコンピュータの電源を入れた状態で接続を行うと、コンピュータの映像信号を外部に切り替える[FN]（ファンクションキー）が使えないことがあります。本機およびコンピュータの電源を入れ直してください。☛ p.33, 40

■ぼやける、ピントが合わない

確認	対処法
ピントは正しく調整されていますか？	リモコン、または本体の[フォーカス]ボタンを押してピントを合わせます。☛ p.61
レンズカバーが付いたままではありませんか？	レンズカバーを外します。☛ p.6
投写距離は最適ですか？	投写距離の推奨範囲は86cm～1473cmです。この範囲で設置してください。☛ p.14
台形補正の調整値を大きくしていませんか？	投写角度を小さくして台形補正の調整値を小さくしてください。☛ p.61
レンズが結露していませんか？	寒い部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだり、急激に暖房したときなど、レンズの表面が結露して映像がぼやけることがあります。ご使用になる1時間くらい前に使用する部屋に設置するようにします。結露してしまったときは、電源を切ってしばらくそのまま放置してください。

■ ノイズが入る、乱れる

確認	対処法
映像の信号形式の設定は合っていますか？	コンポジットビデオ 、 S-ビデオ を接続している場合は、環境設定メニューの「ビデオ信号方式」でビデオ信号方式を選択してください。☛「映像」→「ビデオ信号方式」 p.71
ケーブル類は正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。☛ p.18～p.29
ケーブルを延長していませんか？	ケーブルを延長するとノイズが入ることがあります。同梱のケーブルを使用して確認してください。
解像度の選択は正しいですか？ コンピュータ投写時のみ	本機に対応する信号にコンピュータを合わせてください。☛「対応解像度一覧」 p.118 ☛ コンピュータの『取扱説明書』など
「同期」・「トラッキング」は正しく調整されていますか？ コンピュータ投写時のみ	リモコンの[自動調整]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押して、自動調整を行います。自動調整を行っても調整しきれない場合は、環境設定メニューの「同期」、「トラッキング」で調整することもできます。☛ p.66, 67

■ 映像が切れる(大きい)、小さい

確認	対処法
リアル表示になっていませんか？ アスペクト比の設定は正しいですか？	リモコン、または本体の[リサイズ]ボタンを押してください。☛ p.56
Eズーム機能で拡大されたままになっていませんか？	リモコンの[Esc]ボタンを押してEズーム機能を解除します。☛ p.51
「表示位置」は正しく調整されていますか？	コンピュータのアナログRGB映像投写時は、リモコンの[自動調整]ボタンまたは本体の[決定]ボタンを押して、自動調整を行います。 自動調整を行っても調整しきれない場合は、環境設定メニューの「表示位置」で調整することもできます。コンピュータのアナログRGB映像以外の信号を投写時は、環境設定メニューの「表示位置」で調整します。☛「映像」→「表示位置」 p.71
デュアルディスプレイの設定をしていませんか？ コンピュータ投写時のみ	接続しているコンピュータのコントロールパネルの「画面のプロパティ」で、デュアルディスプレイの設定をしていると、プロジェクターでコンピュータ画面の映像が半分くらいしか表示できません。コンピュータ画面の映像をすべて表示する場合は、デュアルディスプレイの設定を解除します。 ☛ コンピュータのビデオドライバの『取扱説明書』
「入力解像度」は正しく設定されていますか？ コンピュータ投写時のみ	環境設定メニューの「入力解像度」の設定をコンピュータと合わせてください。 ☛「映像」→「入力解像度」 p.71 ☛ コンピュータの『取扱説明書』など

■ 色合いが違う

確認	対処法
入力信号の設定が接続機器の信号と合っていますか？	コンポジットビデオ 、 S-ビデオ を接続している場合は、環境設定メニューの「ビデオ信号方式」でビデオ信号方式を選択してください。🔊「映像」→「ビデオ信号方式」 p.71
映像の明るさは正しく調整されていますか？	環境設定メニューの「明るさ」を調整してください。🔊「画質調整」→「明るさ」 p.70
ケーブル類が正しく接続されていますか？	投写に必要なケーブルが確実に接続されているか確認します。🔊 p.18～p.29
コントラスト は正しく調整されていますか？	環境設定メニューの「コントラスト」を調整してください。🔊「画質調整」→「コントラスト」 p.70
適切なカラー調整に設定されていますか？	環境設定メニューの「カラー調整」を調整してください。🔊「画質調整」→「カラー調整」 p.70
「Wall Shot オン」になっていませんか？	スクリーンに投写する場合は、リモコン、または本体の[Wall Shot]ボタンを押して「Wall Shot オフ」に切り替えます。Wall Shotの再調整をする場合は、「Wall Shot再調整」を行います。🔊 p.49
色の濃さ、色合いは正しく調整されていますか？ ビデオ機器投写時のみ	環境設定メニューの「色の濃さ」、「色合い」を調整してください。 🔊「画質調整」→「色の濃さ」、「色合い」 p.70

■ 暗い

確認	対処法
映像の明るさや輝度は正しく設定されていますか？	環境設定メニューの「明るさ」や「輝度切替」を設定してください。 🔊「画質調整」→「明るさ」 p.70 🔊「設定」→「輝度切替」 p.73
コントラスト は正しく調整されていますか？	環境設定メニューの「コントラスト」を調整してください。🔊「画質調整」→「コントラスト」 p.70
ランプの寿命ではありませんか？	ランプの寿命が近づくと映像が暗くなったり、色合いが悪くなります。新しいランプと交換してください。🔊 p.105

■ その他のトラブル

■ 音が出ない・小さすぎる

確認	対処法
音声入力は正しく接続されていますか？	正しい[音声入力]端子にケーブルを接続しているか確認してください。🔊 p.27
音量調整が最小になっていませんか？	聞こえる音量に調整してください。🔊 p.42
[音声出力]端子にオーディオケーブルが接続されたままではありませんか？	[音声出力]端子にケーブルのコネクタを差し込むと、内蔵スピーカから音声が出られなくなります。外部スピーカを使わないときは、オーディオケーブルを[音声出力]端子から取り外してください。
A/Vミュートの状態になっていませんか？	リモコン、または本体の[A/Vミュート]ボタンを押してA/Vミュートを解除します。🔊 p.50

■ リモコンで操作できない

確認	対処法
[リモコン]スイッチが「ON」になっていますか？	「ON」に切り替えてください。🔊 p.33
リモコンの発光部をプロジェクターのリモコン受光部に向けて操作していますか？	リモコン受光部に向かって操作してください。 操作可能範囲は、左右約30°、上下約15°です。🔊 p.12
プロジェクターから離れすぎていませんか？	操作可能距離は、約10 mです。🔊 p.12 操作可能距離より離れて操作する場合や確実にリモコンで操作したい場合は、オプションのリモコンケーブルセットをお使いください。🔊 p.111
リモコン受光部に直射日光や蛍光灯の強い光が当たっていませんか？	強い光などがリモコン受光部にあたる場所を避けて設置してください。
乾電池が消耗していたり、電池の向きを間違えてセットしていませんか？	新しい乾電池を正しい向きでセットします。🔊 p.11
リモコンのID番号とプロジェクターのID番号が一致していますか？	リモコンIDを「0」以外に設定しているときは、プロジェクターのID番号と一致していないとリモコンで操作できません。🔊 p.58
リモコン、または本機の[リモート]端子にリモコンケーブルが接続されたままになっていませんか？	[リモート]端子にケーブルのコネクタを差し込むと本体のリモコン受光部、またはリモコン発光部が働かなくなります。リモコンケーブルセットを使用しないときは、リモコンケーブルをリモコン、本機のどちらからも取り外してください。

■ 電源を切ってもファンが止まらない

確認	対処法
環境設定メニューの「待機モード」で「ネットワーク有効」に設定していませんか？	「ネットワーク有効」になっている場合は電源を切ってもファンは回り続けます。🔊 「拡張設定」→「待機モード」 p.75

■ ネットワークを使ったプロジェクターの監視・制御に関するトラブル

■ プロジェクターに異常が起きてもメールが送られてこない

確認	対処法
ネットワークケーブルが正しく接続されていますか？ EMP-835で有線LAN接続の場合、またはEMP-830をお使いの場合	ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認します。接続されていなかったり間違って接続されている場合は、接続し直します。
無線LANカードがセットされていますか？ EMP-835で無線LAN接続の場合	プロジェクターのカードスロットに無線LANカードが確実にセットされているか確認します。 ☛「カードのセットと取り出し」p.15
ネットワークの設定で「優先ゲートウェイ」が正しく設定されていますか？ EMP-835をお使いの場合	異常通知のメールは「優先ゲートウェイ」で設定しているネットワーク接続を使って発信されます（初期値は「有線LAN」）。「優先ゲートウェイ」で設定しているネットワーク接続が利用可能な状態か確認してください。 ☛『EasyMP 活用ガイド』「Webブラウザを使って設定を変更する (EasyWeb)」
ネットワークに接続するための設定は正しいですか？	プロジェクターのネットワークの設定を確認してください。 EMP-835をお使いの場合 ☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「アクセスポイントモードまたは有線LANモードで接続する」 EMP-830をお使いの場合 ☛p.80
「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定していますか？	本機がスタンバイ状態のときもメール通知機能を使うためには、環境設定メニューの「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定します。☛「拡張設定」→「待機モード」p.75
致命的な異常が発生し、プロジェクターが瞬時に起動停止状態になっていませんか。	瞬時に起動停止した場合はメール送信できません。 プロジェクターを確認しても異常状態が復帰しない場合は、お買い上げの販売店またはエプソンサービスコールセンターに修理を依頼してください。 ☛「お問い合わせ先」p.124
プロジェクターに電源が供給されていますか？	プロジェクターが設置されている地域が停電になっていたり、プロジェクターの電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。

■ EMP Monitorでプロジェクターを制御・監視できない

確認	対処法
ネットワークケーブルが正しく接続されていますか？ EMP-835で有線LAN接続の場合、 またはEMP-830をお使いの場合	ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認します。接続されていなかったり間違って接続されている場合は、接続し直します。
無線LANカードがセットされていますか？ EMP-835で無線LAN接続の場合	プロジェクターのカードスロットに無線LANカードが確実にセットされているか確認します。 ☛「カードのセットと取り出し」 p.15
ネットワークに接続するための設定は正しいですか？	プロジェクターのネットワークの設定を確認してください。 EMP-835をお使いの場合 ☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「アクセスポイントモードまたは有線LANモードで接続する」 EMP-830をお使いの場合 ☛ p.80
コンピュータにEMP Monitorが正しくインストールされていますか？	EMP Monitorをアンインストールしてから、再度インストールしてください。 EMP-835をお使いの場合 ☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「EasyMP Softwareをアンインストールしたいときは」、「EasyMP Softwareのインストール」 EMP-830をお使いの場合 ☛『EMP NetworkManager操作ガイド』 インストールとアンインストール
制御・監視したいすべてのプロジェクターがプロジェクターリストに登録されていますか？	プロジェクターリストに登録してください。☛『 EMP Monitor操作ガイド 』
「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定していますか？	本機がスタンバイ状態のときもEMP Monitorを使うためには、環境設定メニューの「待機モード」を「ネットワーク有効」に設定します。☛「 拡張設定 」→「待機モード」 p.75
プロジェクターに電源が供給されていますか？	プロジェクターが設置されている地域が停電になっていたり、プロジェクターの電源を取っているコンセントのブレーカーが切れていないか確認してください。

■ Network Screenで、映像が投写されたままになって他のコンピュータから接続できない(EMP-835のみ)

確認	対処法
プレゼンテーションした人がネットワーク接続を切断せずに会議室から出てしまっていないか？	Network Screenでは、コンピュータとプロジェクターが接続中に別のコンピュータから接続しようとする、先に接続していたコンピュータとの接続を切断し、後から接続の操作をしたコンピュータと接続できます。 したがって、プロジェクターキーワードがプロジェクターに設定されていない場合や、プロジェクターキーワードを知っている場合は、接続操作をすれば現在の接続が切断され、プロジェクターと接続できます。 プロジェクターキーワードがプロジェクターに設定されていて、プロジェクターキーワードを知らない場合は、プロジェクター側から接続を切断して再接続します。プロジェクター側から接続を切断するには、リモコンの[Esc]ボタンを押し、表示された終了メニューで「終了する」を選択してリモコンの[Enter]ボタンを押します。切断されたら、目的のコンピュータから接続します。 ☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』『ネットワーク接続を切断する』

■ EMP NS Connectionを起動してもプロジェクターが見つからない(EMP-835のみ)

確認	対処法
ネットワークケーブルが正しく接続されていますか？ 有線LAN接続の場合	ネットワークケーブルが正しく接続されているか確認します。接続されていなかったり間違って接続されている場合は、接続し直します。
無線LANカードがセットされていますか？ 無線LAN接続の場合	プロジェクターのカードスロットに無線LANカードが確実にセットされているか確認します。 ☛「カードのセットと取り出し」p.15
プロジェクターにセットした無線LANカードのアクセスランプが緑色で点灯していますか？	アクセスランプが消えている場合は、無線LANカードをいったんカードスロットから抜いて、セットし直します。☛「カードのセットと取り出し」 p.15
プロジェクター側がEasyMPの環境設定画面になっていませんか？	EasyMPの環境設定画面表示中はネットワーク接続が無効になります。環境設定を終了して、EasyMP待機画面に戻してください。
コンピュータ側のLANカードや内蔵のLAN機能が使用できる状態になっていますか？	「コントロールパネル」-「システム」のデバイスマネージャなどでLANが有効になっているか確認してください。
コンピュータ側の無線LAN設定がアドホックモードになっていますか？ 無線LANの簡単接続モードの場合	コンピュータ側で無線LANの設定をアドホックモードにしてください。 ☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』『コンピュータの無線LANを設定する』 無線LANカードメーカーによっては、通信設定ユーティリティ(クライアントマネージャ等)を使ってアドホックモードに設定します。 「アドホックモード」のことを「無線LANパソコン間通信(WiFi)」「WiFiアドホック」「802.11アドホック」「802.11モード接続」「Peer to Peer」「“コンピュータとコンピュータ”ネットワーク」と表現している場合があります。



確認	対処法
有線LANのDHCP機能がONになっていませんか？ 無線LANの簡単接続モードの場合	EasyMPの環境設定画面で有線LANのDHCP設定をOFFにしてください。 ☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「アクセスポイントモードまたは有線LANモードで接続する」
EMP NS Connectionで、使用するネットワークアダプタを正しく選択しましたか？	お使いのコンピュータが複数のLAN環境を持っている場合、EMP NS Connectionで使用するネットワークアダプタを正しく選択していないと接続できません。EMP NS Connectionを起動し、「拡張機能」-「LAN切替」(Windows)、「拡張機能」-「ネットワーク設定」(Macintosh)で使用するネットワークアダプタを選択してください。
無線LAN接続の場合、コンピュータの省電力設定で無線LANが使用不可の設定になっていませんか？	無線LANを使用可能にしてください。
コンピュータ側の無線LANの電波が微弱な設定になっていませんか？	電波強度は、できるだけ最大でお使いください。
お使いの無線LANは802.11gまたは802.11bに準拠していますか？	802.11g、または802.11b以外の規格(802.11、802.11aなど)には対応していません。
コンピュータ側のWEP暗号化設定がONになっていませんか？	簡単接続モード(アドホックモード)のときは、WEPがOFFでなければ接続できません。WEP暗号化設定をOFFにしてください。☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「簡単接続モード(無線LAN)で接続する」

■ アクセスポイントモードまたは有線LAN接続モードで接続できない(EMP-835のみ)

確認	対処法
ESSIDの設定が異なっていませんか？	ESSID自動検索を有効にするか、コンピュータやアクセスポイントとプロジェクターを同じESSIDに設定してください。☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「アクセスポイントモードまたは有線LANモードで接続する」
同一のWEPキーを設定していますか？	「セキュリティ」でWEPを選択した場合は、アクセスポイントやコンピュータとプロジェクターを同じWEPキーに設定してください。☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「アクセスポイントモードまたは有線LANモードで接続する」
アクセスポイント側でMACアドレス制限、ポート制限などの接続拒否機能を正しく設定していますか？	アクセスポイント側でプロジェクターを接続許可に設定してください。
アクセスポイントとプロジェクターのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレスが正しく設定されていますか？	DHCPを使用しない場合は各設定を合わせてください。☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「アクセスポイントモードまたは有線LANモードで接続する」
アクセスポイントとプロジェクターのサブネットが異なっていませんか？	EMP NS Connectionの「IP指定接続を使用する」を選択し、IP指定接続モードで接続してください。☛『EasyMP 活用ガイド』「接続したいプロジェクターが表示されないときは」



■ 簡単接続モード(アドホックモード)で接続できない(EMP-835のみ)

確認	対処法
バッファロー社製アクセスポイントが近くで動作していませんか？	同じESSIDに設定されているバッファロー社製アクセスポイントが近くで動作しているとアドホック接続ができなくなります。アクセスポイントの電源を切るか、アクセスポイントとは異なるESSIDを設定してください。

■ Network Screenで映像が表示されない、表示が遅い(EMP-835のみ)

確認	対処法
Media Playerで動画を再生したり、スクリーンセーバのプレビューを実行しようとしませんでしたか？	コンピュータによっては、Media Playerによる動画再生画面が表示されなかったり、スクリーンセーバのプレビューが正常に表示されないことがあります。
WEP暗号化を有効にしたり、複数台のプロジェクターに接続していませんか？	WEP暗号化有効の場合や、複数台接続を行ったときは、表示速度が低下します。
無線LANのアクセスポイントモードまたは有線LANで、DHCPを有効にしていますか？	アクセスポイントモードまたは有線LAN接続でDHCP有効に設定しているときに、接続可能なDHCPサーバが見つからないと、EasyMPの待機状態になるのに時間がかかります。
動画再生中にEMP NS Connectionを起動したり、解像度や色数を変更しませんでしたか？ Macintoshの場合	動画再生するときは、EMP NS Connectionを起動してから再生操作をしてください。動画再生中にEMP NS Connectionを起動したり、表示画面の解像度や色数を変更した場合は、動画再生ウィンドウを移動する、または最小化し元に戻す等の操作を行ってください。

■ Network Screen使用時にPowerPointのスライドショーが動作しない(EMP-835のみ)

確認	対処法
PowerPointを起動中に、EMP NS Connectionを起動しませんでしたか？ Windowsの場合	Network Screenで接続する際は、事前にPowerPointを終了してください。起動したまま接続するとスライドショーが動作しなくなることがあります。

■ Network Screen使用時にKeynoteのスライドショーが再生できない

確認	対処法
Mac OS X 10.2.xを使用していませんか？ Macintoshの場合	Mac OS X 10.2.xは仕様上の制限により、画面が正しく投写されません。Keynoteをお使いになる場合は、Mac OS X 10.3.x以上を使用してください。

■ Network Screenを使用できない(EMP-835のみ)

確認	対処法
パーソナルファイアウォールを設定していませんか？ Windowsの場合	NS Protect以外のパーソナルファイアウォールが設定されている場合は、Network Screenを使用できないことがあります。

■ Network ScreenでOfficeアプリケーション使用時に画面が更新されない

確認	対処法
マウスを絶えず動かし続けていませんか？	マウスカーソルの移動を止めると画面が更新されます。画面がなかなか更新されない場合は、マウスカーソルの動きを止めてください。

■ EMP SlideMaker2でファイル指定ができない(EMP-835のみ)

確認	対処法
使おうとしているPowerPointファイル(.ppt)は、PowerPoint 95/97の形式ではありませんか？	PowerPoint 95/97で作成したファイルやPowerPoint 95/97形式で保存してあるファイルはEMP SlideMaker2で編集できません。一度、PowerPoint 2000/2002/2003で保存し直してから利用してください。☛『EasyMP 活用ガイド』 「シナリオに組み込めるファイル」
PowerPointファイル(.ppt)をシナリオに貼り付けることができなかったりサムネイルに表示できない場合、Microsoft OfficeのJPEGコンバータがインストールされていますか？	JPEGコンバータをインストールしてください。JPEGコンバータのインストールについては、Microsoft Officeの取扱説明書をご覧ください。

■ エラーメッセージが表示される

EMP NS Connection実行時のエラーメッセージ(EMP-835のみ)

確認	対処法
プロジェクターとの接続に失敗しました。	再度、接続の操作をします。それでも接続できない場合は、コンピュータ側のネットワーク設定とプロジェクター側のEasyMPのネットワーク設定を確認してください。 EasyMPのネットワーク設定について ☛『EasyMP ネットワーク設定ガイド』
ネットワークの自動設定を行っています。	コンピュータがDHCPを使用する設定になっている場合、IPアドレスを設定するまでに時間がかかっている可能性があります。メッセージが表示されてから約70秒たってもIPアドレスが決定されない場合は、エラーメッセージが表示されます。その場合は、EMP NS Connectionを一旦終了し、再びEMP NS Connectionを起動してみてください。



確認	対処法
プロジェクターの検出に失敗しました。 接続可能なプロジェクターが存在しないか、プロジェクターの電源が入っていません。	以下の操作を行ってください。 • プロジェクターの電源を入れ、プロジェクターの準備ができてから「再検索」ボタンをクリックしてください。 • プロジェクターのEasyMPの環境設定を確認してください。 • コンピュータのセキュリティソフトの設定を確認して、ポートが制限されている場合は、ポートの設定を解除してください。
キーワードが一致しません。プロジェクターに表示された、正しいキーワードを入力してください。	EasyMP待機画面に表示されているプロジェクターキーワードを確認し、そのプロジェクターキーワードを入力してください。
接続したいプロジェクターをリストから選択して下さい。	接続したいプロジェクター名にチェックマークを付けてから、「接続」ボタンをクリックしてください。 接続方法について  『EasyMP ネットワーク設定ガイド』
選択されたプロジェクターは使用中です。接続処理を続行しますか？	別のコンピュータが接続しているプロジェクターに接続しようとしてしました。 「はい」ボタンをクリックすると、プロジェクターと接続します。このとき、接続していた別のコンピュータとプロジェクターの接続は切断されます。 「いいえ」ボタンをクリックすると、プロジェクターと接続しません。 別のコンピュータとプロジェクターの接続は保持されます。
EMP NS Connection の初期化に失敗しました。	EMP NS Connection をいったんアンインストールして、その後もう一度EMP NS Connection をインストールしてください。  『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「EasyMP Software をアンインストールしたいときは」、 「EasyMP Software のインストール」
プロジェクターとの通信エラーが発生しました。プロジェクターへの再接続を実施します。よろしいですか？	コンピュータとプロジェクターの間で通信エラーが発生し、接続が切断されました。 「はい」ボタンをクリックすると、再接続を行います。それでも接続できない場合は、コンピュータ側のネットワーク設定とプロジェクター側のEasyMPのネットワーク設定を確認してください。 ネットワーク設定について  『EasyMP ネットワーク設定ガイド』 「いいえ」ボタンをクリックすると、切断された状態のままメッセージ画面を閉じます。
キーワードが間違っていたため接続できないプロジェクターがあります。	プロジェクターキーワードが設定されているプロジェクターへの接続時に、間違ったプロジェクターキーワードを入力しました。 プロジェクターキーワードは、プロジェクターの接続待機画面に表示されていますので確認してください。いったん接続を切断してから、再接続して接続時に表示されるキーワード入力画面で、そのプロジェクターキーワードを入力します。  『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「コンピュータとプロジェクターをネットワーク接続する」





確認	対処法
ネットワークアダプタの情報取得に失敗しました。 ネットワークの設定を確認し再度起動してください。	次の点を確認します。 ・コンピュータにネットワークアダプタが装着されていますか。 ・コンピュータに、使用するネットワークアダプタのドライバがインストールされていますか。 確認後、コンピュータを再起動して、もう一度接続の操作を行います。 それでも接続できない場合は、次を確認してください。 コンピュータ側のネットワーク設定とプロジェクター側のEasyMPのネットワーク設定を確認してください。 ネットワーク設定について 『EasyMP ネットワーク設定ガイド』
SXGAを超える解像度をサポートしていないプロジェクターがあります。パソコンの解像度を下げて再接続してください。	接続先のプロジェクターの中にELP-735があります。コンピュータの画面の解像度を、SXGA (1280×1024) 以下に変更してください。
応答しないプロジェクターが存在します。	複数のプロジェクターに同時に接続しようとしたましたが、そのうち1台または複数台のプロジェクターに接続できませんでした。接続できたプロジェクターはそのまま使用できます。 接続できなかったプロジェクターに接続したい場合は、いったん接続を切断してからもう一度接続してください。それでも接続できない場合は、コンピュータ側のネットワーク設定とプロジェクター側のEasyMPのネットワーク設定を確認してください。 ネットワーク設定について 『EasyMP ネットワーク設定ガイド』
プロジェクターに表示されたキーワードを入力してください。	EasyMP待機画面に表示されているプロジェクターキーワードを確認し、そのプロジェクターキーワードを入力してください。
指定したIP アドレスのプロジェクターは見つかりませんでした。	接続したいプロジェクターのEasyMPの環境設定で、有線LANまたはアクセスポイントモード(無線LAN)を使う設定になっているか確認します。無線LANの設定画面で「簡単接続モード」が選択されている場合は、アクセスポイントモードに設定を変更します。 次に、EasyMPの環境設定の「有線LAN」-「基本設定」、または「無線LAN」-「基本設定」で「IPアドレス」を確認し、その「IPアドレス」をIP指定接続モード接続時に指定してください。 『EasyMP 活用ガイド』「接続したいプロジェクターが表示されないときは」 それでも接続できない場合は、コンピュータ側のネットワーク設定と、プロジェクター側のEasyMPのネットワーク設定を確認してください。 ネットワーク設定について 『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「アクセスポイントモードまたは有線LANモードで接続する」
パソコンの画面の領域が、XGA(1024x768pixel) より大きい場合、画像転送のパフォーマンスが低下します。接続処理を続行しますか？ Windowsの場合	プロジェクターに接続するコンピュータの画面の解像度がXGA(1024×768)を超えています。 「はい」をクリックすると、プロジェクターと接続します。ただし、投写画面の表示速度が遅くなります。投写画面の表示速度が遅くなることを避けたい場合は、「いいえ」をクリックして、コンピュータの画面の解像度をXGA(1024×768)以下に変更してください。



確認	対処法
パソコンの画面の色が24ビット以上の場合、画像転送のパフォーマンスが低下します。NS Connectionはパフォーマンスの低下を軽減するために16ビットに変換して接続します。接続処理を続行しますか？ Windowsの場合	プロジェクターに接続するコンピュータの画面の解像度がXGA (1024×768)を超え、かつ画面の色が、24ビット以上に設定されています。 「はい」をクリックすると、プロジェクターと接続します。ただし、投写画面は16ビットカラーになります。

上記以外のエラーメッセージが表示された場合は、EMP NS Connectionのヘルプをご覧ください。

EMP SlideMaker2実行時のエラーメッセージ(EMP-835のみ)

確認	対処法
** .SIT は既に登録されています。 (** はシナリオファイル名)	すでに「オートランシナリオファイルリスト」に追加されているシナリオファイルを、もう一度追加することはできません。☛『EasyMP 活用ガイド』「シナリオの転送」
ディスクの空き容量が不足しています。	シナリオ転送先ドライブの空き容量が不足しており、シナリオを転送できません。不要なファイルを削除するなどして、シナリオファイルを転送できるように転送先ドライブの空き容量を確保してください。
** には無効なパスが含まれています。 (** はシナリオファイル名を含むパス名)	開こうとしたファイルのパスが見つかりませんでした。次の原因が考えられます。 •最後にEMP SlideMaker2で保存した以降に、シナリオファイルを他のフォルダに移動した。 •最後にEMP SlideMaker2で保存した以降に、シナリオファイルがあるフォルダ名を変更した。 •開こうとしたシナリオファイルが削除されている。 「ファイル」-「開く」を選択して目的のシナリオファイルを開くか、Windows のファイル検索機能などを使って検索してください。
** へのアクセス中にディスクがいっぱいになりました。 (** はシナリオファイル名を含むパス名)	作業用フォルダがあるドライブの空き容量が不足しており、シナリオファイルを保存できませんでした。不要なファイルを削除するなどして、シナリオファイルを保存できるように作業用フォルダがあるドライブの空き容量を確保してください。
指定されたドキュメントはオープンできません。	シナリオに追加しようとしたPowerPoint ファイルが壊れているか、正しくないため使用できません。他のPowerPoint ファイルを使用してください。
違う名前か、違うディレクトリを指定してください	同名のファイルや作業用フォルダがすでに存在しています。シナリオ名または作業用フォルダ名を変更して、保存してください。





EMP Monitor実行時のエラーメッセージ

確認	対処法
パスワードが正しくありません。	まちがったパスワードを入力しました。正しいパスワードを入力してください。パスワードを忘れてしまった場合は、プロジェクターのEasyMPの環境設定の「有線LAN」－「基本設定」、または「無線LAN」－「基本設定」で「WEB コントロール用パスワード」を確認してください。
入力されたIP アドレスのプロジェクターに接続できません。	•EMP-835をお使いの場合 接続したいプロジェクターのEasyMPの環境設定で、有線LANまたはアクセスポイントモード(無線LAN)を使う設定になっているか確認します。「無線LAN」－「基本設定」で「簡単接続モード」が選択されている場合は、「アクセスポイントモード」に設定を変更します。 次に、EasyMPの環境設定の「有線LAN」－「基本設定」、または「無線LAN」－「基本設定」で「IPアドレス」を確認し、その「IPアドレス」をIP指定接続モード接続時に指定してください。☞『EMP Monitor 操作ガイド』「IPアドレスを使った登録(マニュアル登録)」 それでも接続できない場合は、コンピュータ側のネットワーク設定と、プロジェクター側のEasyMPのネットワーク設定を確認してください。 ネットワーク設定について ☞『EasyMP ネットワーク設定ガイド』「アクセスポイントモードまたは有線LANモードで接続する」 •EMP-830をお使いの場合 接続したいプロジェクターの環境設定メニューで「拡張設定」→「ネットワーク」を選択し、IPアドレスを確認します。次に、そのIPアドレスをIP指定接続モード接続時に指定してください。 ☞『EMP Monitor操作ガイド』「IPアドレスを使った登録(マニュアル登録)」 それでも接続できない場合は、コンピュータ側とプロジェクター側のネットワークの設定を確認してください。☞ p.80



付 録

ここでは、メンテナンス方法など、本機を今後も長くご使用いただくための補足的な知識について説明しています。

お手入れの方法.....	104
• 各部の掃除.....	104
• 本体の掃除.....	104
• レンズの掃除.....	104
• エアーフィルタ・吸気口の掃除.....	104
• 消耗品の交換.....	105
• ランプの交換時期.....	105
• ランプの交換方法.....	105
• ランプ点灯時間の初期化.....	107
• エアーフィルタの交換方法.....	108
ユーザーロゴの登録.....	109
オプション・消耗品一覧.....	111
• オプション品.....	111
• 消耗品.....	111
用語解説.....	112

ESC/VP21コマンド一覧.....	115
• コマンドリスト.....	115
• 通信プロトコル.....	115
• ケーブル配線.....	115
• シリアル接続.....	115
• USB 接続.....	116
• USB 通信の準備.....	116
PJLinkについて(EMP-835のみ).....	117
対応解像度一覧.....	118
• コンピュータ /RGB ビデオ.....	118
• コンポーネントビデオ.....	118
• コンポジットビデオ /S- ビデオ.....	118
仕様一覧.....	119
外形寸法図.....	122
お問い合わせ先.....	124

ここでは、お手入れの方法や消耗品の交換などのメンテナンスについて説明します。

各部の掃除

本体が汚れたり、映像の写りが悪くなったら掃除をしてください。



注意

掃除を行う前に、別冊の『安全にお使いいただくために / サポートとサービスのご案内』を必ずお読みください。

■ 本体の掃除

本体の汚れは柔らかい布で軽くふき取ってください。
汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に布をひたしてかたくしぼり、軽くふき取ってから乾いた布で仕上げてください。



注意

ワックス、ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使わないでください。ケースが変質したり、塗料がはげたりすることがあります。

■ レンズの掃除

レンズの汚れは、市販のメガネ拭きなどで軽くふき取ってください。



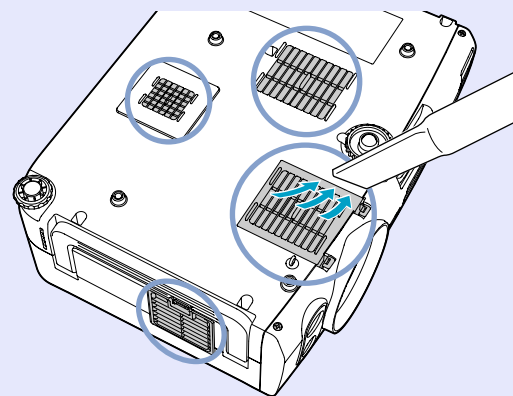
注意

レンズの表面は傷つきやすいので、かたいものでこすったり、たたいたりしないでください。

■ エアークフィルタ・吸気口の掃除

エアークフィルタや吸気口にホコリがたまると、本機内部の温度が上昇して故障や光学部品の早期劣化の原因となります。
約3ヶ月に一度は掃除を行うことをお勧めします。ホコリの多い環境でお使いの場合は、より短い周期で掃除を行ってください。

- 側面と底面の吸気口
本機を裏返して掃除機で吸い取ります。



ポイント

エアークフィルタが破れたり、掃除を行ってもメッセージが表示される場合は交換時期です。新しいエアークフィルタに交換してください。
☛「エアークフィルタの交換方法」p.108

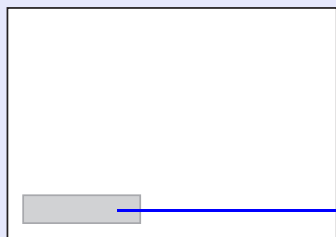
消耗品の交換

ここではランプとエアークフィルタの交換方法について説明します。

■ ランプの交換時期

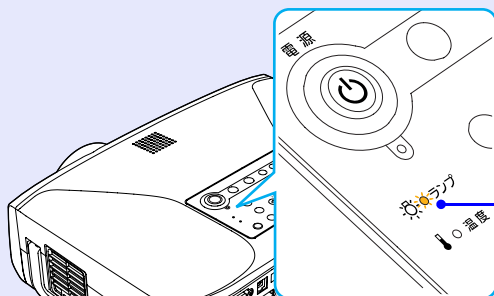
次の場合は、ランプを交換してください。

- 投写を開始したときに「投写ランプを交換してください。」とメッセージが表示されたとき



メッセージが表示されます

- ランプインジケータがオレンジ色に点滅したとき



オレンジ色に点滅

- 初期に比べ、明るさや画質が落ちたとき



ポイント

- 交換メッセージは、初期の明るさや画質を維持するため、次の時間に表示されます。☛「輝度切替」p.73
 - ・高輝度で使い続けた場合：約1900時間
 - ・低輝度で使い続けた場合：約2900時間
- 交換時期を超えて使い続けると、ランプが破裂する可能性が一段と高くなります。ランプ交換のメッセージが表示されたら、まだランプが点灯する状態でも、すみやかに新しいランプと交換してください。
- 個々のランプの特性や使用条件などで、メッセージが表示される前に暗くなったり、点灯しなくなるものがあります。交換用ランプをあらかじめ準備しておくことをお勧めします。
- 交換用ランプはお近くのエプソン商品取扱店および、エプソンOAサプライ株式会社フリーダイヤル0120-251-528でお買い求めください。

■ ランプの交換方法

⚠ 警告

ランプが点灯しなくなり交換する場合は、ランプが割れている可能性があります。
本機を天吊りで使用していてランプ交換を行う場合は、ランプが割れていることを想定し、ランプカバーの真下に立たずに、横から作業してください。ランプカバーはそっと取り外してください。ランプカバーを開ける際に細かいガラス破片が落ちてくる可能性があります。万一、目や口にガラス破片が入った場合は、直ちに医師の診察を受けてください。

⚠ 注意

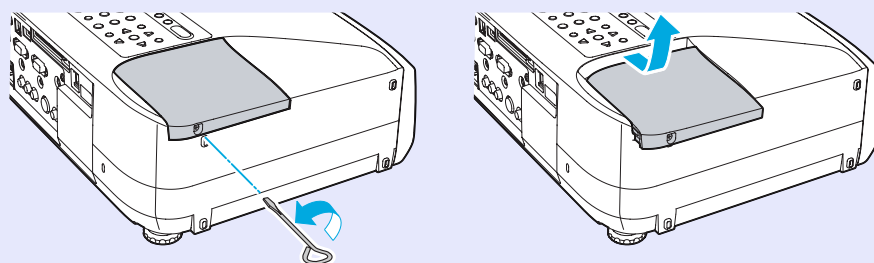
ランプが十分冷えてからランプカバーを外してください。熱で、やけど・けがの原因となることがあります。ランプが十分冷えるには、電源を切ってから約1時間必要です。

操作

1 本機の電源を切り、電源ケーブルを外します。

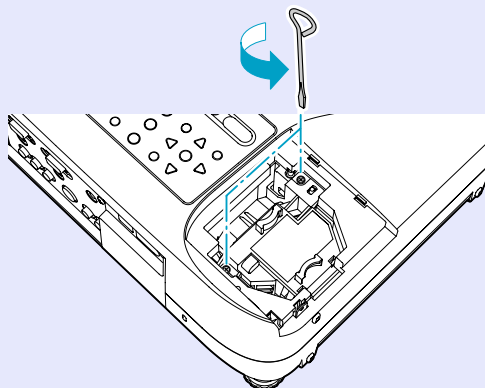
2 ランプが十分冷えてから、本体上面のランプカバーを外します。

ランプが十分冷えるには、電源を切ってから約1時間必要です。側面のランプカバー固定ネジを、交換用ランプに同梱のドライバ、または+のドライバでゆるめます。ランプカバーをまっすぐスライドさせて、持ち上げて取り外します。



3 ランプ固定ねじ2本をゆるめます。

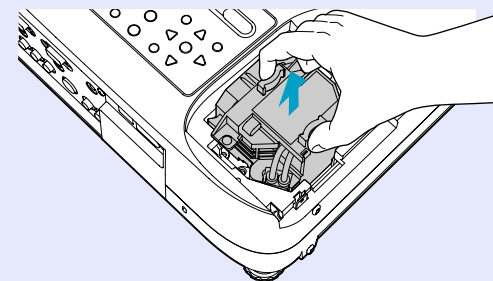
ランプを本体に固定しているランプ固定ねじ2本を、交換用ランプに同梱のドライバ、または+のドライバでゆるめます。



4 古いランプを取り外します。

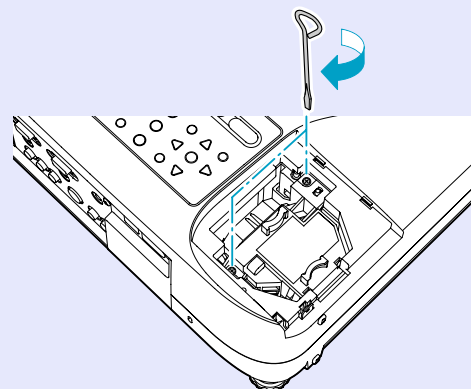
図のように、つまみ部分を持ち、ランプを引き抜きます。ランプが割れている場合は、お買い上げの販売店、またはエプソンサービスコールセンターにご相談ください。

☛「お問い合わせ先」p.124



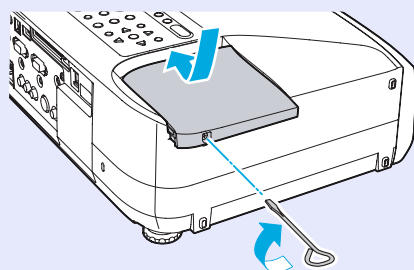
5 新しいランプを取り付けます。

ランプを収納部の形に合う向きにして、カチッと音がするまでしっかり押し込み、ランプ固定ねじ2本を締めます。



6 ランプカバーを取り付けます。

カバーをスライドさせ、元の位置に戻し、側面のランプカバー固定ネジを締めます。



注意

- ランプは確実に取り付けてください。本機は安全のため、ランプカバーを外すと自動的にランプが消灯します。ランプやランプカバーの取り付けが不十分だとランプが点灯しません。
- ランプには水銀が含まれています。使用済みのランプは、地域や会社の蛍光管の廃棄ルールに従って廃棄してください。

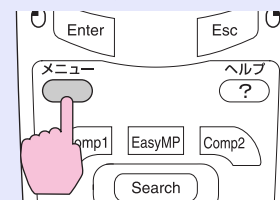
操作

1

電源ケーブルを接続し、本機の電源を入れ、[メニュー]ボタンを押します。

環境設定メニューが表示されます。

リモコン



本体



2

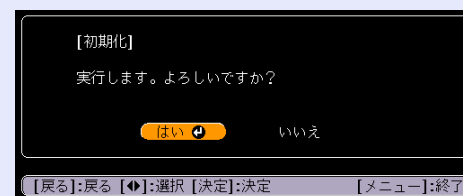
「初期化」→「ランプ点灯時間初期化」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。



3

「はい」を選択して、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。

ランプ点灯時間が初期化されます。



■ ランプ点灯時間の初期化

ランプ交換をした後は、必ずランプ点灯時間の初期化をしてください。

本機にはランプ点灯時間のカウンタが内蔵されており、このカウンタを元にランプ交換のメッセージを表示します。



ポイント

ランプ点灯時間の初期化は、ランプを交換したとき以外は行わないでください。ランプの交換時期が正しく表示されなくなります。

■ エアーフィルタの交換方法

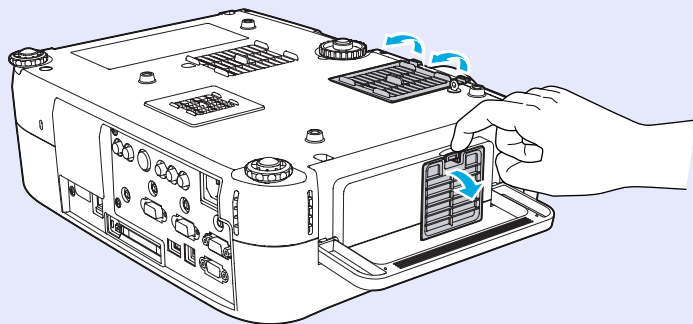
エアーフィルタが破れたり、掃除を行ってもメッセージが表示される場合は交換時期です。

本機を天吊り設置している状態でもエアーフィルタの交換ができます。

操作

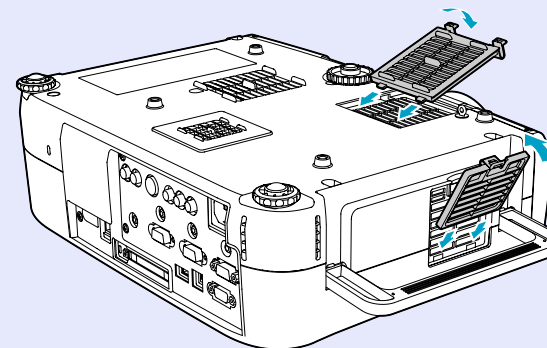
1 本機の電源を切り、電源ケーブルを外します。

2 エアーフィルタを取り外します。
ツメを押さえるとロックが外れますので、エアーフィルタを持ち上げて外します。
エアーフィルタは2枚あります。



3 新しいエアーフィルタを取り付けます。

エアーフィルタの一方のツメを本機に差し込み、もう一方をカチッと音がするまで押し込みます。



注意

使用済みのエアーフィルタは、地域や会社の廃棄ルールに従って廃棄してください。

エアーフィルタ枠部：プラスチック(PC+ABS樹脂)

フィルタ部：ポリウレタンフォーム

現在表示している映像をユーザーロゴとして登録します。



注意

ユーザーロゴを保存中にダイレクトパワーオフを行うとユーザーロゴが正しく保存されないことがあります。この場合は、ユーザー登録を最初からやり直してください。



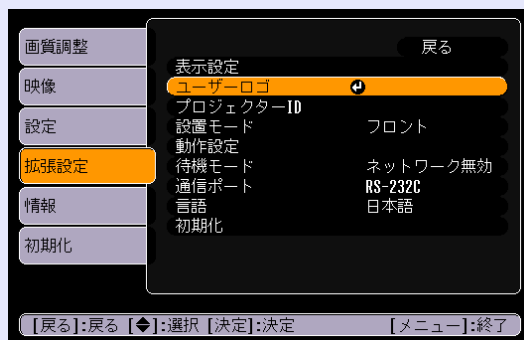
ポイント

- ユーザーロゴの登録を実行すると、現在登録されているユーザーロゴは消去されます。
- パスワードプロテクトの設定で「ユーザーロゴ保護」をオンに設定していると、ユーザーロゴの登録はできません。「ユーザーロゴ保護」をオフに設定してから実行してください。➡ p.45

操作

1 ユーザーロゴとして登録したい映像を投写し、リモコンまたは本体の[メニュー]ボタンを押します。

2 「拡張設定」→「ユーザーロゴ」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。

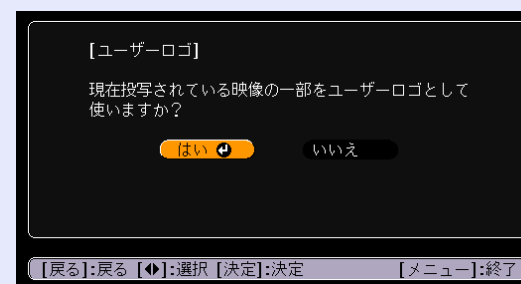


ポイント

台形補正やEズームを行っている場合、「ユーザーロゴ」を選択すると、台形補正やEズームは解除されます。

3

サブメニューで「はい」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。



ポイント

「はい」を決定すると、映像信号の解像度そのまま表示されるため、本機のパネル画素数以外の解像度の映像を投写している場合とビデオ映像を投写している場合とでは、表示サイズが変わります。

4 登録する映像と選択枠が表示されるので、使う位置を選択します。

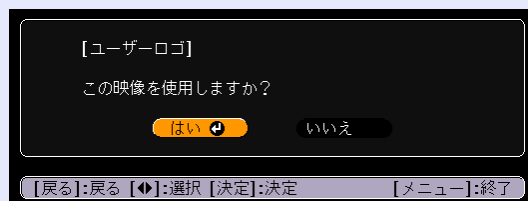
リモコンの[○]ボタンを傾けるか、本体の[△][□][◀][▶]ボタンを押して、ユーザーロゴとして使う部分を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。



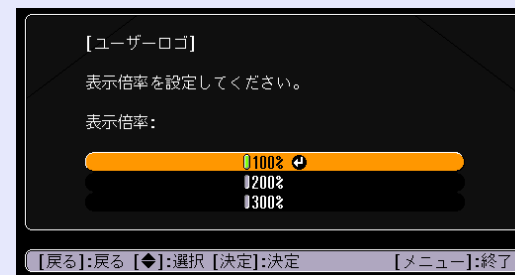
ポイント

登録できるサイズは480×360ドットです。

5 使用確認画面で「はい」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。

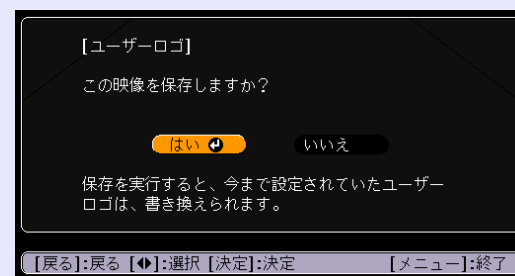


6 表示倍率設定画面で倍率を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。



7 保存確認画面で「はい」を選択し、リモコンの[Enter]ボタン、または本体の[決定]ボタンを押します。

映像が保存されます。保存が終了すると「ユーザーロゴの設定が終了しました。」とメッセージが表示されます。



注意

- 保存にはしばらく時間がかかります(約15秒)。保存している間は、本機や接続している機器を操作しないでください。故障の原因になります。
- ユーザーロゴは一度登録すると、初期設定状態には戻せません。



下記のオプション・消耗品を用意しています。用途に合わせてお買い求めください。これらのオプション品類は2005年4月現在のものです。予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

オプション品

ソフトキャリングケース ELPKS52 ハードトラベルケース ELPKS53 ハンドキャリングするときに使います。
60型スクリーン ELPSC07 80型スクリーン ELPSC08 100型スクリーン ELPSC10 携帯型ロールスクリーンです。(アスペクト比▶ 4:3)
携帯スクリーン(50型) ELPSC06 持ち運びに便利なコンパクトスクリーンです。(アスペクト比4:3)
コンピュータケーブル ELPKC02 (ミニD-Sub 15pin オス/ミニD-Sub 15pin オス用 1.8m) 製品同梱のコンピュータケーブルと同等品です。
コンピュータケーブル ELPKC09 (ミニD-Sub 15pin オス/ミニD-Sub 15pin オス用 3m) コンピュータケーブル ELPKC10 (ミニD-Sub 15pin オス/ミニD-Sub 15pin オス用 20m) 製品同梱のコンピュータケーブルでは短いときの延長ケーブルです。
コンポーネントビデオケーブル ELPKC19 (ミニD-Sub 15pin オス/3RCA オス用 3m) コンポーネントビデオ信号を出力する機器と接続するときに使います。
D端子ケーブル ELPKC22 (ミニD-Sub 15pin オス/D端子 オス用 3m) BSデジタル放送チューナと接続するときに使います。
リモコンケーブルセット ELPKC28 (φ3.5mmミニピンプラグ(オスとオス)10m) (φ3.5mmミニピンジャック(オスとメス)10m) 離れたところから確実にリモコンを操作したいときに使います。

天井プレート※ ELPFC03
パイプ370 (370mm シルバー)※ ELPFP04
パイプ570 (570mm シルバー)※ ELPFP05
パイプ770 (770mm シルバー)※ ELPFP06
高天井および化粧天井に取り付けるときに使います。

天吊り金具※ ELPMB07
本機を天井に取り付けるときに使います。

マルチメディアビューワー ELPDC05
書籍などを投写するときなどに使います。

※ 天吊り設置には特別な技術が必要となります。お買い求めいただいた販売店、またはエプソンサービスコールセンターにご相談ください。

☛「お問い合わせ先」p.124

消耗品

交換用ランプ ELPLP31
使用済みランプと交換します。

エアークリスタルセット ELPAC07
(2セット(4枚)入り)
使用済みエアークリスタルと交換します。

本書で使用している用語で、本文中に説明がなかったもの、あるいは難しいものを簡単に説明します。詳細については市販の書籍などを利用してください。

3-2プルダウン機能	映画フィルムと同じ24フレームで記録された入力ソースを、60フレームのプロGRESSIVE信号へと直接変換する機能です。これにより、24フレームで記録されたDVDソフトなどを大画面に映し出す場合にも、映画フィルムの質感を損なわず、自然で緻密な映像として再生できます。
CCX	Cisco Compatible Extensionsの略で、シスコシステムズ社の無線LANセキュリティ技術です。CCXでは、 RADIUSサーバ を使って認証を行います。CCXには認証方式がいくつかありますが、本機では「 LEAP 」を使用します。
DFP	Digital Flat Panel の略で、ビデオ信号をデジタル伝送する規格のことをいいます。
DHCP	Dynamic Host Configuration Protocolの略で、ネットワークに接続する機器に、 IPアドレス を自動的に割り当てるプロトコルのことです。
DPOF	Digital Print Order Formatの略で、デジタルカメラで撮影した写真をプリントするための情報(プリントしたい写真とその枚数の指定など)を、メモ리카ードなどの記録媒体に記録するフォーマットです。
DVI	Digital Visual Interface の略で、ビデオ信号をデジタル伝送する規格のことをいいます。 DVI はパソコン以外にデジタル家電もターゲットにした規格であり、DFP よりも高解像度の画像が転送でき、デジタル信号の暗号化機能もあります。
ESSID	ESSとはExtended Service Set(拡張サービスセット)の略です。ESSIDは、無線LANの環境で相手と接続するための識別データです。ESSIDが一致している機器どうして無線通信できます。
HDTV	High-Definition Televisionの略で、次の条件を満たす高精細なシステムに適用されます。 ・垂直解像度750p、1125i以上 (pは プログレッシブ 走査、iは インタレース 走査) ・画面の アスペクト比 は16:9 ・ ドルビーデジタル 音声の受信、再生(あるいは出力)
IPアドレス	ネットワークに接続されたコンピュータを識別するための数字のことです。
LEAP	CCX の認証方式のひとつです。電子証明書は使わず、ユーザー名とパスワードで認証を行います。
MACアドレス	Media Access Controlアドレスの略です。MACアドレスはネットワークアダプタごとの固有のID番号です。すべてのネットワークアダプタは1 つずつ固有の番号が割り当てられており、これをもとにネットワークアダプタ間の送受信が行われます。
NDIS	Network Driver Interface Specificationの略で、Microsoft社などによって決められた、無線LANカードなどのネットワークカードの機能を利用するためのネットワークドライバの標準仕様です。OSやアプリケーションソフトとドライバが通信するための手順や、ドライバとネットワークカードが通信するための手順などを規定しています。
RADIUSサーバ	「RADIUS」はRemote Authentication Dialin User Serviceの略で、無線LANをはじめとする、様々なネットワークサービスでの認証に利用されるプロトコルです。RADIUSサーバはRADIUSを使用した 認証サーバ で、ユーザー名やパスワードなどの情報を持ち、無線LANアクセスポイントへのアクセスに対する認証を集中的に行います。RADIUSサーバを利用すると、無線LANアクセスポイントが複数ある場合でも、各アクセスポイントに個別にユーザー情報を登録する必要がなく、アクセスポイントやユーザーを集中管理することができます。





S-ビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を分けて、高画質を追求する信号です。 Y(輝度信号)C(色信号)の2つの独立した信号からできている映像をいいます。
SDTV	Standard Definition Televisionの略で、HDTVの条件を満たさない標準テレビジョン放送のことです。
SNMP	Simple Network Management Protocolの略で、TCP/IPネットワークにおいて、ルータやコンピュータ、端末など、ネットワークに接続された通信機器をネットワーク経由で監視・制御するためのプロトコルです。
sRGB	各画像装置が表現する色をコンピュータのオペレーティングシステム(OS)やインターネットで簡単に扱うために規定された色空間に関する国際標準です。
SVGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横800ドット×縦600ドットのことを呼びます。
SXGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,280ドット×縦1,024ドットのことを呼びます。
TKIP	Temporal Key Integrity Protocolの略で、 WPA で使用する暗号化方式です。一定間隔で自動的に暗号キーを更新し、暗号を解読されにくくします。
USB	Universal Serial Busの略で、比較的低速な周辺機器とパソコン間を接続するためのインターフェイスです。
UXGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,600ドット×縦1,200ドットのことを呼びます。
VGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横640ドット×縦480ドットのことを呼びます。
WEP	Wired Equivalent Privacyの略で、通信中のデータを暗号化するセキュリティ方法です。 WEPで暗号キーを登録しておくと同じ暗号キーが登録されている機器どうしでないとデータの通信が行なえなくなります。
WPA	Wi-Fi Protected Accessの略で、 WEP の弱点を補強しセキュリティ強度を向上させた暗号化規格です。暗号化方式に TKIP を使います。
XGA	IBM PC/AT互換機(DOS/V機)の信号で横1,024ドット×縦768ドットのことを呼びます。
YCbCr	現行のテレビ(NTSC方式)で、カラーバー信号波の中にある伝送用信号のことです。Y(輝度信号)CbCr(クロマ(色)信号)で表します。
YPbPr	ハイビジョンで、カラーバー信号波の中にある伝送用信号のことです。Y(輝度信号)PbPr(色差信号)で表します。
アスペクト比	画面の縦と横の比率をいいます。縦横の比率が16:9と横長になっている画面をワイド画面といいます。標準画面のアスペクト比は4:3です。
色温度	画質の色調を決定する特性で、色温度が高いと青みがかった色合いになり、色温度が低いと赤みがかった色合いになります。
インタレース	1つの画面を表示するときに情報を横方向に細かい線に分け、左から右へ、上から下へ順次表示させます。このとき偶数線分と奇数線分を交互に表示する方法をいいます。
クールダウン	投写によって高温になっているランプを冷却する処理です。リモコン、または本体の[電源]ボタンを押し電源を切ると自動的に行われます。
ゲートウェイ	サブネットマスクによって分割したネットワーク(サブネット)を超えて通信するためのサーバ(ルータ)のことです。
コントラスト	色の明暗の差を強くしたり弱くしたりすることにより、文字や絵がハッキリ見えたり、ソフトに見えたりすることです。この調整をコントラストの調整といいます。
コンポーネントビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を分けて、高画質を追求する信号です。 ハイビジョンにおいて、Y(輝度信号)Pb、Pr(色差信号)の3つの独立した信号からできている映像をいいます。





コンポジットビデオ	ビデオの明るさ信号や色信号を混合した、一般的な家庭用ビデオ信号(NTSC、PAL、SECAM)です。カラーバー信号の中の伝送用信号Y(輝度信号)とクロマ(色)信号を重ねて1つの信号にしています。
サブネットマスク	IPアドレスから、分割したネットワーク(サブネット)のネットワークアドレスに使用するビット数を定義する数値のことです。
スクイーズモード	16:9の横長ワイド映像を水平方向に圧縮して、4:3の映像としてビデオソフトに収録する方法です。本機のスクイーズモードを使って投写すると、元の16:9のワイド映像に戻ります。
チャンネル	同じ周波数を使用して無線通信する機器が多いと、通信速度が低下します。その場合、無線LANネットワークごとに無線チャンネルを設定することで、他の無線LANの干渉を避けることができます。
同期	コンピュータから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の位相(山のずれ)を合わせることを同期を合わせるといいます。同期が合っていないと投写映像にちらつき、ぼやけ、横方向のノイズが出ます。
盗難防止用ロック	プロジェクターのケースに備え付けられた穴に市販の盗難防止用ケーブルを通し、机や柱などに固定できます。kensington社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。日本正規輸入代理店の連絡先は、以下のとおりです。 七陽商事株式会社 情報機器事業部 〒103-0007東京都中央区日本橋浜町2-55-7(ナナヨービル) Tel:03-3663-7787 Fax:03-3669-2367
トラッキング	コンピュータから出力される信号は、ある決まった周波数で出力されます。その周波数にプロジェクターの周波数を合わせないときれいな映像になりません。信号の周波数(山の数)を合わせることをトラッキングを合わせるといいます。トラッキングが合っていないと投写映像に幅広の縦の縞模様が出ます。
トラップIPアドレス	SNMPで異常を通知する場合の、通知先のコンピュータの IPアドレス のことです。
ドルビーデジタル	ドルビー研究所で開発されたサウンド方式です。通常のステレオは2つのスピーカを用いた2ch方式ですが、ドルビーデジタルは、それにセンタースピーカ、リア2chスピーカ、サブウーファを追加した6ch(5.1ch)方式となっています。
認証サーバ	ユーザー認証を集中的に行なうためのサーバです。認証サーバを使うと、ユーザー情報の管理とユーザー認証作業を一元化することができます。また、認証サーバは高度な認証方式を備えていることが多いため、セキュリティ対策にも有効です。
フィルム判定機能	入力ソースが24Hzプログレッシブのフィルムソースかどうかを判別する機能です。
プログレッシブ	1つの画面を作り出す情報を上から下へ順次走らせて1画面を構成する方式をいいます。
リサイズ表示	本機のパネルサイズの画素数より多い、あるいは少ない解像度のコンピュータからの映像も表示サイズいっぱいになるように投写する機能です。
リフレッシュレート	ディスプレイの発光体は、その明るさと色をごく短時間保持します。そのため発光体をリフレッシュするために1秒間に何度も画像を走査しなければなりません。その速度をリフレッシュレートと呼び、ヘルツ(Hz)で設定します。



コマンドリスト

プロジェクターに電源ONのコマンドを送信すると、電源がONになり、プロジェクターがウォームアップ状態になります。電源ONの状態になったときにコロン‘:’ (3Ah)を返信します。

プロジェクターはコマンドを実行後、‘:’を返信し、次のコマンドを受け付けます。

異常終了の場合は、エラーメッセージを出力した後に‘:’を返信します。

項 目	コマン
電源のON/OFF	ON PWR ON
	OFF PWR OFF
信号切り替え	コンピュータ1/コンポーネント SOURCE 10
	コンピュータ2/コンポーネント SOURCE 20
	ビデオ SOURCE 41
	S-ビデオ SOURCE 42
	EasyMP(EMP-865のみ) SOURCE 50
A/Vミュート機能のON/OFF	ON MUTE ON
	OFF MUTE OFF
A/Vミュート機能の切り替え	黒 MSEL 00
	青 MSEL 01
	ユーザーロゴ MSEL 02

※各コマンドの最後に、復帰(CR)コード(0Dh)を追加して送信してください。

通信プロトコル

- ボーレート基準速度 :9600 bps
- データ長 :8 bits
- パリティ :なし
- ストップビット :1 bit
- フロー制御 :なし
- コネクタ形状 :D-sub 9pin (オス)
- プロジェクター入力端子名 :RS-232C

ケーブル配線

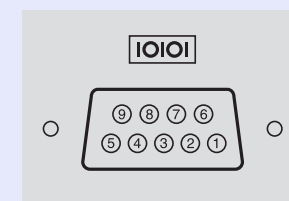
シリアル接続

- コネクタ形状 :D-sub 9pin (オス)
- プロジェクター入力端子名 :RS-232C

<プロジェクター側>



<コンピュータ側>



<プロジェクター側> (PCシリアルケーブル) <コンピュータ側>

GND	5	5	GND
RD	2	3	TD
TD	3	2	RD
DTR	4	6	DSR
DSR	6	4	DTR

信号名	機 能
GND	各信号線の接地
TD	送信データ
RD	受信データ
DSR	データセットレディ
DTR	データターミナルレディ

■ USB 接続

- コネクタ形状 :USB(Bタイプ)

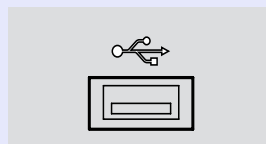
<プロジェクター側>

TypeB

USB



<コンピュータ側>



※[USB TypeA]端子(EMP-835のみ)は、USBハブとしては使えません。

USB通信の準備

USB接続による通信で本機をESC/VP21 コマンドで制御するには、事前に次の準備が必要です。

操作

- 1 エプソンのホームページからお使いのコンピュータに「USB 通信ドライバ(USB-COM Driver)」をダウンロードします。

URLは下記のとおりです。

<http://www.epson.jp/products/download/elp/menu.htm>

- 2 お使いのコンピュータにそのUSB通信ドライバをインストールします。

ダウンロード画面の注意事項をお読みください。

- 3 本機の環境設定メニューで「拡張設定」→「通信ポート」を「USB」に設定します。

- 4 本機の電源を切ります。

- 5 再度、本機の電源を入れます。

本機の電源を入れ直した以降、USB接続による通信が可能になります。

JBMIA(社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会)によりネットワーク対応プロジェクターの制御用プロトコルの標準化が進められ、制御用標準プロトコルPJLink Class1が策定されました。

本機は、JBMIA が策定したPJLink Class1の規格に適合しています。

PJLink Class1で定義されているコマンドのうち、以下の内容を除く全コマンドに対応しており、PJLink 規格適合性検証で適合を確認しています。

非対応コマンド

機 能		PJLinkコマンド
ミュート設定	映像ミュート設定	AVMT 11
	映像ミュート解除	AVMT 10
	音声ミュート設定	AVMT 21
	音声ミュート解除	AVMT 20

PJLinkで定義している入力名と本機の入力端子の対応

入力端子	PJLinkコマンド
コンピュータ1	INPT 11
コンピュータ2	INPT 12
ビデオ	INPT 21
S-ビデオ	INPT 22
EasyMP	INPT 51

「メーカー名問合せ」で表示するメーカー名
SEIKO EPSON CORPORATION

「機種情報問合せ」で表示する機種名
EMP-835



■ コンピュータ /RGB ビデオ

信号	リフレッシュ レート (Hz)	解像度(ドット)	リサイズ表示 [※] 時 画素数(ドット)
VGAEGA		640×350	1024×560
VGA[※]	60/72/75/85/100/ 120,iMac ^{※1}	640×480	1024×768
SVGA[※]	56/60/72/75/85/ 100/120,iMac ^{※1}	800×600	1024×768
XGA[※]	60/70/75/85/100/ 120,iMac ^{※1}	1024×768	1024×768
SXGA[※]	70/75/85/100	1152×864 ^{※2}	1024×768
SXGA	60/75/85	1280×960 ^{※2}	1024×768
		1280×1024 ^{※2}	960×768
SXGA+	60/75/85	1400×1050 ^{※2}	1024×768
UXGA[※]	60/65/70/75/80/85	1600×1200 ^{※2}	1024×768
MAC13"		640×480	1024×768
MAC16"		832×624	1024×768
MAC19"		1024×768	1024×768
MAC21"		1152×870 ^{※2}	1016×768
SDTV[※] 525i (480i) 525p (480p) 625i (576i) 625p (576p)			1024×768 (4:3 アスペクト比[※]) 1024×576 (16:9 アスペクト比)
HDTV[※] 750p (720p)			1024×576
HDTV 1125i (1080i)			1024×576

※1 VGA出力ポートが装着されていない機種には接続できません。

※2 リアル表示時は仮想(ウィンドウ)表示になります。

上記以外の信号が入力された場合でも、映像を投写することができます。

ただし、この場合、機能が制限されることがあります。

■ コンポーネントビデオ

信号	表示モード(ドット)	
	4:3 アスペクト比[※] 表示	16:9 アスペクト比 表示
SDTV[※] 525i (480i), 525p (480p), 625i (576i), 625p (576p)	1024×768	1024×576
HDTV[※] 750p (720p) 16:9	—	1024×576
HDTV 1125i (1080i) 16:9	—	1024×576

■ コンポジットビデオ /S-ビデオ

信号	表示モード(ドット)	
	4:3 アスペクト比[※] 表示	16:9 アスペクト比 表示
TV (NTSC)	1024×768	1024×576
TV (PAL,SECAM)	1024×768	1024×576

商品名	EMP-835	EMP-830
外形寸法	幅365×高さ114×奥行280mm(突起部含まず)	
パネルサイズ	0.8型	
表示方式	ポリシリコンTFT	
画素数	XGA 786,432個(横1024×縦768ドット)×3	
フォーカス調整	電動式	
ズーム調整	電動式(約1:1.6)	
ランプ(光源)	UHEランプ 定格200W 型番:ELPLP31	
音声最大出力	5Wモノラル	
スピーカ	1個	
電源	100-240V±10%、50/60Hz AC	
消費電力		
定格消費電力	300W(100V時)	
待機時消費電力(ネットワーク無効)	1.0W(100V時)	
待機時消費電力(ネットワーク有効)	38W(100V時)	
使用温度範囲	+5℃～+35℃(結露しないこと)	
保存温度範囲	-10℃～+60℃(結露しないこと)	
動作高度	標高0m～2,280m	
質量	約4.7kg	
接続端子		
コンピュータ1/コンポーネント端子	1系統 ミニD-Sub 15pin(メス) 青色	
音声入力端子	1系統 ステレオミニピンジャック	
コンピュータ2/コンポーネント端子	1系統 ミニD-Sub 15pin(メス) 青色	
音声入力端子	1系統 ステレオミニピンジャック	
USB端子※	2系統 USBコネクタ(A、Bタイプ)	1系統 USBコネクタ(Bタイプ)
S-ビデオ端子	1系統 ミニDIN 4Pin	
音声入力端子	1系統 RCAピンジャック×2 (L,R)	
ビデオ端子	1系統 RCAピンジャック	
音声入力端子	1系統 RCAピンジャック×2 (L,R)	
RS-232C端子	1系統 D-Sub 9pin(オス)	
リモート端子	1系統 ステレオミニピンジャック	
モニタ出力端子	1系統 ミニD-Sub 15pin(メス) 黒色	
音声出力端子	1系統 ステレオミニピンジャック	
ネットワーク端子	RJ45×1	



Card Slot(カードスロット)	PCMCIA Type II スロット×1	—
カードスロットで利用できるメモリカード	•コンパクトフラッシュカード (装着時にPCカードアダプタ使用) •ATAフラッシュカード •メモリスティック(装着時にPCカードアダプタ使用) •スマートメディア(装着時にPCカードアダプタ使用) •SD/MMCカード(装着時にPCカードアダプタ使用)	—

※ USB1.1に対応しています。USB端子は、USB対応機器すべての動作を保証するものではありません。



本機にはPixelworks DNXTMのICが搭載されています。

Safety

USA

UL60950 Third Edition

Canada

CSA C22.2 No.60950

European Community

The Low Voltage Directive (73/23/EEC)

IEC60950 3rd Edition

EMC

USA

FCC Part15B Class B (DoC)

Canada

ICES-003 Class B

European Community

The EMC Directive (89/336/EEC)

EN55022, 1998 Class B

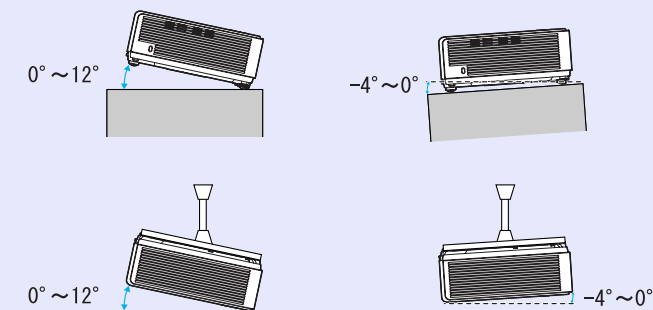
EN55024, 1998

IEC/EN61000-3-2, IEC/EN61000-3-3

Australia/New Zealand

AS/NZS CISPR 22:2002 Class B

傾斜角度



－4°～12°の範囲を超えて傾けて使用すると、故障や事故の原因となります。



**DECLARATION of CONFORMITY**

According to 47CFR, Part 2 and 15
Class B Personal Computers and Peripherals; and/or
CPU Boards and Power Supplies used with Class B
Personal Computers

We :EPSON AMERICA, INC.
Located at :3840 Kilroy Airport Way
MS: 3-13
Long Beach, CA 90806
Tel :562-290-5254

Declare under sole responsibility that the product identified herein, complies with 47CFR Part 2 and 15 of the FCC rules as a Class B digital device. Each product marketed, is identical to the representative unit tested and found to be compliant with the standards. Records maintained continue to reflect the equipment being produced can be expected to be within the variation accepted, due to quantity production and testing on a statistical basis as required by 47CFR 2.909. Operation is subject to the following two conditions : (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Trade Name :EPSON

Type of Product :Projector

Model :EMP-835/EMP-830

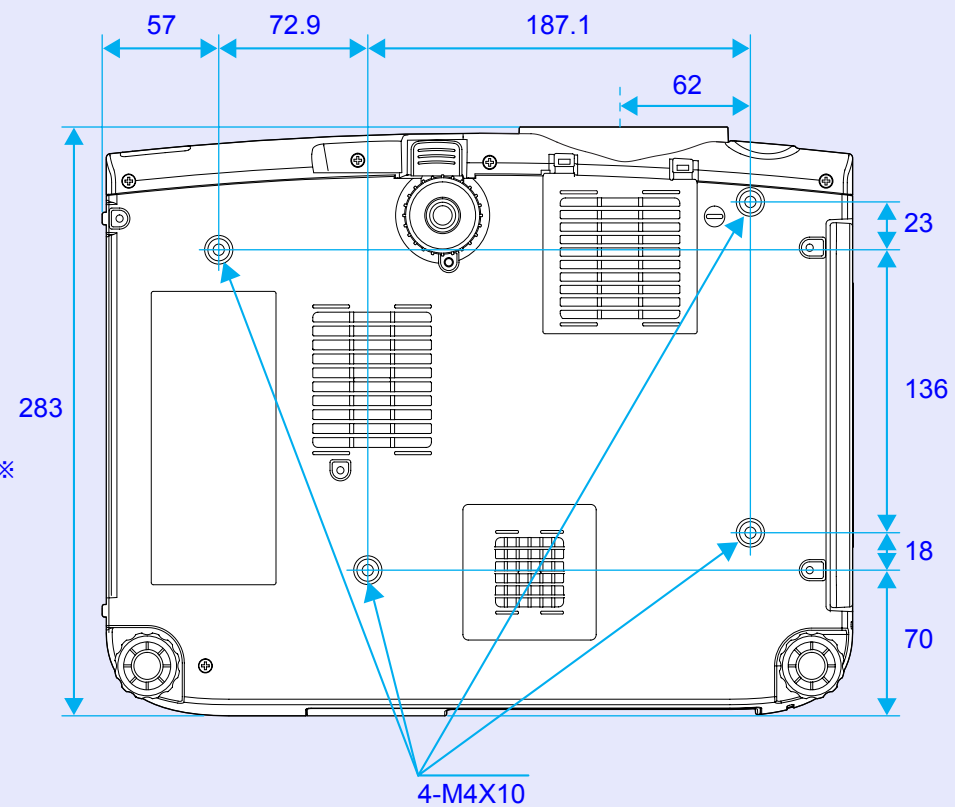
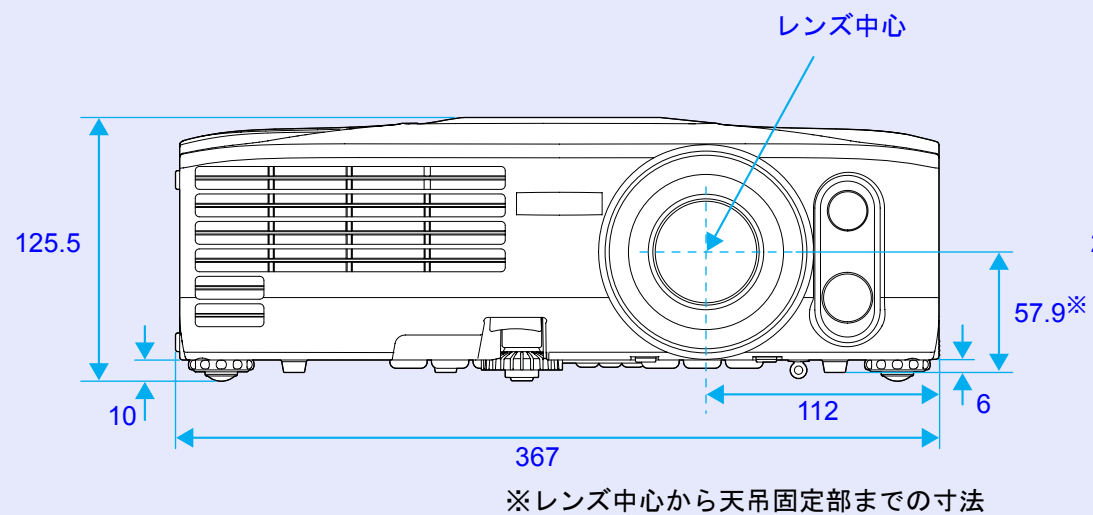
**FCC Compliance Statement
For United States Users**

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio or television reception. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause interference to radio and television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures.

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING

The connection of a non-shielded equipment interface cable to this equipment will invalidate the FCC Certification or Declaration of this device and may cause interference levels which exceed the limits established by the FCC for this equipment. It is the responsibility of the user to obtain and use a shielded equipment interface cable with this device. If this equipment has more than one interface connector, do not leave cables connected to unused interfaces. Changes or modifications not expressly approved by the manufacturer could void the user's authority to operate the equipment.



単位:mm

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、お気付きの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3) 項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- (5) 本製品がお客様により不適當に使用されたり、本書の内容に従わずに取り扱われたり、またはエプソンおよびエプソン指定の者以外の第三者により、修理、変更されたこと等に起因して生じた損害等につきましては、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (6) エプソン純正品、およびエプソン品質認定品以外のオプション品または消耗品を装着してトラブルが発生した場合には、責任を負いかねますのでご了承ください。
- (7) 本書中のイラストと本体の形状は異なる場合があります。

本製品を日本国外へ持ち出す場合の注意

電源ケーブルは販売国の電源仕様にに基づき同梱されています。本機を販売国以外で使用する際には、事前に使用する国の電源電圧や、コンセントの形状を確認し、その国の規格に適合した電源ケーブルを現地にてお求めください。

瞬低(瞬時電圧低下)基準について

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

電源高調波について

この装置は、JIS C 61000-3-2「高調波電流発生限度値」に適合しております。

商標について

IBM、DOS/V、XGAは、International Business Machines Corp.の商標または登録商標です。

Macintosh、Mac、iMacは、Apple Computer Inc.の登録商標です。

Windows、Windows NT、VGAは米国マイクロソフト社の商標または登録商標です。

ドルビーはドルビーラボラトリーズの商標です。

Cisco Systemsは米国その他の国におけるシスコシステムズ株式会社の登録商標です。

Pixelworks、DNXはPixelworks社の商標です。

PJLinkはJBMIAの商標です。

EasyMPはセイコーエプソン株式会社の商標です。

Portions of this software are based in part on the work of the Independent JPEG Group.

Portions Copyright©2003 Instant802 Networks Inc. All rights reserved.

なお、各社の商標および製品商標に対しては特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

本製品は、オープンソースソフトウェアを利用しております。



EPSON

●エプソンのホームページ <http://www.epson.jp>

各種製品情報・ドライバ類の提供、サポート案内等のさまざまな情報を満載したエプソンのホームページです。

FAQ <http://www.epson.jp/faq/>
インターネット エプソンなら購入後も安心。皆様からのお問い合わせの多い内容をFAQとしてホームページに掲載しております。ぜひご活用ください。

●プロジェクターインフォメーションセンター 製品の操作方法・お取り扱い等、技術的な問い合わせに電話でお答えします。

0570-004110 【受付時間】月～金曜日9:00～20:00 土曜日10:00～17:00 (祝日・弊社指定休日を除く)

*ナビダイヤルはNTTコミュニケーションズ(株)の電話サービスの名称です。

*新電電各社をご利用の場合、「0570」をナビダイヤルとして正しく認識しない場合があります。ナビダイヤルが使用できるよう、ご契約の新電電会社へご依頼ください。

*携帯電話・PHS端末・CATVからはご利用いただけませんので、(0263) 54-5800までお電話ください。

●エプソンサービスコールセンター

修理に関するお問い合わせ・出張修理・保守契約のお申し込み先

050-3155-8600 【受付時間】9:00～17:30 月～金曜日 (祝日・弊社指定休日を除く)

上記電話番号はKDDI株式会社の電話サービス **KDDIダイレクト** を利用しています。

なお、下記のように一部ご利用いただけない場合もございます。

*一部のPHSからおかけいただく場合

*一部のIP電話事業者からおかけいただく場合

(ご利用の可否はIP電話事業者間の接続状況によります。上記番号への接続可否についてはご契約されているIP電話事業者へお問い合わせください。)

上記番号をご利用いただけない場合は、携帯電話またはNTTの固定電話 (一般回線) からおかけいただくか、(042) 511-2949におかけくださいますようお願いいたします。

また、ご利用の通話料金は、ご契約されている通信事業者からの請求に、KDDIからの請求が追加されます。

●修理品送付・持ち込み依頼先

お買い上げの販売店様へお持ち込みいただくか、下記修理センターまで送付願います。

拠 点 名	所 在 地	TEL
札幌修理センター	〒060-0034 札幌市中央区北4条東1-2-3 札幌フコク生命ビル10F エプソンサービス(株)	011-219-2886
松本修理センター	〒390-1243 松本市神林1563エプソンサービス(株)	0263-86-7660
東京修理センター	〒191-0012 東京都日野市日野347 エプソンサービス(株)	042-584-8070
福岡修理センター	〒812-0041 福岡市博多区吉塚8-5-75 初光流通センタービル3F エプソンサービス(株)	092-622-8922
沖縄修理センター	〒900-0027 那覇市山下町5-21 沖縄通関社ビル2F エプソンサービス(株)	098-852-1420

【受付時間】月曜日～金曜日 9:00～17:30 (祝日・弊社指定休日を除く)

*予告なく住所・連絡先等が変更される場合がございますので、ご了承ください。

*修理について詳しくは、エプソンサービス(株)ホームページ<http://www.epson-service.co.jp>でご確認ください。

●ドアtoドアサービス (修理品有償ピックアップサービス) に関するお問い合わせ先

ドアtoドアサービスとはお客様のご希望日に、ご指定の場所へ、指定業者が修理品をお引取りにお伺いし、修理完了後弊社からご自宅へお届けする有償サービスです。*梱包は業者が行います。

ドアtoドアサービス受付電話 **0570-090-090** 【受付時間】月～金曜日9:00～17:30 (祝日・弊社指定休日を除く)

*ナビダイヤルはNTTコミュニケーションズ(株)の電話サービスの名称です。

*新電電各社をご利用の場合は、「0570」をナビダイヤルとして正しく認識しない場合があります。ナビダイヤルが使用できるよう、ご契約の新電電会社へご依頼ください。

*携帯電話・PHS端末・CATVからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、下記の電話番号へお問い合わせください。

受付拠点	引き取り地域	TEL	受付拠点	引き取り地域	TEL
札幌修理センター	北海道全域	011-219-2886	福岡修理センター	中四国・九州全域	092-622-8922
松本修理センター	本州 (中国地方を除く)	0263-86-9995	沖縄修理センター	沖縄本島全域	098-852-1420

【受付時間】月曜日～金曜日9:00～17:30 (祝日・弊社指定休日を除く) ※松本修理センターは365日受付可。

*平日の17:30～20:00および、土日、祝日・弊社指定休日の9:00～20:00の電話受付は0263-86-9995 (365日受付可) にて日通諏訪支店で代行いたします。*ドアtoドアサービスについて詳しくは、エプソンサービス(株)ホームページ<http://www.epson-service.co.jp>でご確認ください。

●ショールーム *詳細はホームページでもご確認いただけます。 <http://www.epson.jp/showroom/>

エプソンスクエア新宿 〒160-8324 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル1F
【開館時間】 月曜日～金曜日 9:30～17:30 (祝日・弊社指定休日を除く)

エプソンスクエア御堂筋 〒541-0047 大阪市中央区淡路町3-6-3 NMプラザ御堂筋1F
【開館時間】 月曜日～金曜日 9:30～17:30 (祝日・弊社指定休日を除く)

● MyEPSON

エプソン製品をご愛用の方も、お持ちでない方も、エプソンに興味をお持ちの方への会員制情報提供サービスです。お客様にピッタリのおすすめ最新情報をお届けしたり、プリンタをもっと楽しくお使いいただくお手伝いをします。製品購入後のユーザー登録もカンタンです。さあ、今すぐアクセスして会員登録しよう。

インターネットでアクセス!

<http://myepson.jp/>

▶ カンタンな質問に答えて会員登録。

●消耗品のご購入

お近くのEPSON商品取扱店及びエプソンOAサプライ (ホームページアドレス <http://epson-supply.jp>)

またはフリーコール 0120-251528) で買い求めください。

エプソン販売 株式会社

〒160-8324 東京都新宿区西新宿6-24-1 西新宿三井ビル24階

セイコーエプソン株式会社

〒392-8502 長野県諏訪市大和3-3-5

70306002